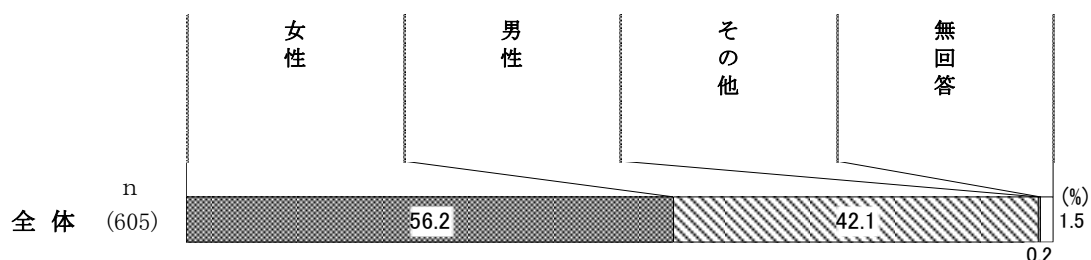


第2章 調査結果の詳細

1. 回答者のプロフィール

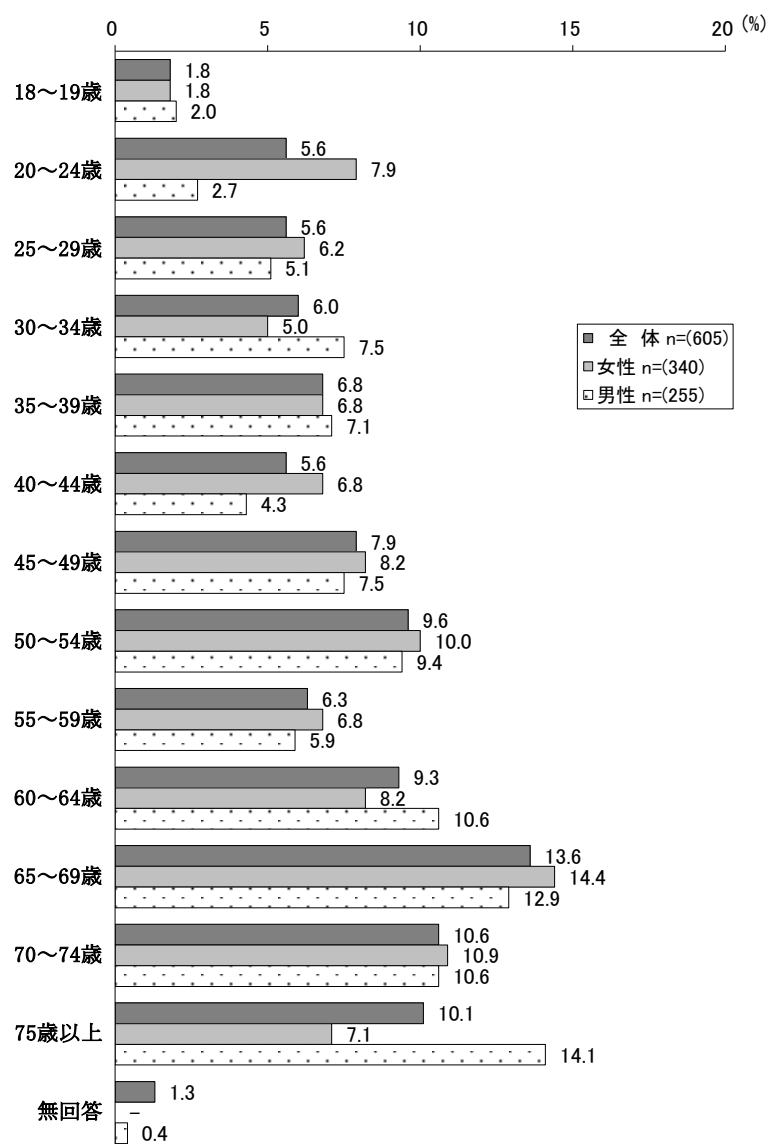
(1) 性別

回答者の性別をみると、女性が約6割（56.2%）、男性が約4割（42.1%）となっている。



(2) 年代

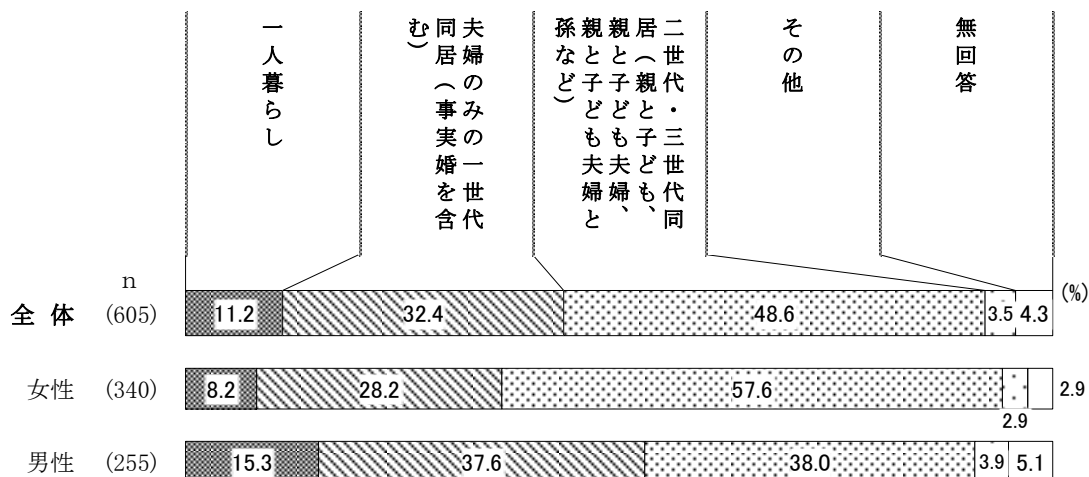
回答者の年代をみると、「65～69歳」（13.6%）が最も多く、次いで「70～74歳」（10.6%）となっている。性別にみると、女性は「65～69歳」（14.4%）、男性は「75歳以上」（14.1%）が最も多くなっている。65歳以上の高齢者は全体の約3割（34.3%）で、女性が約3割（32.4%）、男性が約4割（37.6%）となっている。



(3) 家族構成（同居）

家族構成をみると、「二世世代・三世代同居」が約5割（48.6%）となっている。

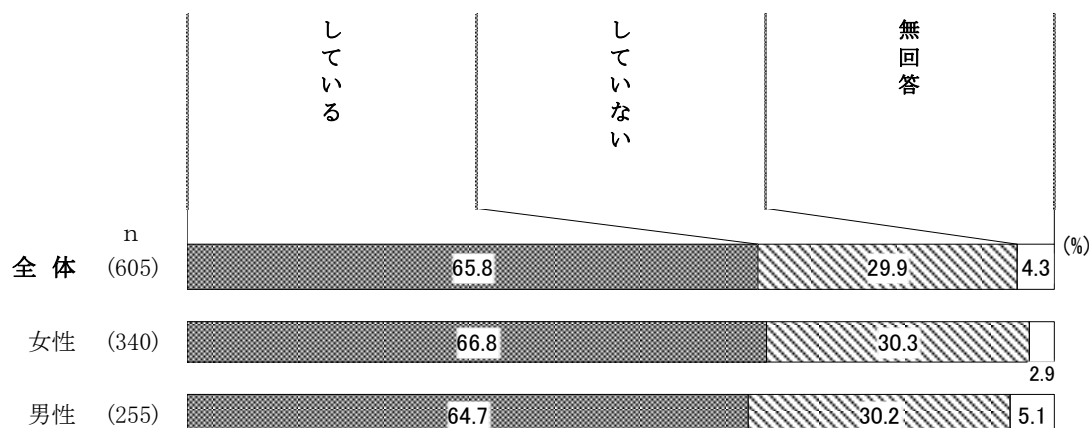
性別にみると、女性は「二世世代・三世代同居」が約6割（57.6%）を占めている。一方で、男性は「夫婦のみの一世代同居」と「二世世代・三世代同居」が同程度となっている。



(4) 結婚について

結婚（事実婚を含む）の状況をみると、「している」が約7割（65.8%）となっている。

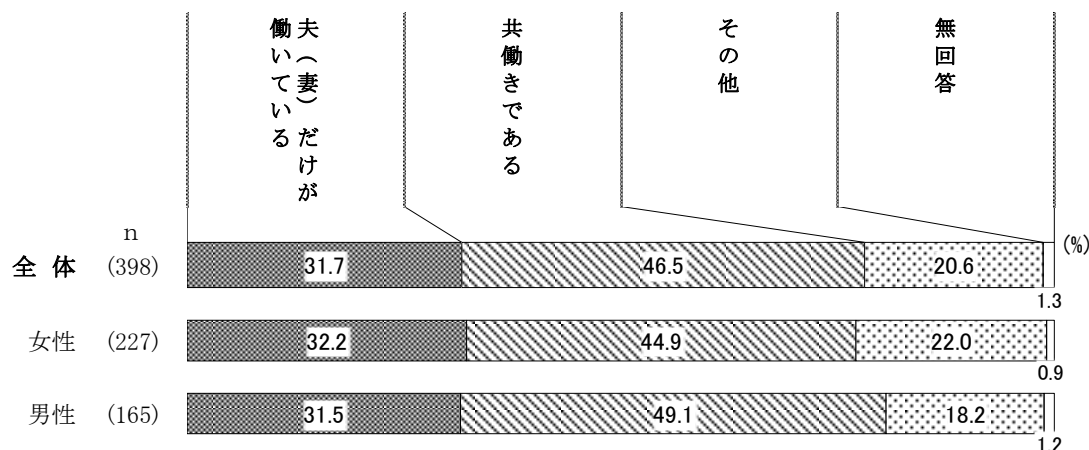
性別でも同様の傾向がみられる。



(5) 夫婦の働き方

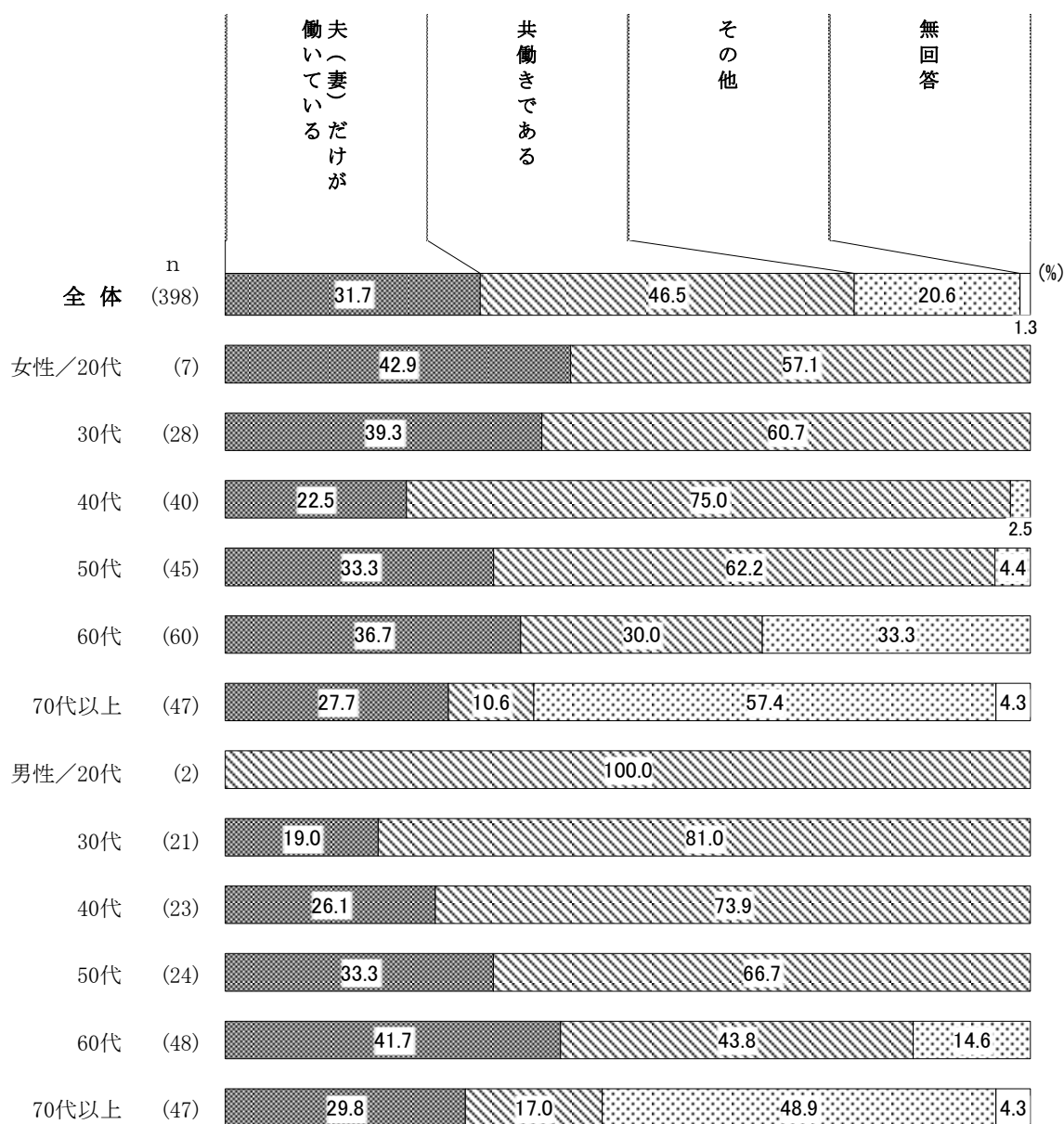
夫婦の働き方をみると、「共働きである」が約5割（46.5%）で、「夫（妻）だけが働いている」約3割（31.7%）を上回っている。

性別でも同様の傾向がみられる。



■夫婦の働き方 性・年代別

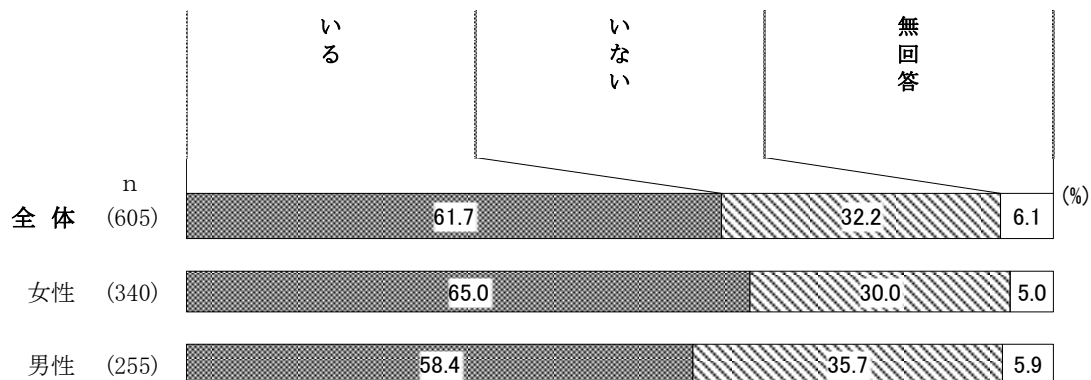
性・年代別にみると、女性は「共働きである」が40代で約8割（75.0%）と最も多くなっており、60代未満でも過半数を占めているが、60代以上では半数以下となっている。男性は一部回答者が少ないため参考にみると、「共働きである」が高齢になるにつれ減少していく傾向がみられる。60代で「共働きである」は女性で3割（30.0%）、男性で約4割（43.8%）と、男性が女性を上回っている。



(6) 子どもの有無

子どもの有無をみると、「いる」が約6割（61.7%）となっている。

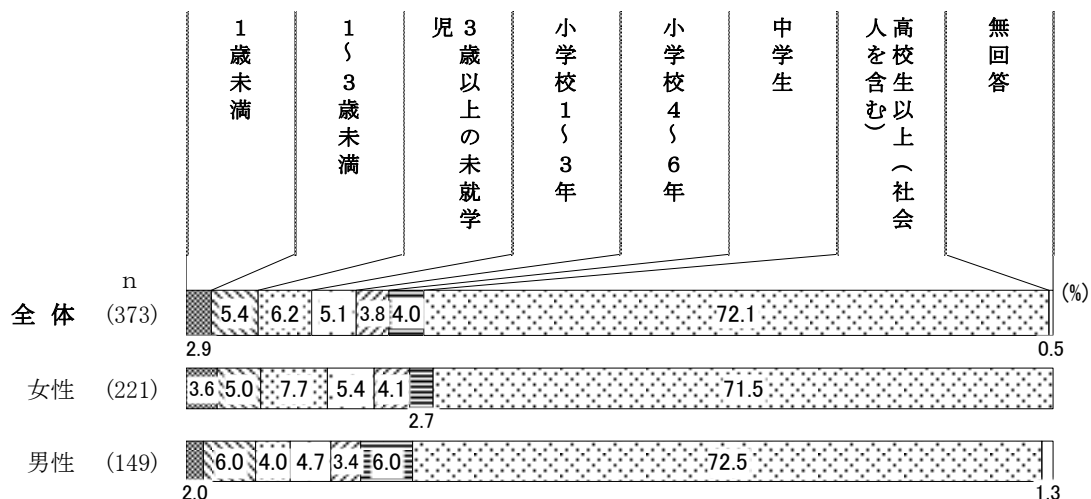
性別にみると、「子どもがいる」は女性が約7割（65.0%）、男性が約6割（58.4%）となっている。



(7) 末子の成長段階

子どものいる回答者の末子の成長段階をみると、「高校生以上」が約7割（72.1%）と最も多くなっている。

未就学児（「1歳未満」、「1～3歳未満」、「3歳以上の未就学児」の合計）は全体の約1割（14.5%）で、女性が約2割（16.3%）、男性が約1割（12.0%）となっている。



2. 男女平等・男女共同参画に関する意識

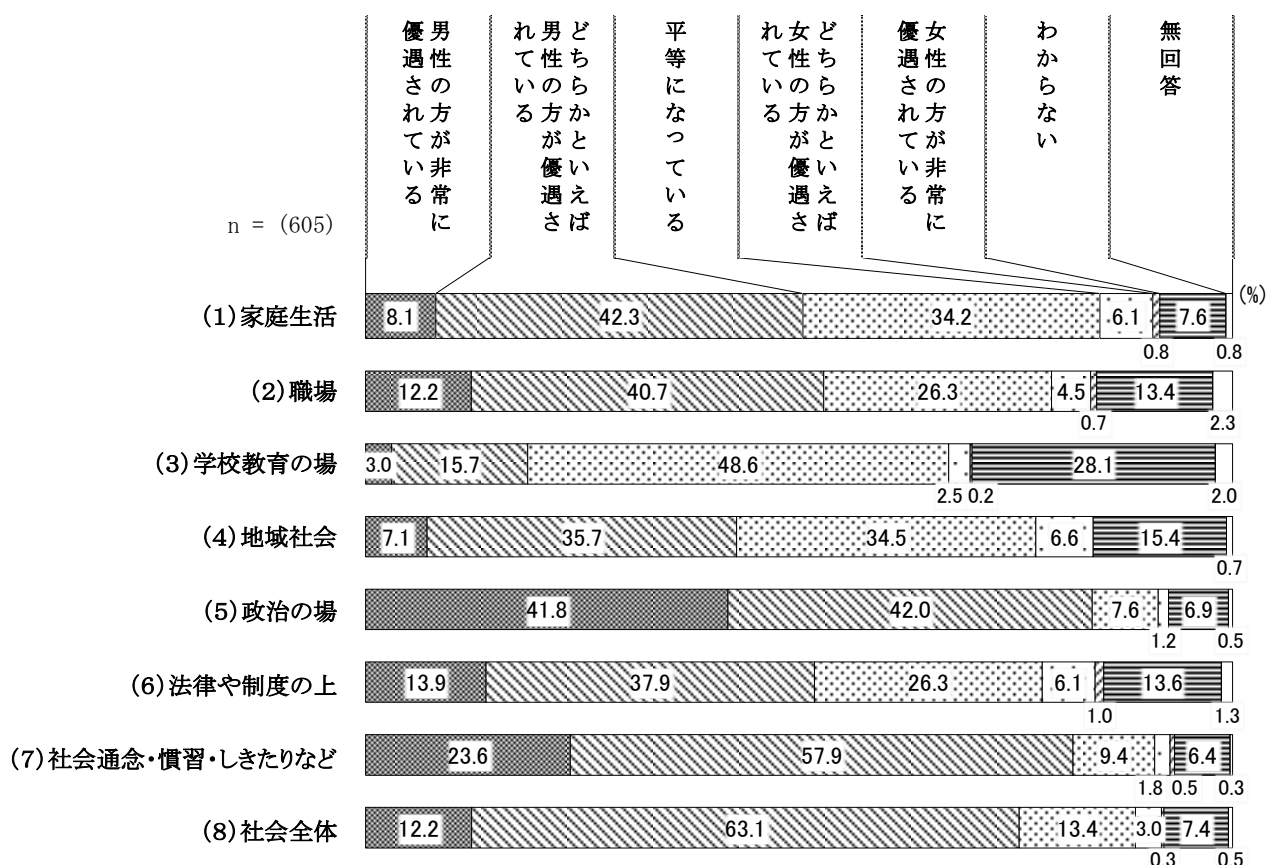
(1) 分野別の男女の地位の平等感

問1 あなたは現在、つぎのような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (1) から (8) のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

分野別の男女の地位の平等感について、「平等になっている」が最も多い分野は、『学校教育の場』で約5割(48.6%)となっている。次いで『地域社会』約3割(34.5%)、『家庭生活』約3割(34.2%)となっている。一方で、『学校教育の場』は「わからない」が約3割(28.1%)と、「平等になっている」に次いで多くなっている。

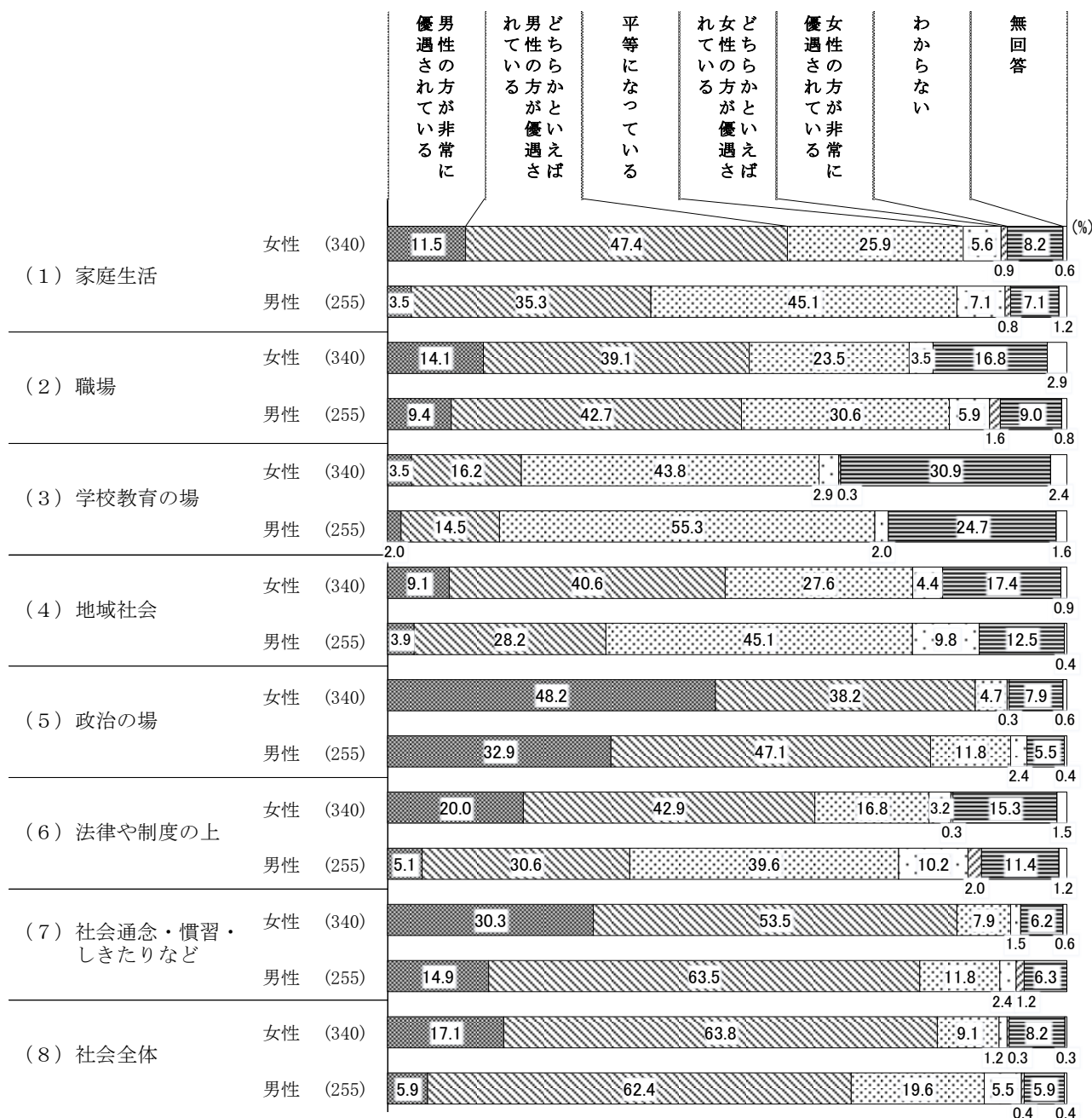
<男性優遇> (「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計) は、『政治の場』約8割(83.8%)、『社会通念・慣習・しきたりなど』約8割(81.5%)、『社会全体』約8割(75.3%)で特に多くなっている。

<女性優遇> (「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計) は、『法律や制度の上』(7.1%)、『家庭生活』(6.9%)、『地域社会』(6.6%)で一定数みられるが、すべての項目で1割に満たなかった。



■分野別の男女の地位の平等感 性別

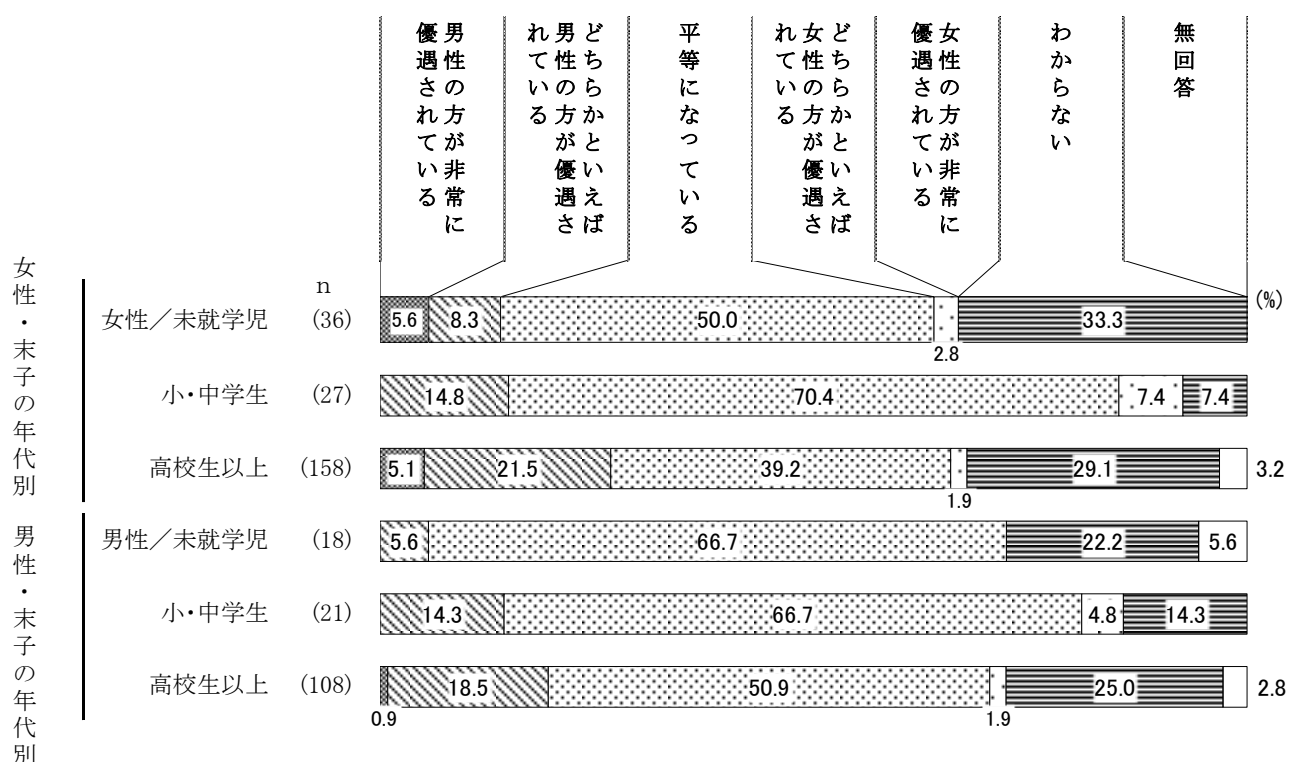
性別にみると、すべての分野で「平等になっている」は男性が女性を上回っている。特に『家庭生活』、『地域社会』、『法律や制度の上』において、＜男性優遇＞は女性が男性を15ポイント以上上回っている。『政治の場』では、＜男性優遇＞は女性が約9割（86.4%）、男性が8割（80.0%）と、男女ともに多くなっている。



■分野別の男女の地位の平等感 性・末子の年代別（参考）

『学校教育の場』について、一部回答者が少ないため参考として性・末子の年代別にみると、「平等になっている」は、高校生以上の末子を持つ女性を除いて過半数を占めており、小・中学生の末子を持つ男女で7割前後と特に多くなっている。「わからない」は、小・中学生の末子を持つ男女ともに1割前後となっている一方で、未就学児、高校生以上の末子を持つ女性で約3割、男性で約2割と多くなっている。

(3) 学校教育の場



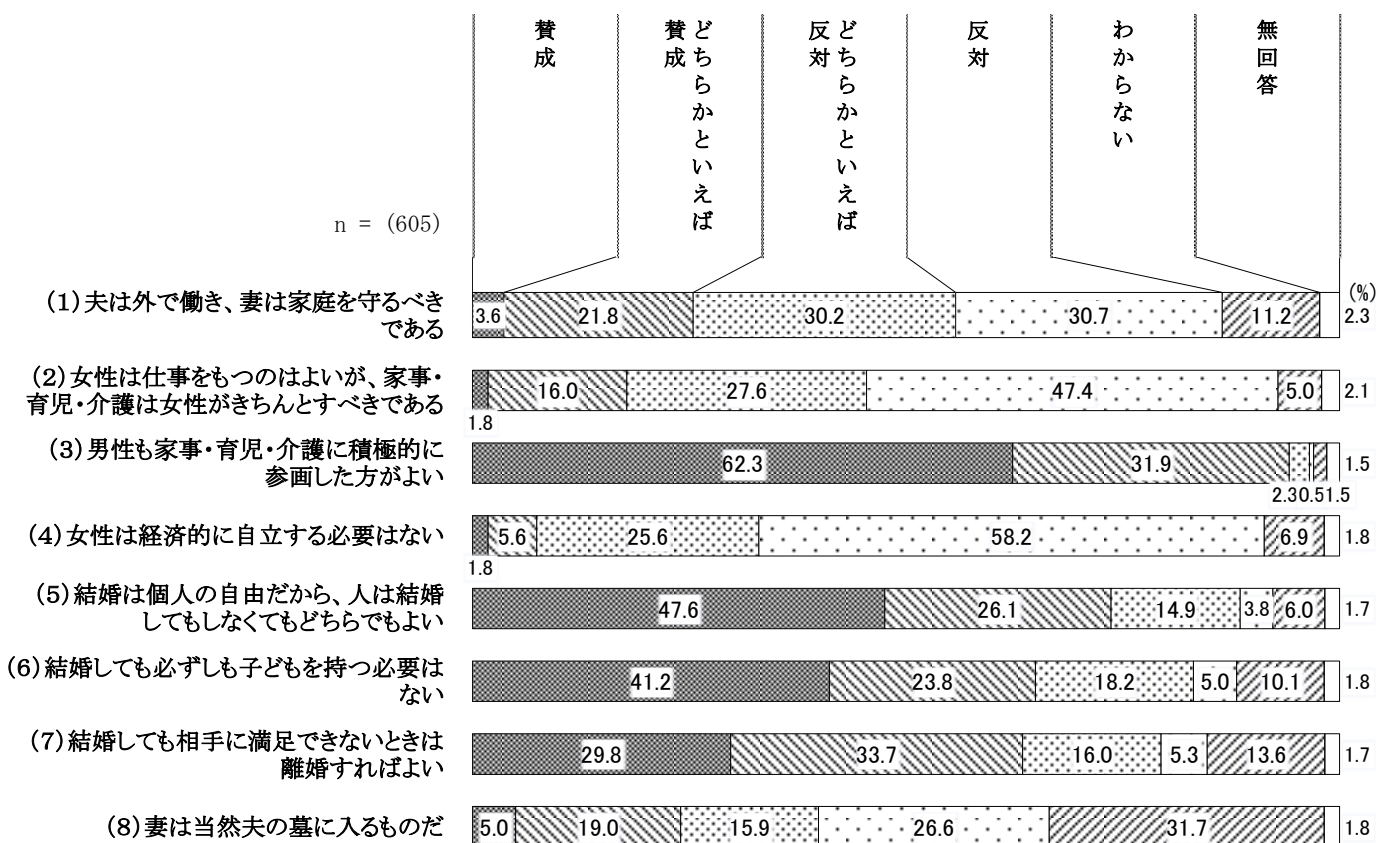
(2) 性別役割分担意識

問2 つぎのような考え方について、あなたの現在のご意見に最も近いものはどれですか。
 (1) から (8) のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方について、<賛成>（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は約9割（94.2%）、『女性は経済的に自立する必要はない』で、<反対>（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は約8割（83.8%）を占めている。

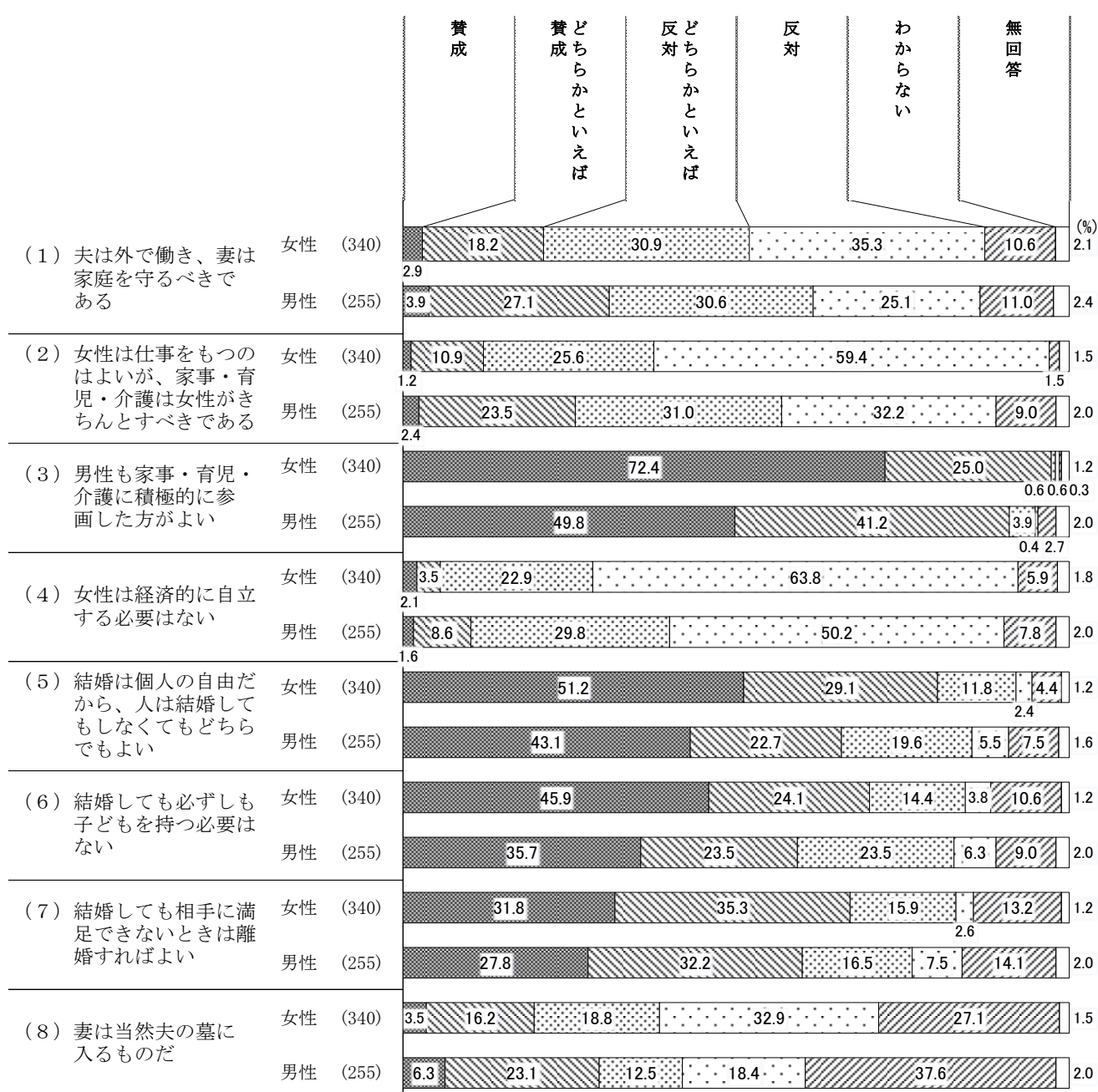
『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』、『女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』という考え方について、<反対>が<賛成>を大きく上回っているが、<賛成>はそれぞれ約3割（25.4%）、約2割（17.8%）を占めている。また、『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』、『結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない』、『結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という結婚観で、<賛成>が<反対>を大きく上回っているものの、<反対>がそれぞれ約2割を占めている。

『妻は当然夫の墓に入るものだ』という考え方については、<反対>が約4割（42.5%）と最も多くなっているが、「わからない」が約3割（31.7%）、<賛成>が約2割（24.0%）と意見が分散している。



■性別役割分担意識 性別

性別にみると、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』、『女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである』、『女性は経済的に自立する必要はない』、『妻は当然夫の墓に入るものだ』という考え方について、＜賛成＞は男性が女性を上回っている。『男性も家事・育児・介護に積極的に参画した方がよい』という考え方について、＜賛成＞は男女ともに9割を超えているが、その内訳をみると、「賛成」は女性が約7割（72.4%）、男性が約5割（49.8%）と、女性が男性を20ポイント以上上回っている。『女性は経済的に自立する必要はない』という考え方については、＜反対＞は男女ともに8割を超えている。『結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい』などの結婚観で、＜賛成＞は女性が男性を上回っている。

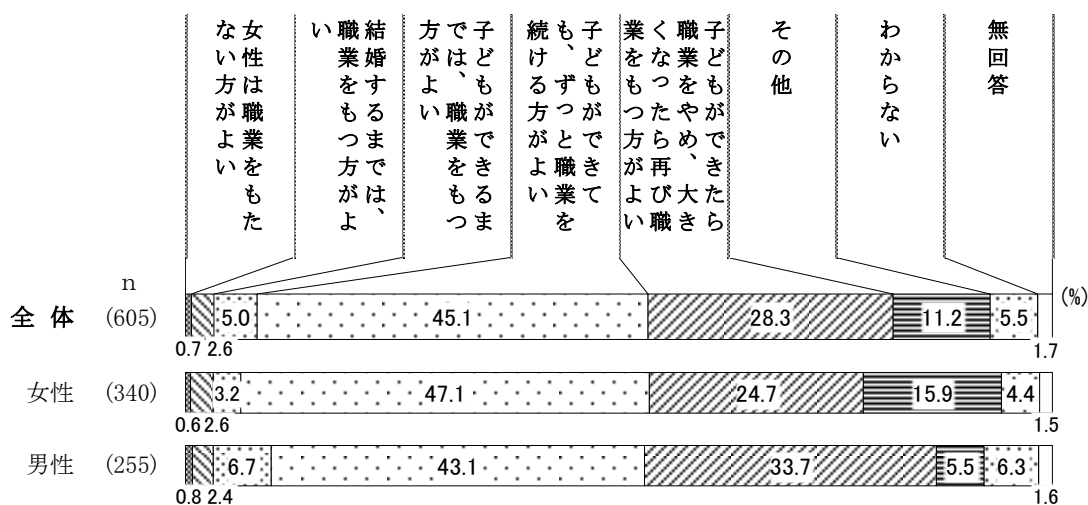


(3) 女性が職業を持つことについて

問3 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。

女性が職業をもつことについての考え方は、全体では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という<就業継続型>約5割(45.1%)と、「子どもができれば、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という<出産退職・再就職型>約3割(28.3%)が多くなっている。

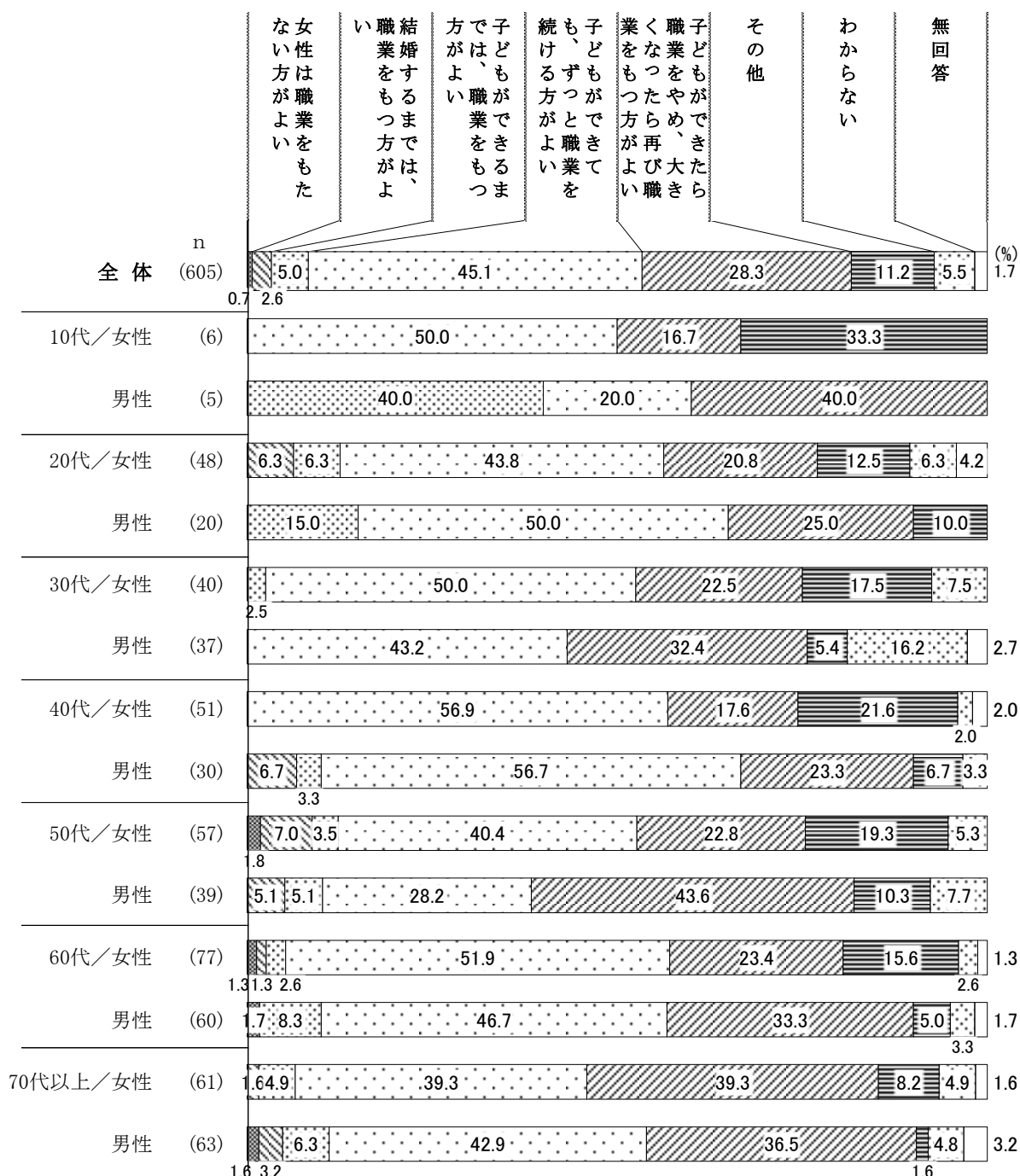
性別にみると、男女とも全体と同様の傾向にあるが、<出産退職・再就職型>は女性が約2割(24.7%)、男性が約3割(33.7%)で、男性が女性を9ポイント上回っている。



型	問3 選択肢
非就労型	女性は職業をもたない方がよい
結婚退職型	結婚するまでは、職業をもつ方がよい
出産退職型	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
就業継続型	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
出産退職・再就職型	子どもができれば、大きくなったら再び職業をもつ方がよい

■女性が職業を持つことについて 性・年代別

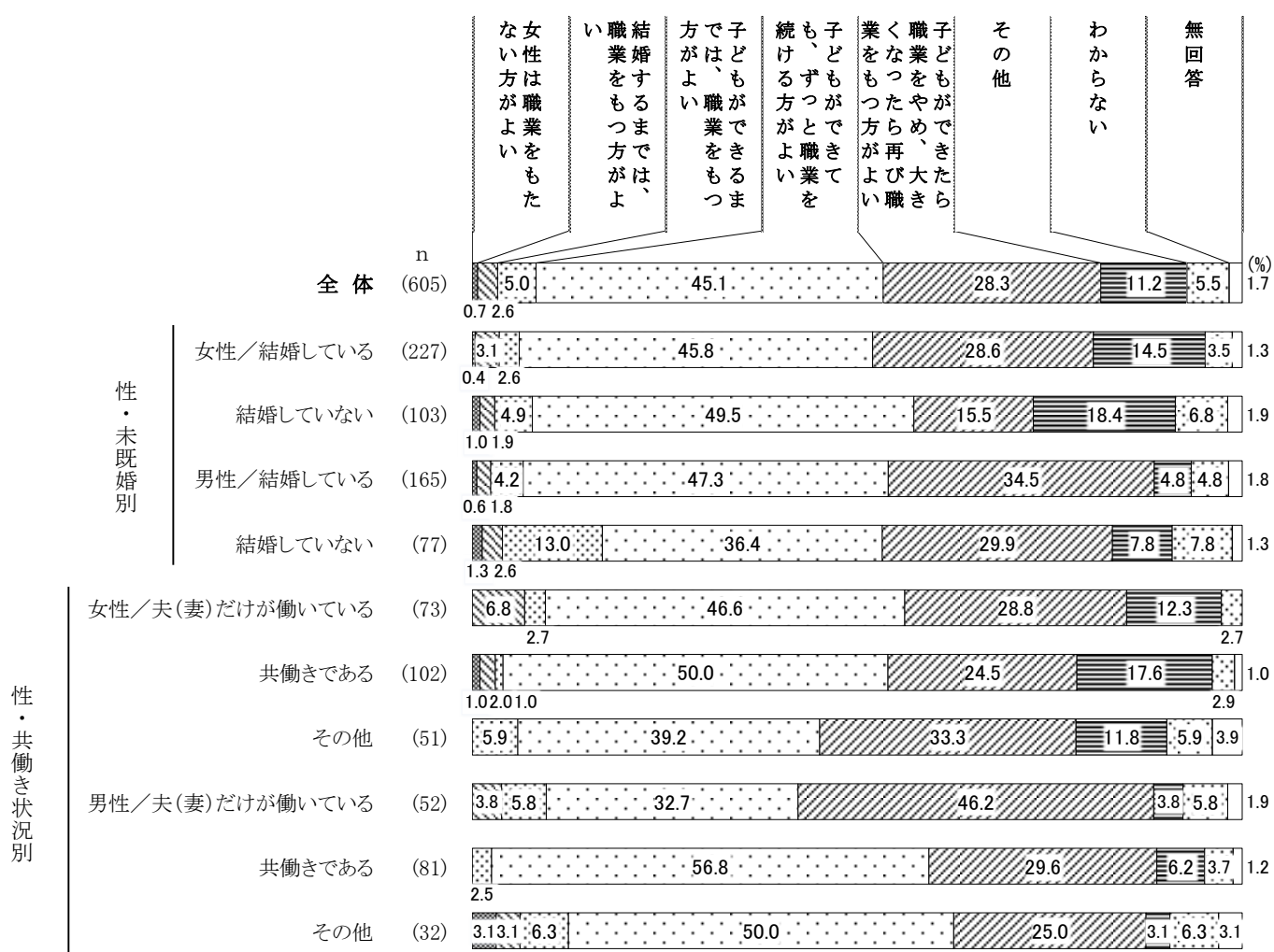
性・年代別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という<就業継続型>は、男女とも40代で約6割と多くなっている。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という<出産退職・再就職型>は、女性は70代以上(39.3%)、男性は50代(43.6%)で約4割と多くなっている。また、<出産退職・再就職型>は、50代で男性(43.6%)が女性(22.8%)を約21ポイント上回っており、30代、60代でも男性が女性を約10ポイント上回っている。「結婚するまでは、職業をもつ方がよい」という<結婚退職型>と、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」という<出産退職型>の合計は、女性20代で約1割(12.6%)となっており、男性10代、20代の若年層でも回答が見られる。



■女性が職業を持つことについて 性・未既婚別、性・共働き状況別

性・未既婚別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という<就業継続型>は、結婚していない女性で約5割（49.5%）となっている。「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という<出産退職・再就職型>は、男女とも結婚している人の方が結婚していない人よりも多い。また、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」という<出産退職型>は、結婚していない男性で約1割（13.0%）と比較的多くなっている。

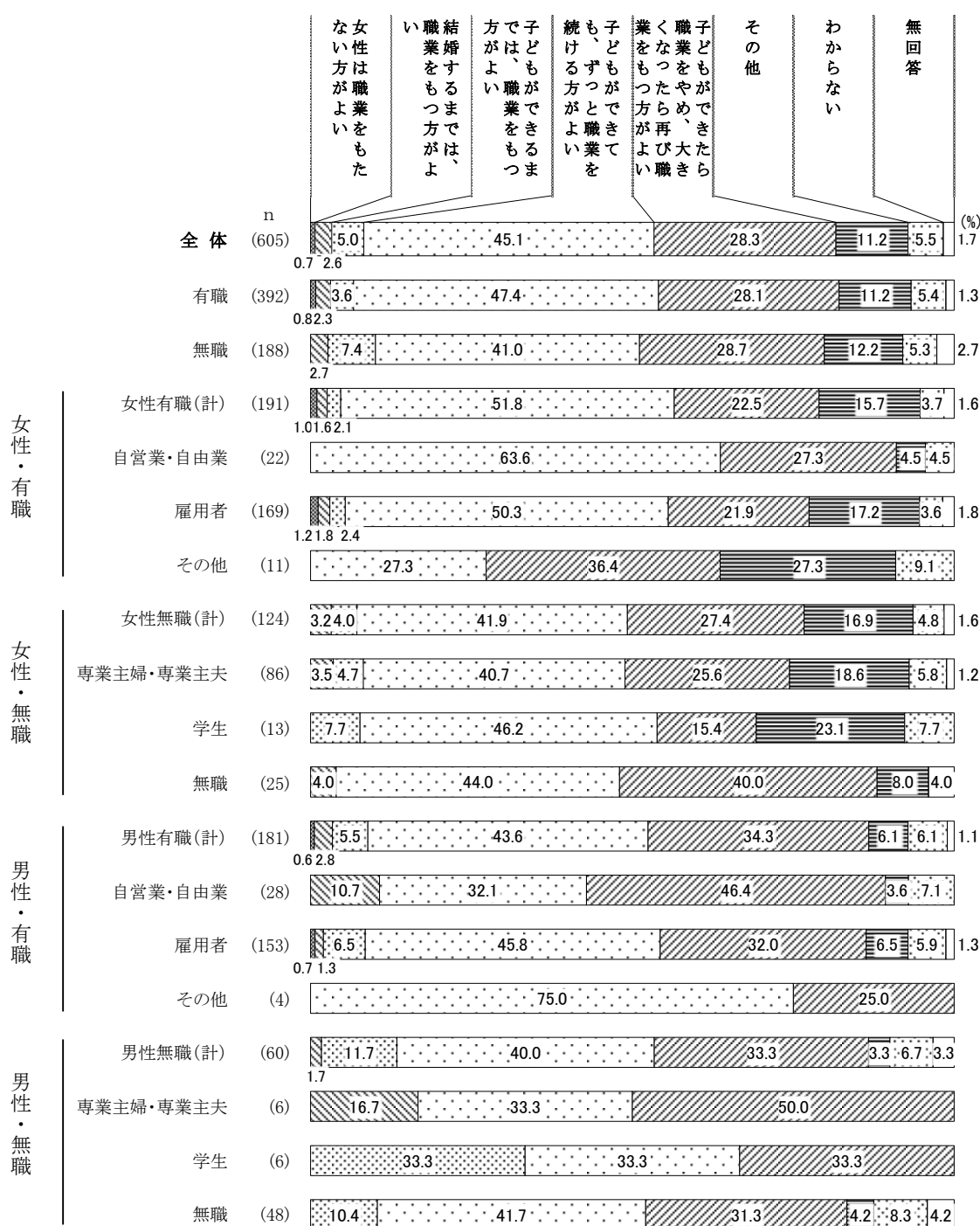
性・共働き状況別にみると、<就業継続型>は、男女ともに共働きである人の方が多く、特に共働きである男性が約6割（56.8%）を占めている。<出産退職・再就職型>は、男女ともに夫（妻）だけが働いている人の方が多く、特に夫（妻）だけが働いている男性が約5割（46.2%）を占めている。



■女性が職業を持つことについて 職業別、性・職業別

職業別にみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という<就業継続型>は、有職（47.4%）が無職（41.0%）を約6ポイント上回っている。一方で、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」という<出産退職型>は、無職（7.4%）が有職（3.6%）を上回っている。

性・職業別にみると、<就業継続型>は、男女ともに有職（計）の方が無職（計）より多くなっている。また、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」という<出産退職型>は、男性無職（計）が約1割（11.7%）と比較的多くなっている。回答者が少ないため参考にと、<就業継続型>は、自営業・自由業で女性（63.6%）が男性（32.1%）を上回っている。<出産退職・再就職型>は、男性有職（計）（34.3%）が女性有職（計）（22.5%）を約12ポイント上回っている。

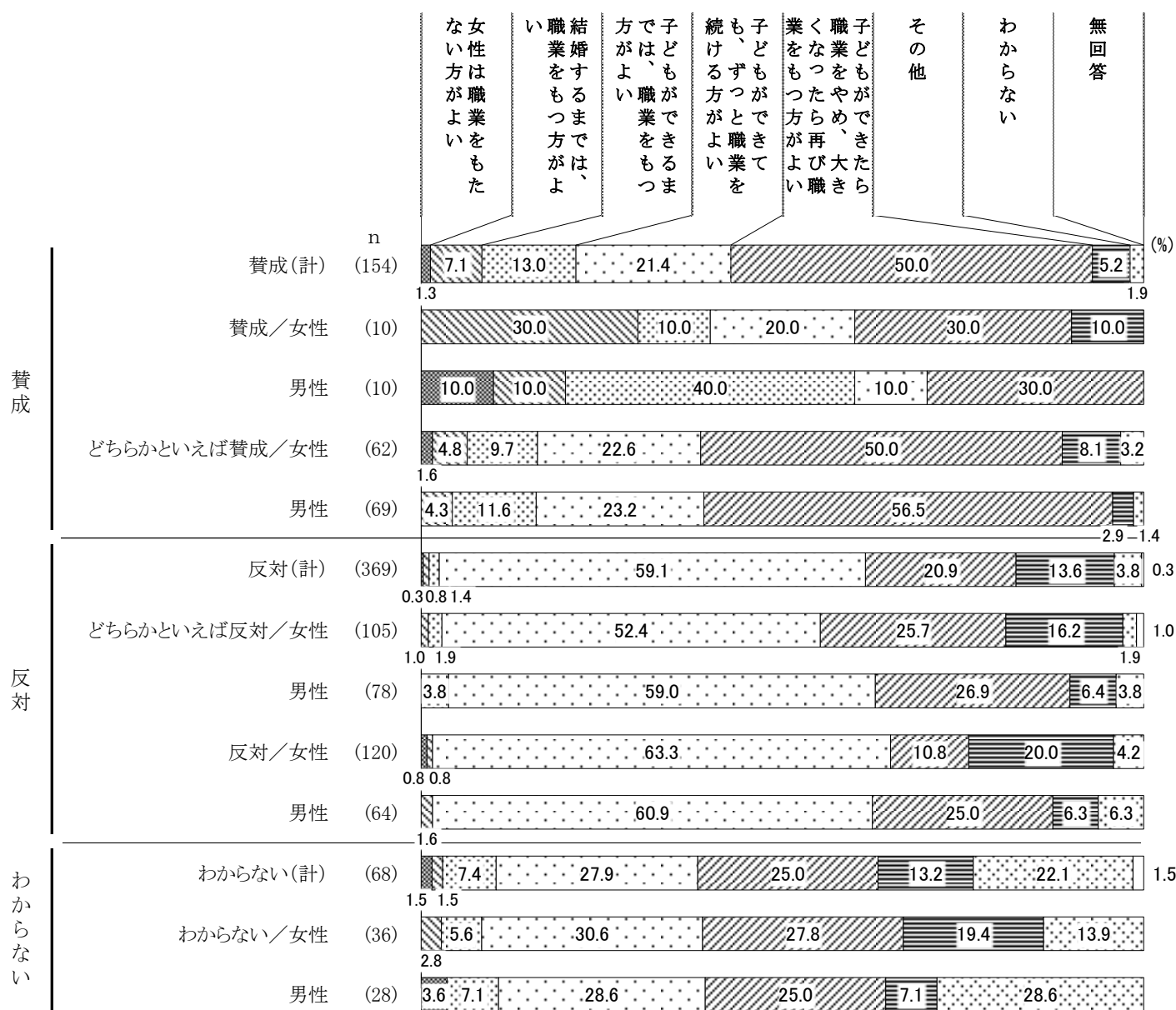


■女性が職業を持つことについて 性・男は仕事・女は家庭への賛否別

問2(1)『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』の賛否別にみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という<出産退職・再就職型>は、賛成(計)が5割を占めている。性別にみると、<出産退職・再就職型>は、どちらかといえば賛成の女性で5割(50.0%)、どちらかといえば賛成の男性で約6割(56.5%)となっている。

一方で、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という<就業継続型>は、反対(計)が約6割(59.1%)で過半数を占めている。性別にみると、<就業継続型>は、反対の女性(63.3%)、男性(60.9%)でともに約6割となっている。

<就業継続型>は、反対(計)(59.1%)が賛成(計)(21.4%)を大きく上回っている。

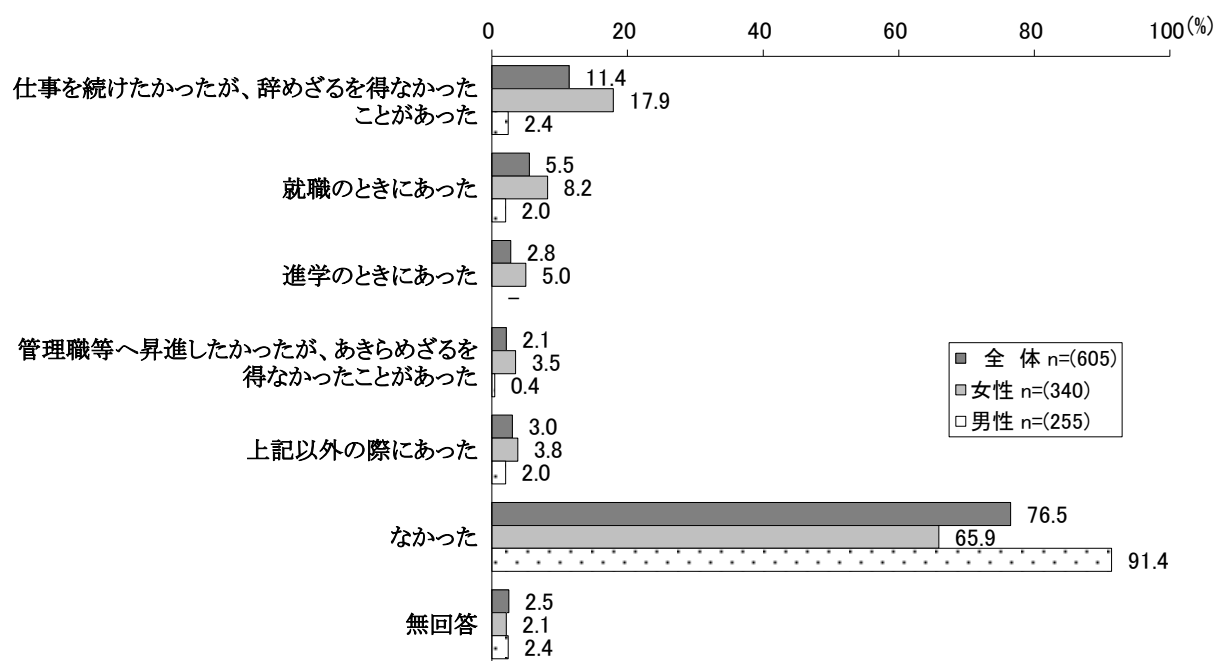


(4) 性別による役割分担の希望と選択

問4 あなたは、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割分担意識を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがありましたか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

性別による役割分担意識を理由に、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことについて、「なかった」が約8割(76.5%)となっている。自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったこととしては、「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」が約1割(11.4%)で最も多くなっている。

性別にみると、「なかった」は男性が約9割(91.4%)、女性が約7割(65.9%)となっており、自分の希望とは違う選択をせざるを得なかったことがあったのは、女性が男性を上回っている。特に女性で「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」は約2割(17.9%)と、男性の1割未満(2.4%)の7倍以上となっている。



第2章 調査結果の詳細

■性別による役割分担の希望と選択 性・年代別

性・年代別にみると、「仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった」は、女性で60代が約3割（26.0%）、40代が約2割（21.6%）と多くなっており、「就職のときにあった」も女性で60代が約2割（16.9%）と多くなっている。「なかった」は男性すべての年代で8割を超え、女性を上回っており、特に20代と40代では全員が「なかった」と回答している。また、女性は20代、50代で7割以上と多くなっている一方で、60代は約5割（53.2%）と少なくなっている。

	調査数	仕事を続けたかったが、辞めざるを得なかったことがあった	就職のときにあった	進学の際にあった	管理職等へ昇進したかったが、あきらめざるを得なかったことがあった	上記以外の際にあった	なかった	無回答
全体	605	11.4	5.5	2.8	2.1	3.0	76.5	2.5

【性・年代別】

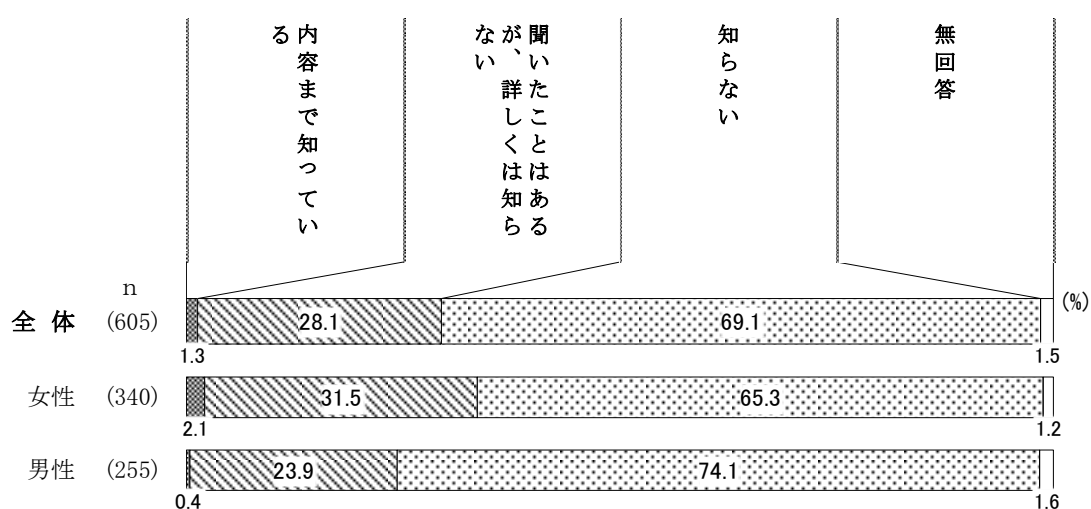
女性（計）	340	17.9	8.2	5.0	3.5	3.8	65.9	2.1
10代	6	-	-	-	-	16.7	83.3	-
20代	48	6.3	6.3	6.3	2.1	-	75.0	4.2
30代	40	17.5	2.5	-	5.0	10.0	62.5	2.5
40代	51	21.6	5.9	3.9	9.8	2.0	68.6	-
50代	57	17.5	5.3	3.5	1.8	-	73.7	-
60代	77	26.0	16.9	9.1	2.6	5.2	53.2	2.6
70代以上	61	16.4	8.2	4.9	1.6	4.9	65.6	3.3
男性（計）	255	2.4	2.0	-	0.4	2.0	91.4	2.4
10代	5	-	-	-	-	20.0	80.0	-
20代	20	-	-	-	-	-	100.0	-
30代	37	-	-	-	-	2.7	94.6	2.7
40代	30	-	-	-	-	-	100.0	-
50代	39	2.6	5.1	-	-	2.6	89.7	-
60代	60	5.0	-	-	-	1.7	91.7	1.7
70代以上	63	3.2	4.8	-	1.6	1.6	84.1	6.3

(5) 「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」の認知度

問5 あなたは、「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」を知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」の認知度について、「知らない」が約7割（69.1%）を占めており、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が約3割（28.1%）、「内容まで知っている」が1割未満（1.3%）となっている。

性別にみると、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」は、女性が男性を約8ポイント上回り、「知らない」は男性が女性を約9ポイント上回っている。

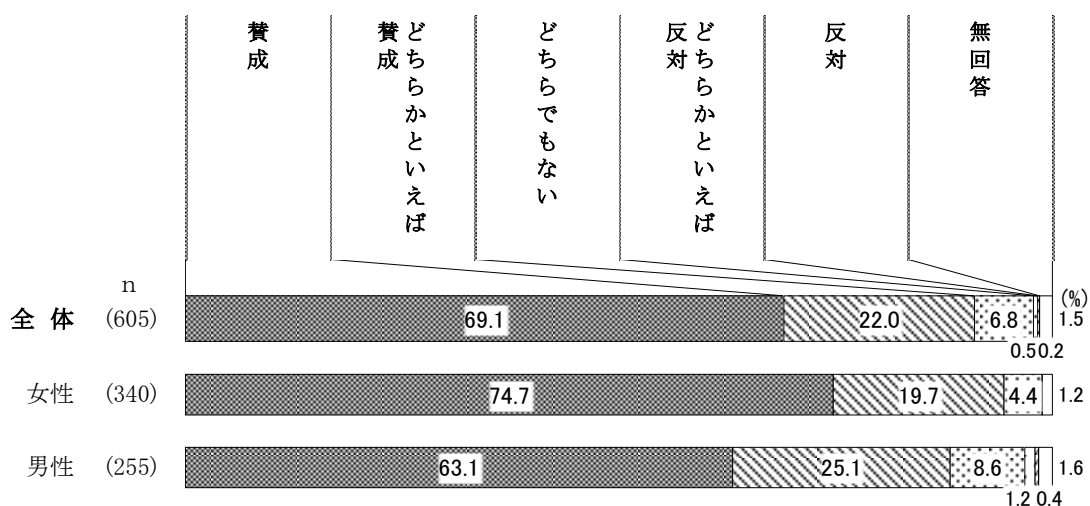


3. ワーク・ライフ・バランスについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの考え方に対する賛否

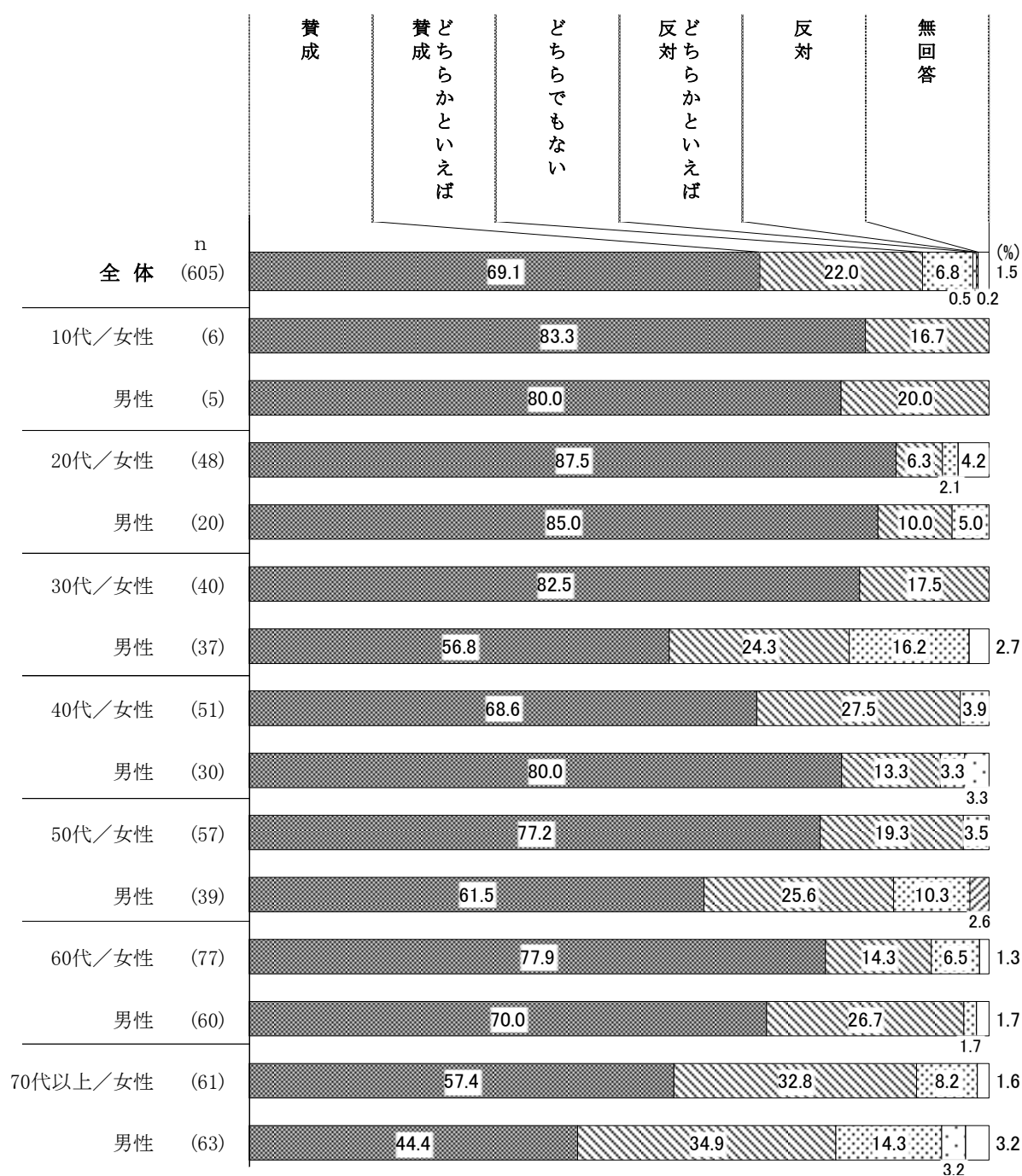
問6 「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)とは、男性であっても女性であっても、「ワーク」(仕事)と「ライフ」(家庭や子育て、介護、地域活動、趣味活動など)のバランスを主体的に選択できる社会を実現しようとする考え方です。こうした考えにあなたは賛成ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

ワーク・ライフ・バランスの考え方に対する賛否について、「賛成」が約7割(69.1%)と多く、
 <賛成>(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)は約9割(91.1%)を占めている。
 性別にみると、「賛成」は女性が男性を約12ポイント上回っている。



■ワーク・ライフ・バランスの考え方に対する賛否 性・年代別

性・年代別にみると、＜賛成＞（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）は、女性はすべての年代、男性は20代、40代、60代で9割を超えている。特に、女性は30代で全員が＜賛成＞と回答している。一方、＜反対＞（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）は、女性は回答者がおらず、男性は40代、50代、70代以上でわずかに回答がみられた。「賛成」は30代で男女差が最も大きく、女性は82.5%が男性（56.8%）を20ポイント以上上回っている。また、「賛成」は70代以上で特に低くなっており、女性が約6割（57.4%）、男性が約4割（44.4%）となっている。



(2) 生活の中でのワーク・ライフ・バランス（希望・実際）

問7 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの希望に最も近いもの1つに○をつけてください。

問8 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度について、あなたの現実（現状）に最も近いもの1つに○をつけてください。

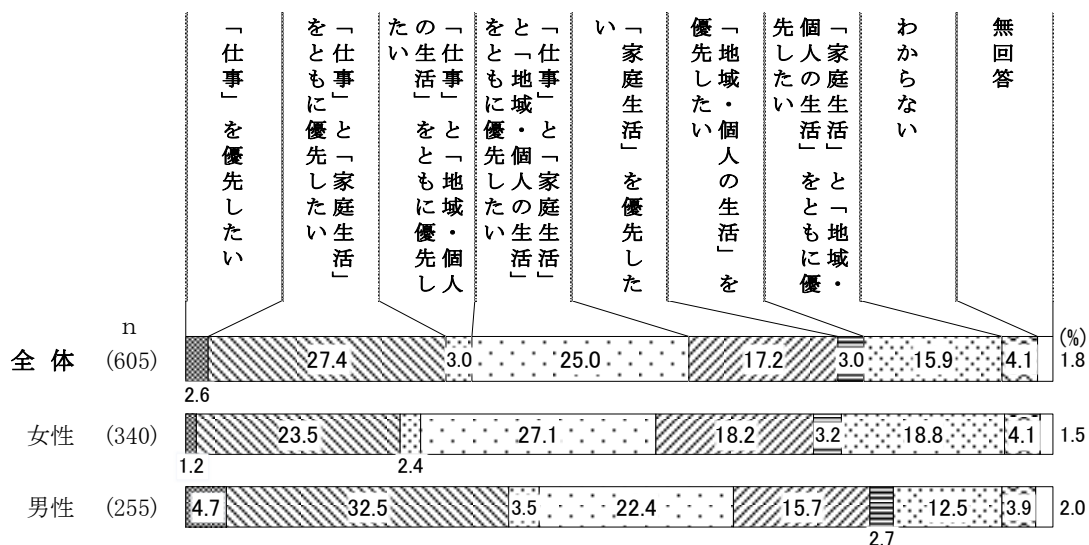
生活の中で希望するワーク・ライフ・バランスについて、性別にみると、女性は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」が約3割（27.1%）、男性は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が約3割（32.5%）と最も多くなっている。しかし実際は、女性は「家庭生活を優先している」が約3割（34.7%）、男性は「仕事を優先している」が約3割（30.6%）と最も多くなっている。

<仕事と両立したい>（「仕事と家庭生活をともに優先したい」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計）は、男女ともに5割以上（女性53.0%、男性58.4%）だが、実際に<仕事と両立している>は、男女ともに約3割（女性29.4%、男性34.1%）にとどまっている。

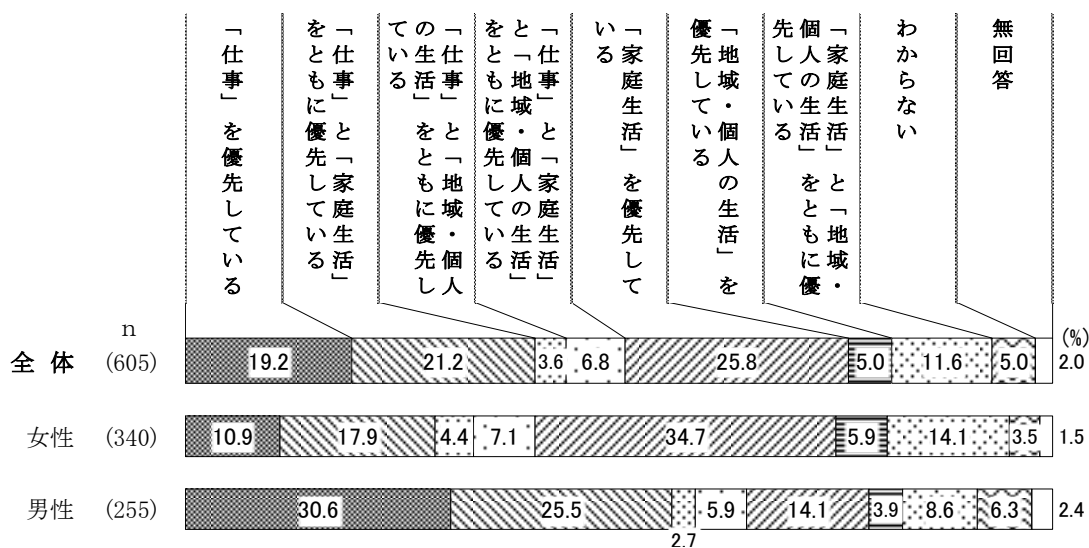
「仕事を優先」は、希望では男女ともに1割に満たないが、実際は女性が約1割（10.9%）、男性が約3割（30.6%）となっており、男女差も大きくなっている。また、女性で「家庭生活を優先」は、希望では約2割（18.2%）となっているが、実際は約3割（34.7%）と差が大きくなっている。

一方で、女性で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」は、希望では約3割（27.1%）だが、実際は約1割（7.1%）と少なくなっている。

【希望】

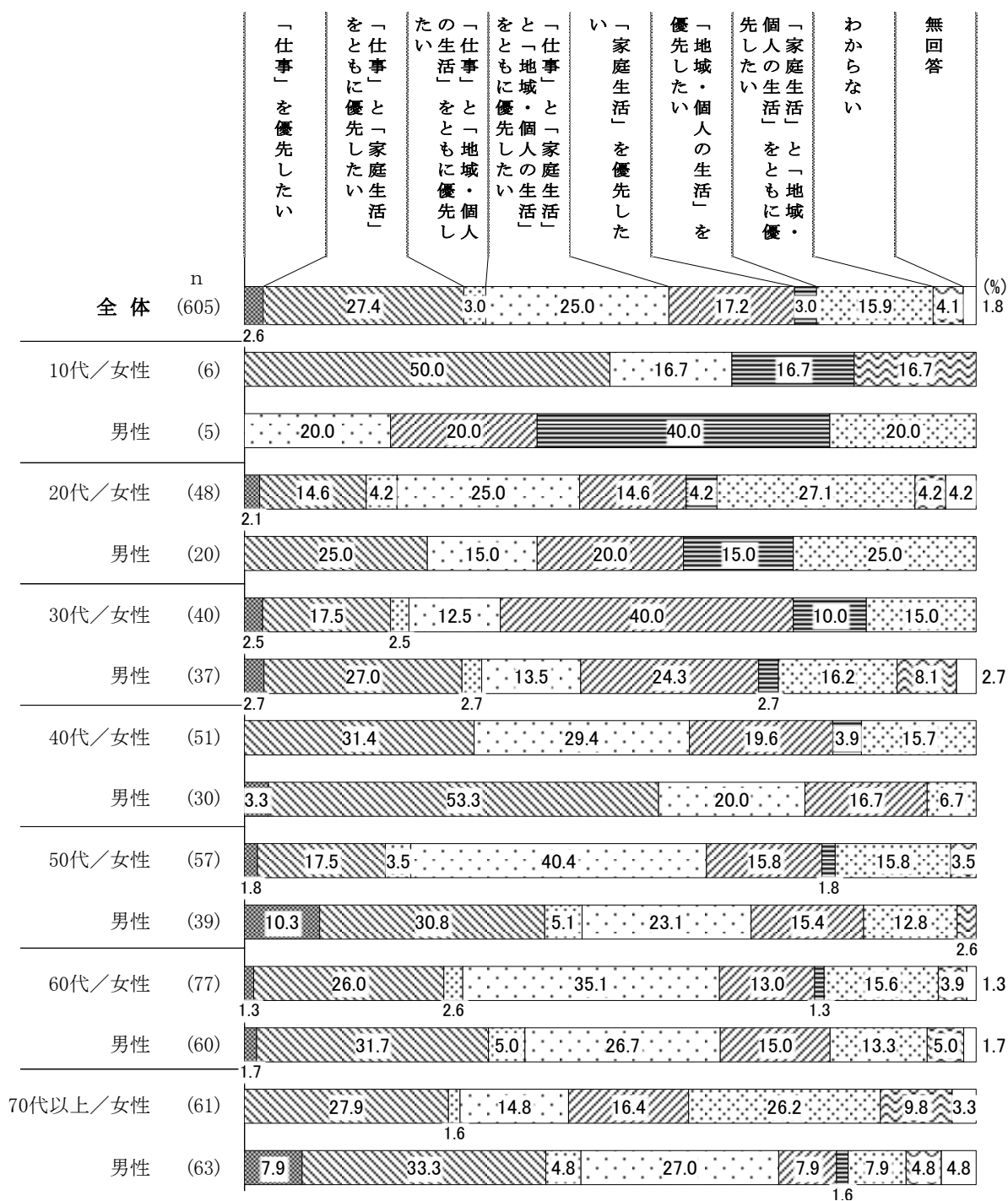


【実際】



■生活の中で希望するワーク・ライフ・バランス 性・年代別

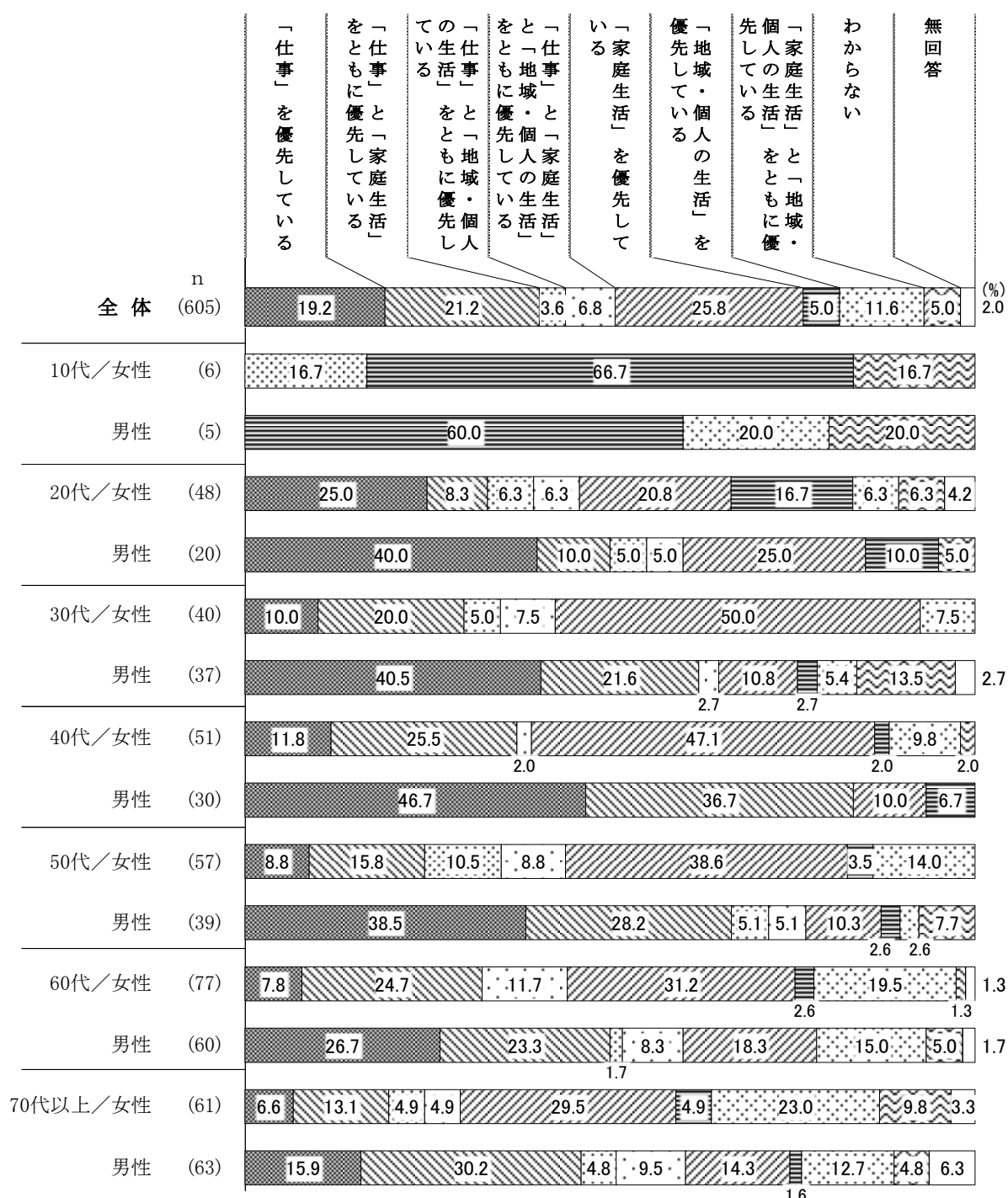
性・年代別にみると、20代で<仕事以外を優先したい>（「家庭生活を優先したい」、「地域・個人の生活を優先したい」、「家庭生活と地域・個人の生活を優先したい」の合計）は、女性で約5割（45.9%）、男性は回答者が少ないため参考みにみると6割（60.0%）となっている。男性はすべての年代で「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多く、特に40代で約5割（53.3%）を占めている。30代で「家庭生活を優先したい」と「地域・個人の生活を優先したい」は、女性が男性を上回っているが、「仕事と家庭生活をともに優先したい」は男性が女性を上回っている。50代で「仕事を優先したい」は、男性（10.3%）が女性（1.8%）を約9ポイント上回っている。



■実際のワーク・ライフ・バランス 性・年代別

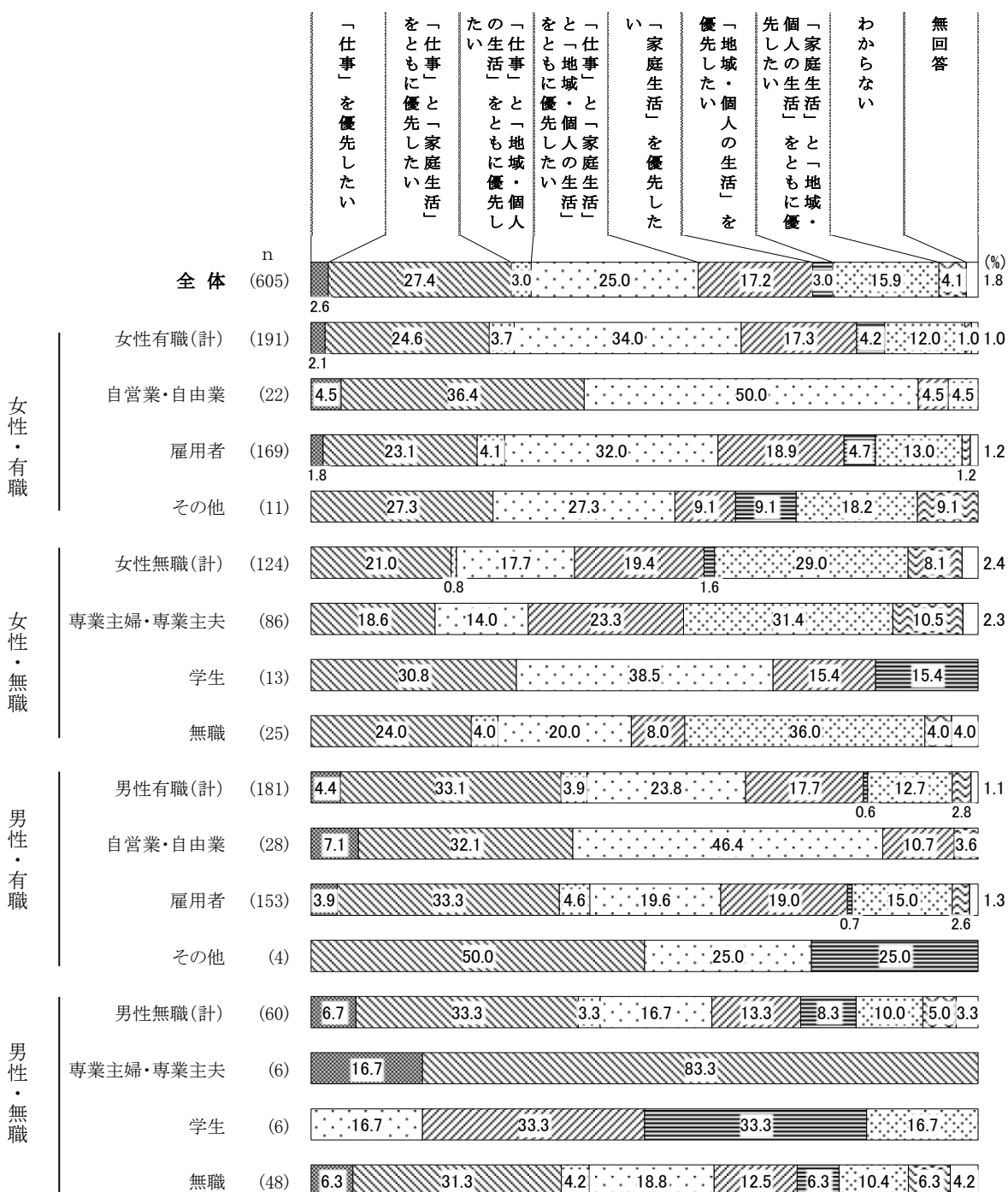
性・年代別にみると、「仕事を優先している」は、すべての年代で男性が女性より多く、「家庭生活を優先している」は、20代を除くすべての年代で女性が男性を上回っている。女性は20代を除くすべての年代で「家庭生活を優先している」が最も多く、30代で5割（50.0%）となっている。20代は「仕事を優先している」が最も多い。一方、男性は70代以上を除くすべての年代で「仕事を優先している」が最も多く、70代以上で「仕事と家庭生活をともに優先している」が最も多くなっている。

子育て世代にあたる20～40代の男性で「仕事を優先」は希望ではほとんど見られなかったのに対し、実際は約4割を占めている。



■生活の中で希望するワーク・ライフ・バランス 性・職業別

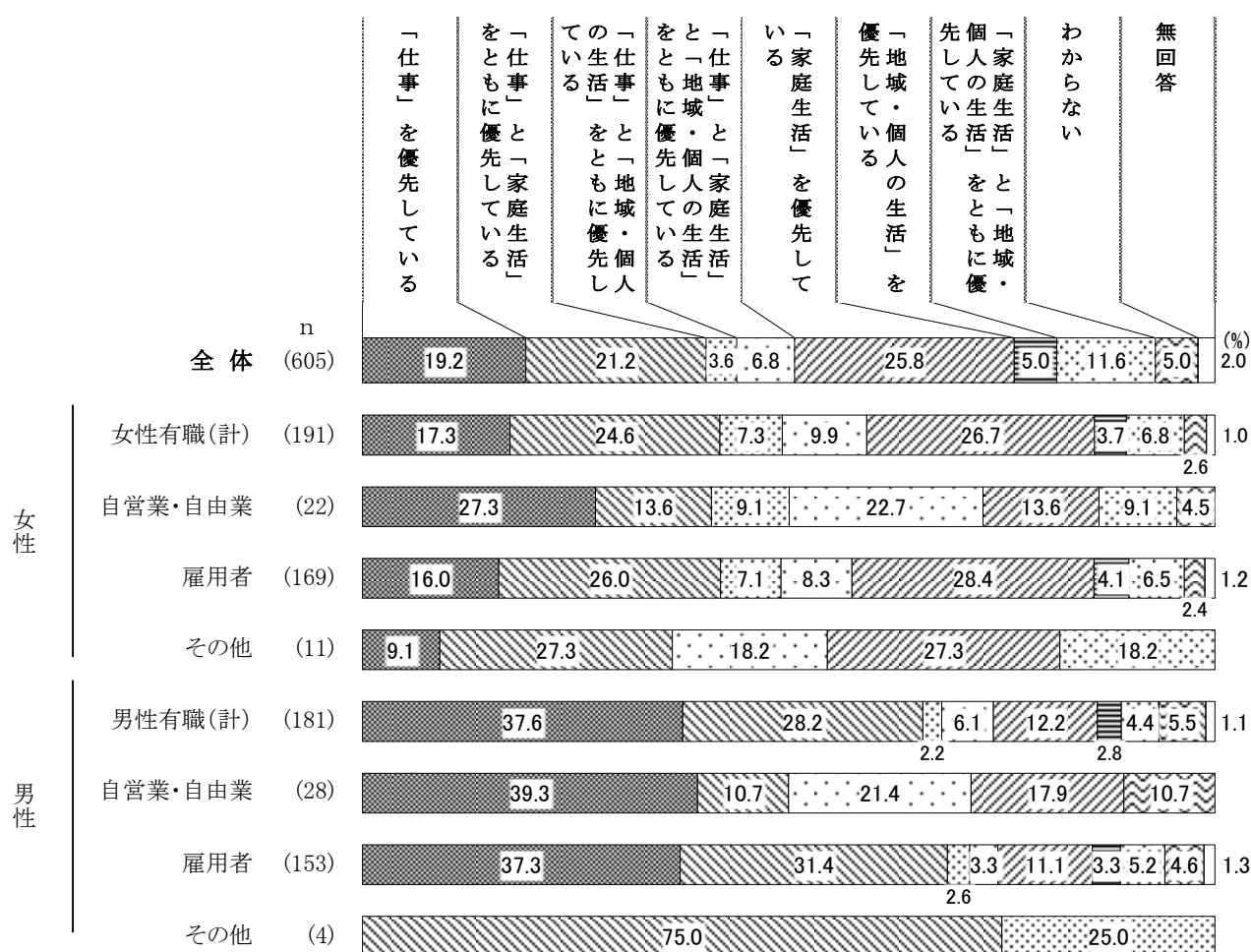
性・職業別にみると、女性有職（計）、男性有職（計）、男性無職で「仕事と両立をしたい」（「仕事と家庭生活をともに優先したい」、「仕事と地域・個人の生活をともに優先したい」、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計）が5割以上を占めており、「仕事を優先したい」はそれぞれ1割に満たない。また、回答者が少ないため参考にとみると、男女ともに自営業・自由業で「仕事と家庭生活をともに優先したい」と「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先したい」の合計が約8割となっており、仕事と家庭生活や地域・個人の生活の両立ができる働き方を希望している。男性学生は回答者が6人のため参考にとみると、そのうちの約8割（83.3%）が仕事以外の家庭生活や地域・個人の生活を優先したいと回答している。



■実際のワーク・ライフ・バランス 性・職業別（有職のみ）

有職に限定して性別にみると、希望ではく仕事と両立をしたいが男女ともに5割以上を占めており、「仕事を優先したい」はそれぞれ1割に満たなかったが、実際は、女性で「家庭生活を優先している」(26.7%)、「仕事と家庭生活をともに優先している」(24.6%)が2割半ばとなっており、「仕事を優先している」は約2割(17.3%)となっている。男性で「仕事を優先している」は約4割(37.6%)と最も多くなっており、女性(17.3%)の2倍以上となっている。また、雇用者でも同様の傾向が見られる。く仕事と両立しているは男女ともに約4割となっており、希望よりも下回っている。

回答者が少ないため参考にみると、男女ともに自営業・自由業で「仕事を優先している」が最も多く、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」となっている。

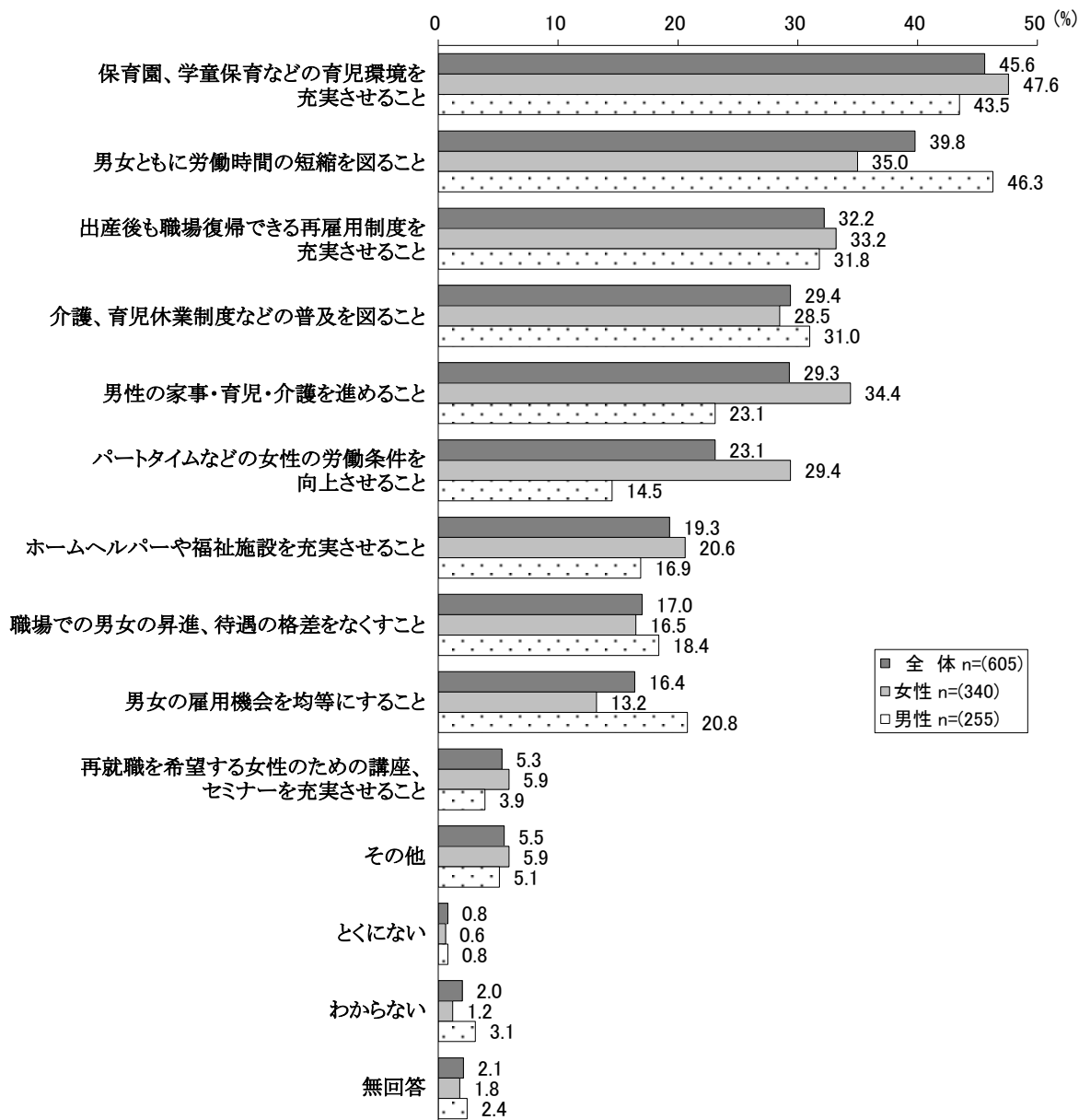


(3) ワーク・ライフ・バランスの実現に重要なこと

問9 これから男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現しやすい社会環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

ワーク・ライフ・バランスの実現に重要なことについて、「保育園、学童保育などの育児環境を充実させること」が約5割（45.6%）と最も多く、次いで「男女ともに労働時間の短縮を図ること」約4割（39.8%）、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」約3割（32.2%）となっている。

性別にみると、女性は「保育園、学童保育などの育児環境を充実させること」が約5割（47.6%）と最も多く、男性は「男女ともに労働時間の短縮を図ること」が約5割（46.3%）と最も多くなっている。「男性の家事・育児・介護を進めること」と「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」は女性が男性を、「男女ともに労働時間の短縮を図ること」は男性が女性を、それぞれ10ポイント以上上回っている。



■ワーク・ライフ・バランスの実現に重要なこと 性・年代別

性・年代別にみると、「保育園、学童保育などの育児環境を充実させること」は、女性は20代、30代、60代、男性は20代で5割を超え、特に男性20代で約7割（65.0%）と多くなっている。「男女ともに労働時間の短縮を図ること」は、女性は20代、30代、男性は20代の若い世代で6割を超えており、高齢層の50代で男性（59.0%）が女性（19.3%）より約40ポイント、60代で男性（48.3%）が女性（19.5%）より約30ポイント上回っている。「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」は、女性は20代、60代、70代以上、男性は60代で約4割、「介護、育児休業制度などの普及を図ること」は、男性40代で4割（40.0%）となっている。「パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること」は女性50代で約5割（47.4%）と多くなっている。

	調査数	保育園、学童保育などの育児環境を充実させること	男女ともに労働時間の短縮を図ること	出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること	介護、育児休業制度などの普及を図ること	男性の家事・育児・介護を進めること	パートタイムなどの女性の労働条件を向上させること	ホームヘルパーや福祉施設を充実させること	職場での男女の昇進、待遇の格差をなくすこと	男女の雇用機会を均等にすること	再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実させること	その他	とくにない	わからない	無回答
全体	605	45.6	39.8	32.2	29.4	29.3	23.1	19.3	17.0	16.4	5.3	5.5	0.8	2.0	2.1

【性・年代別】

女性（計）	340	47.6	35.0	33.2	28.5	34.4	29.4	20.6	16.5	13.2	5.9	5.9	0.6	1.2	1.8
男性（計）	255	43.5	46.3	31.8	31.0	23.1	14.5	16.9	18.4	20.8	3.9	5.1	0.8	3.1	2.4
10代／女性	6	50.0	50.0	33.3	50.0	33.3	-	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-
男性	5	80.0	40.0	40.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-	20.0	-	-	-
20代／女性	48	50.0	60.4	43.8	22.9	35.4	20.8	2.1	20.8	10.4	8.3	8.3	-	-	-
男性	20	65.0	70.0	30.0	25.0	25.0	10.0	10.0	25.0	10.0	-	10.0	-	-	-
30代／女性	40	57.5	62.5	17.5	25.0	37.5	32.5	7.5	17.5	15.0	2.5	12.5	-	-	-
男性	37	48.6	56.8	16.2	27.0	27.0	13.5	13.5	18.9	8.1	2.7	8.1	-	5.4	-
40代／女性	51	47.1	41.2	31.4	23.5	41.2	27.5	15.7	11.8	5.9	5.9	7.8	3.9	-	2.0
男性	30	46.7	43.3	33.3	40.0	26.7	13.3	13.3	16.7	10.0	6.7	13.3	-	3.3	-
50代／女性	57	45.6	19.3	24.6	31.6	35.1	47.4	38.6	10.5	8.8	7.0	8.8	-	-	1.8
男性	39	38.5	59.0	23.1	30.8	28.2	10.3	12.8	12.8	17.9	7.7	2.6	2.6	7.7	-
60代／女性	77	50.6	19.5	35.1	31.2	33.8	27.3	24.7	22.1	16.9	6.5	-	-	1.3	2.6
男性	60	41.7	48.3	41.7	30.0	25.0	11.7	21.7	20.0	28.3	5.0	3.3	-	-	3.3
70代以上／女性	61	37.7	24.6	42.6	31.1	26.2	24.6	27.9	14.8	21.3	4.9	3.3	-	3.3	3.3
男性	63	34.9	23.8	36.5	33.3	15.9	22.2	20.6	19.0	33.3	1.6	-	1.6	3.2	6.3

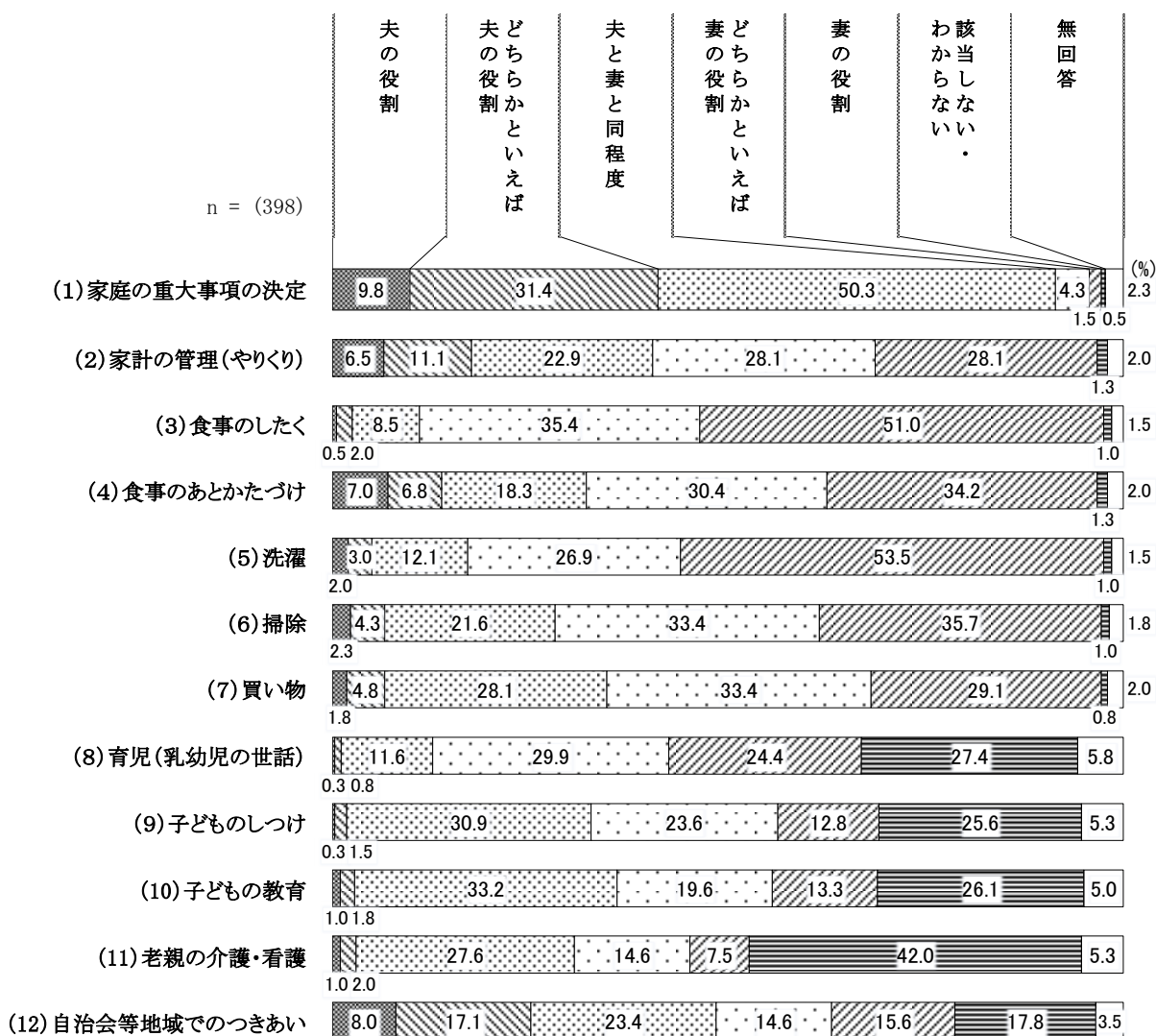
4. 日頃の生活について

(1) 夫婦の役割分担

問10 結婚している方（事実婚*の方もお答えください）におたずねします。家庭生活での、夫婦の役割分担はどのようになさっていますか。（1）から（12）のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。*本調査では、婚姻届は出していないが、パートナーと共同生活をしていることを「事実婚」と呼びます。

夫婦の役割分担について、『家庭の重大事項の決定』は「夫と妻と同程度」が約5割（50.3%）と最も多いが、＜夫の役割＞（「夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の合計）も約4割（41.2%）と多くなっている。『家計の管理（やりくり）』、『食事のしたく』、『食事のあとかたづけ』、『洗濯』、『掃除』、『買い物』、『育児（乳幼児の世話）』、『子どものしつけ』、『自治会等地域でのつきあい』は、＜妻の役割＞（「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計）が最も多くなっており、家事関連の項目は特に＜妻の役割＞が多く、また、『家計の管理』でも＜妻の役割＞が過半数（56.2%）を占めている。

『老親の介護・看護』は「夫と妻と同程度」が多く、『子どもの教育』は「夫と妻と同程度」と＜妻の役割＞がそれぞれ約3割となっている。『自治会等地域でのつきあい』は、＜夫の役割＞、「夫と妻と同程度」、＜妻の役割＞に回答が比較的分散している。



■夫婦の役割分担 性別

性別にみると、すべての項目で<妻の役割>（「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計）は、女性が男性を上回っている。『子どものしつけ』、『子どもの教育』、『老親の介護・看護』は、女性は<妻の役割>、男性は「夫と妻と同程度」が最も多くなっている。また、『自治会等地域でのつきあい』は、女性は<妻の役割>が多いが、男性は<夫の役割>（「夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」の合計）が多くなっている。



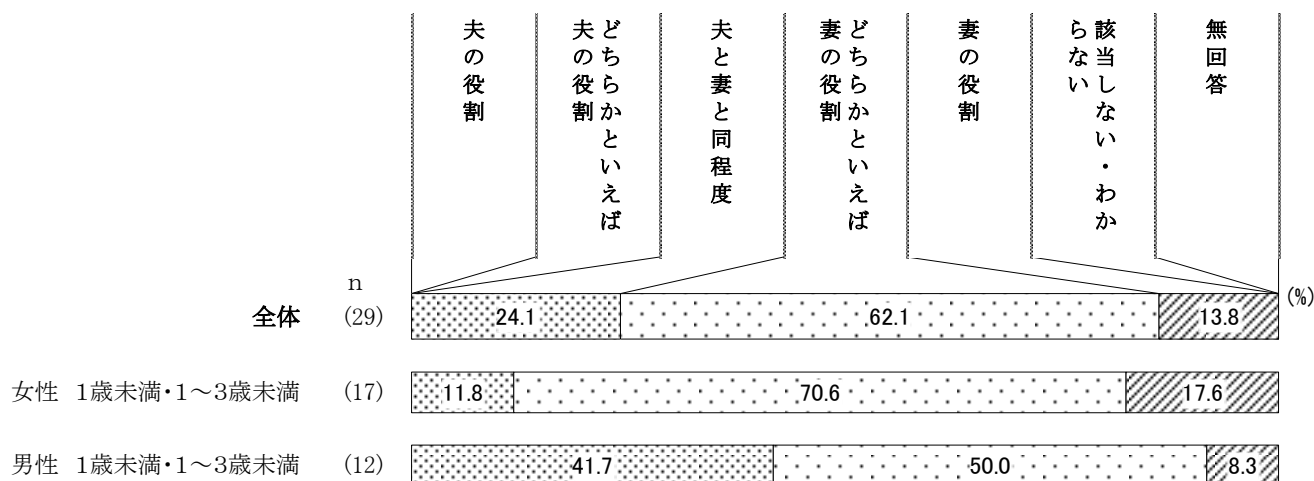
■夫婦の役割分担 性・末子の年代別（参考）

回答者が少ないため参考として性・末子年代別にみると、『育児（乳幼児の世話）』（1歳未満・1～3歳未満の末子を持つ方のみ）で、男女とも＜妻の役割＞（「妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」の合計）が多くなっているが、女性（88.2%）が男性（58.3%）を約30ポイント上回っている。一方で、「夫と妻と同程度」は男性（41.7%）が女性（11.8%）を約30ポイント上回っている。また、男女ともに「夫の役割」、「どちらかといえば夫の役割」は回答が見られなかった。

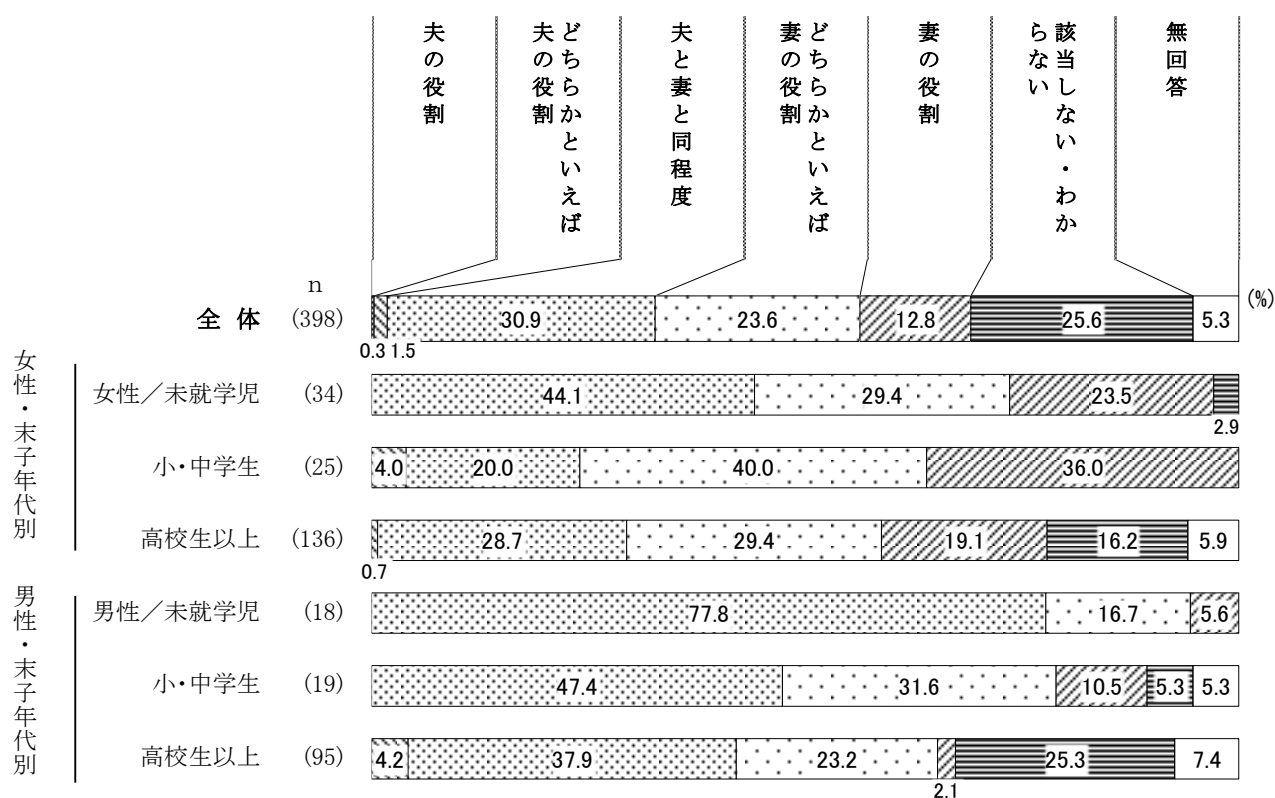
『子どものしつけ』で、＜妻の役割＞は、小・中学生を持つ女性（76.0%）が小・中学生を持つ男性（42.1%）を約34ポイント上回っている。一方で、「夫と妻と同程度」は、どの末子の年代でも男性が女性を上回っている。また、「妻の役割」は、高校生以上を持つ女性で約2割（19.1%）を占めているのに対し、高校生以上を持つ男性では2.1%とわずかとなっている。

『子どもの教育』で、＜妻の役割＞は、小・中学生を持つ女性（76.0%）が小・中学生を持つ男性（31.6%）を約45ポイント上回っている。一方で、「夫と妻と同程度」は、どの末子の年代でも男性が女性を上回っている。「どちらかといえば妻の役割」は、高校生以上を持つ男女で同程度となっているが、「妻の役割」は、高校生以上を持つ女性で約2割（21.3%）を占めているのに対し、高校生以上を持つ男性では1.1%とわずかな回答しかみられない。

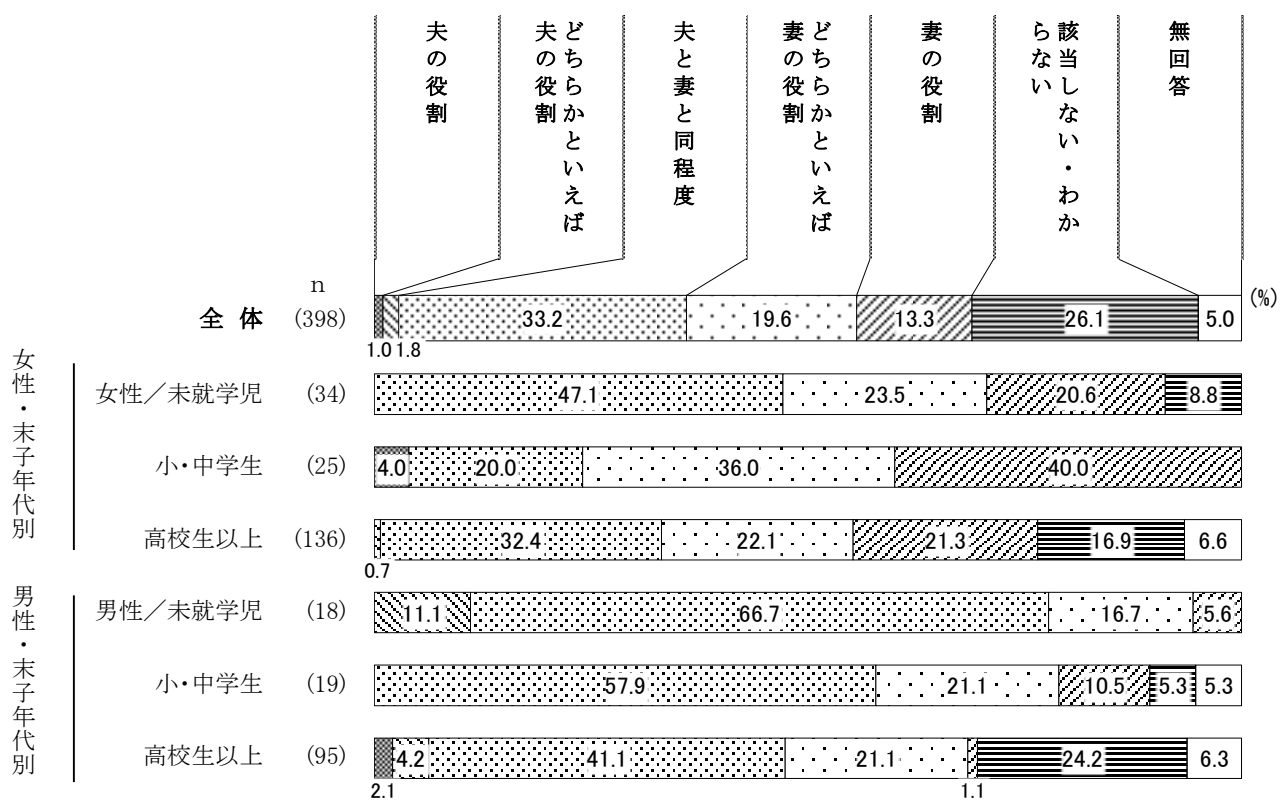
（8）育児（乳幼児の世話）



(9) 子どものしつけ



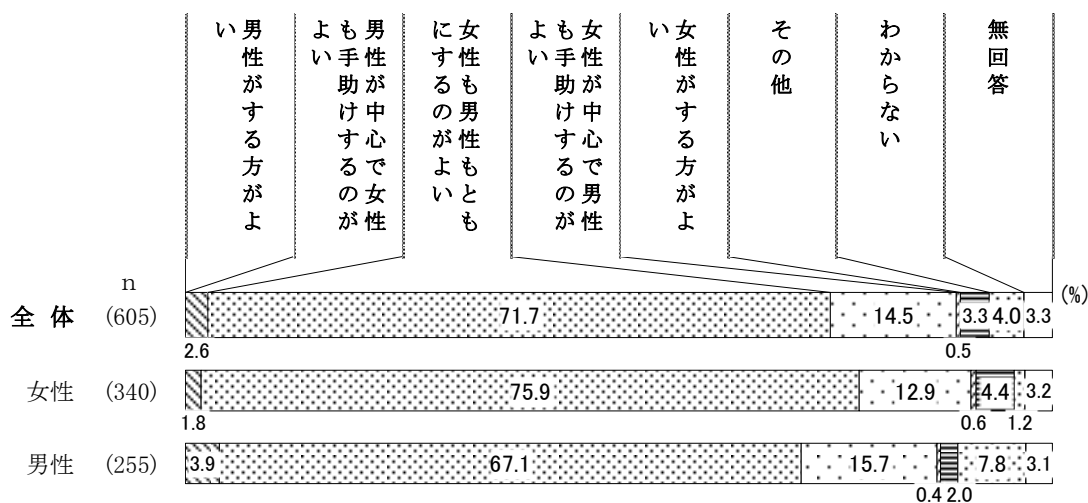
(10) 子どもの教育



(2) 介護に関する男女の役割分担

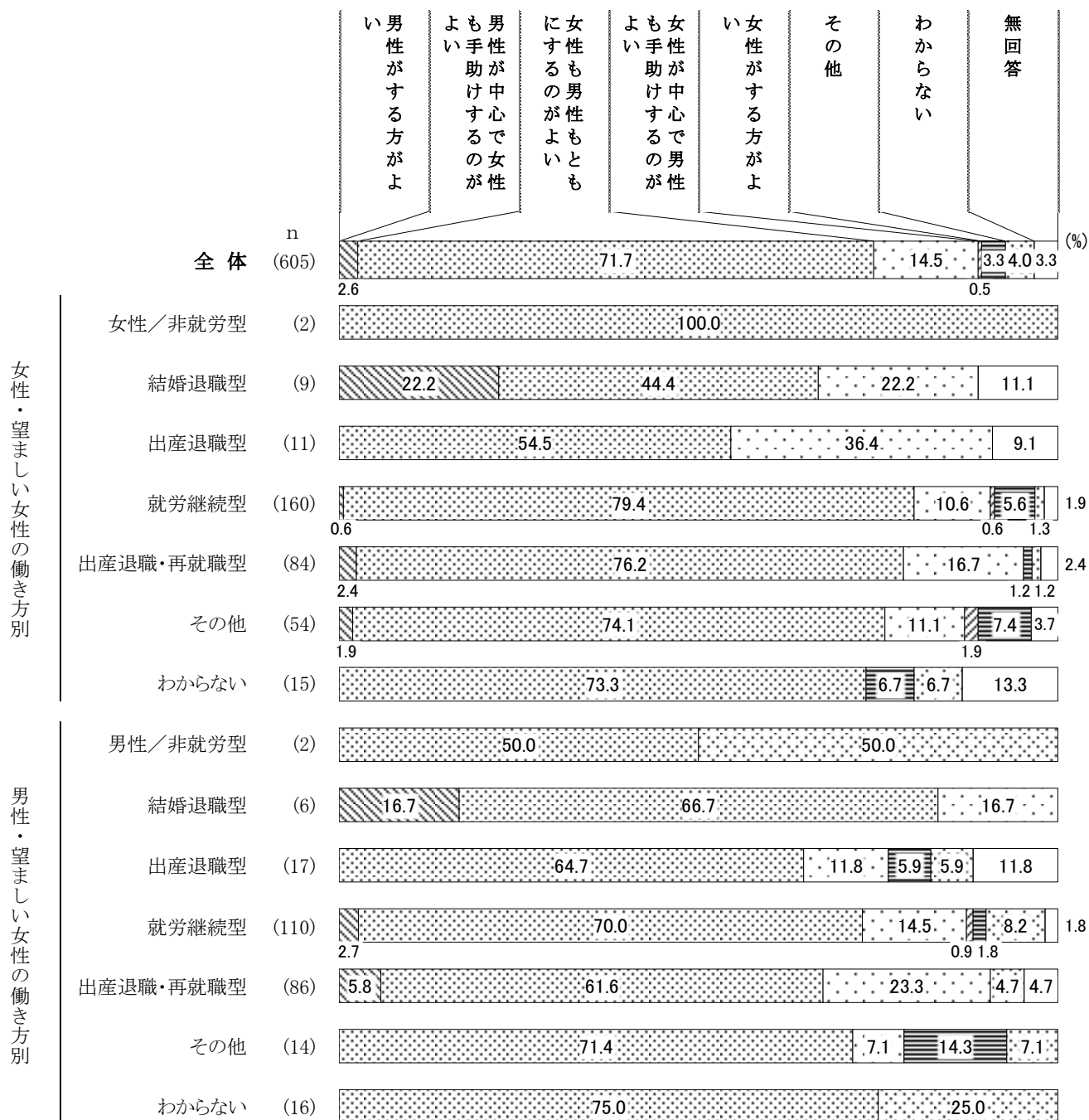
問11 お年寄りの身の回りのお世話（介護など）は、男女どちらが担うのがよいと思いますか。あなたのご意見に最も近いもの1つに○をつけてください。

介護に関する男女の役割分担について、「女性も男性もともにするのがよい」が約7割（71.7%）と最も多く、次いで「女性が中心で男性も手助けするのがよい」が約1割（14.5%）となっている。性別にみると、「女性も男性もともにするのがよい」は、女性が男性を約9ポイント上回っている。



■介護に関する男女の役割分担 性・望ましい女性の働き方別

性・望ましい女性の働き方別にみると、すべての属性で「女性も男性もともにするのがよい」が最も多くなっているが、＜出産退職・再就職型＞の女性で約8割（76.2%）、男性で約6割（61.6%）と、女性が男性を約15ポイント上回っている。一方で、「女性が中心で男性も手助けするのがよい」は、＜出産退職・再就職型＞の男性で約2割（23.3%）と、女性（16.7%）を約7ポイント上回っており、＜就業継続型＞でも男性（14.5%）が女性（10.6%）を上回っている。



女性・望ましい女性の働き方別

男性・望ましい女性の働き方別

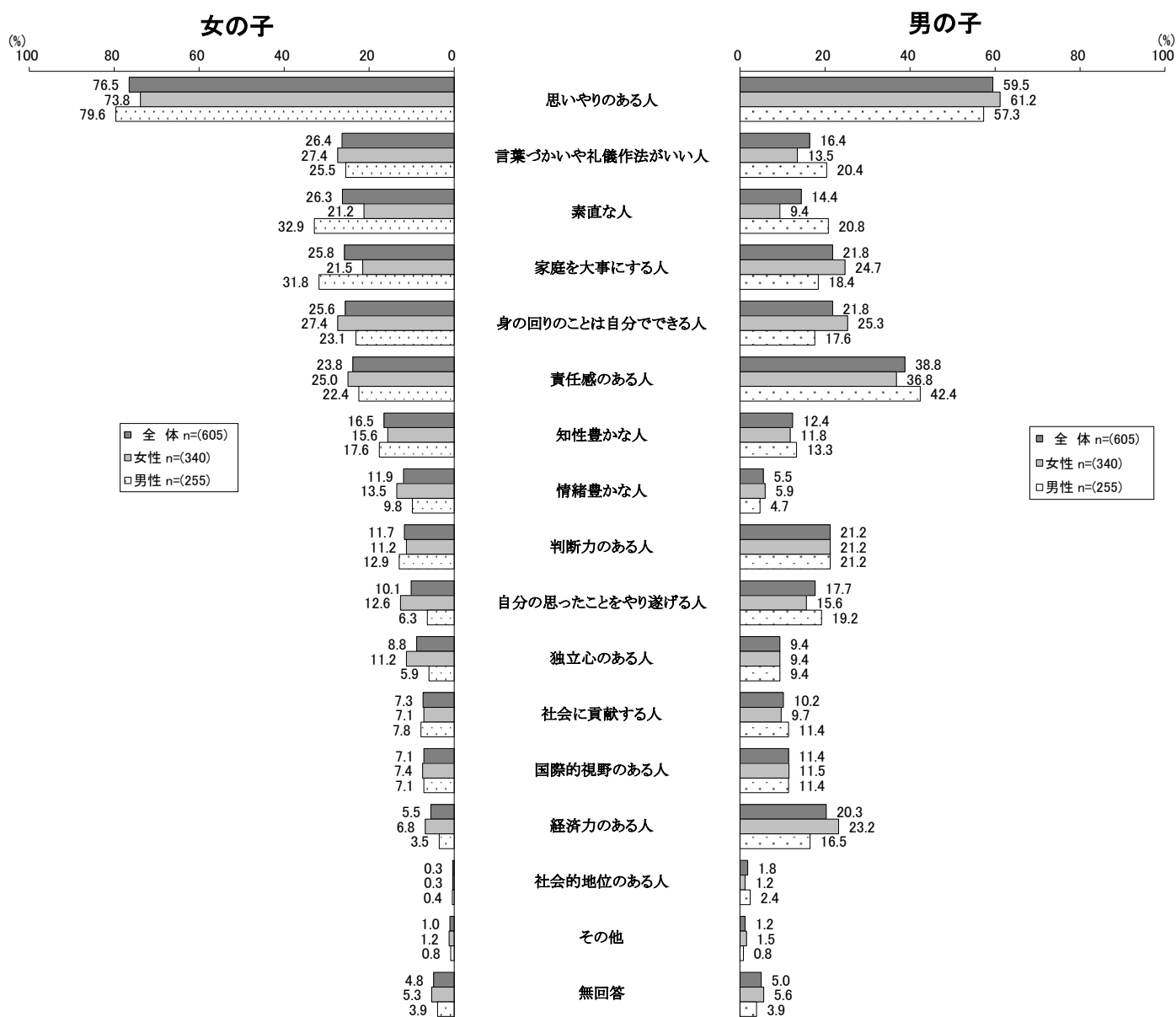
5. 子育てや教育について

(1) 子どもにどのように育ってほしいか

問12 あなたは、自分の子どもにどのように育ってほしいと思いますか。女の子・男の子に分けて、とくに大切だと思う番号を3つまで選び数字を記入してください。子どものいない方も子どもがいると仮定してお答えください。同じ番号を女の子、男の子の両方に記入しても結構です。

子どもにどのように育ってほしいかについて、女の子、男の子ともに「思いやりのある人」が最も多くなっている。次いで、女の子は「言葉づかいや礼儀作法がいい人」、「素直な人」、男の子は「責任感のある人」、「身の回りのことは自分でできる人」、「家庭を大事にする人」がそれぞれ多くなっている。

性別にみると、女の子、男の子ともに「素直な人」は、男性が女性を約11ポイント上回っている。女の子の「家庭を大事にする人」でも男性が女性を約10ポイント上回っている。男の子の「経済力のある人」は、女性が男性を約7ポイント上回っている。

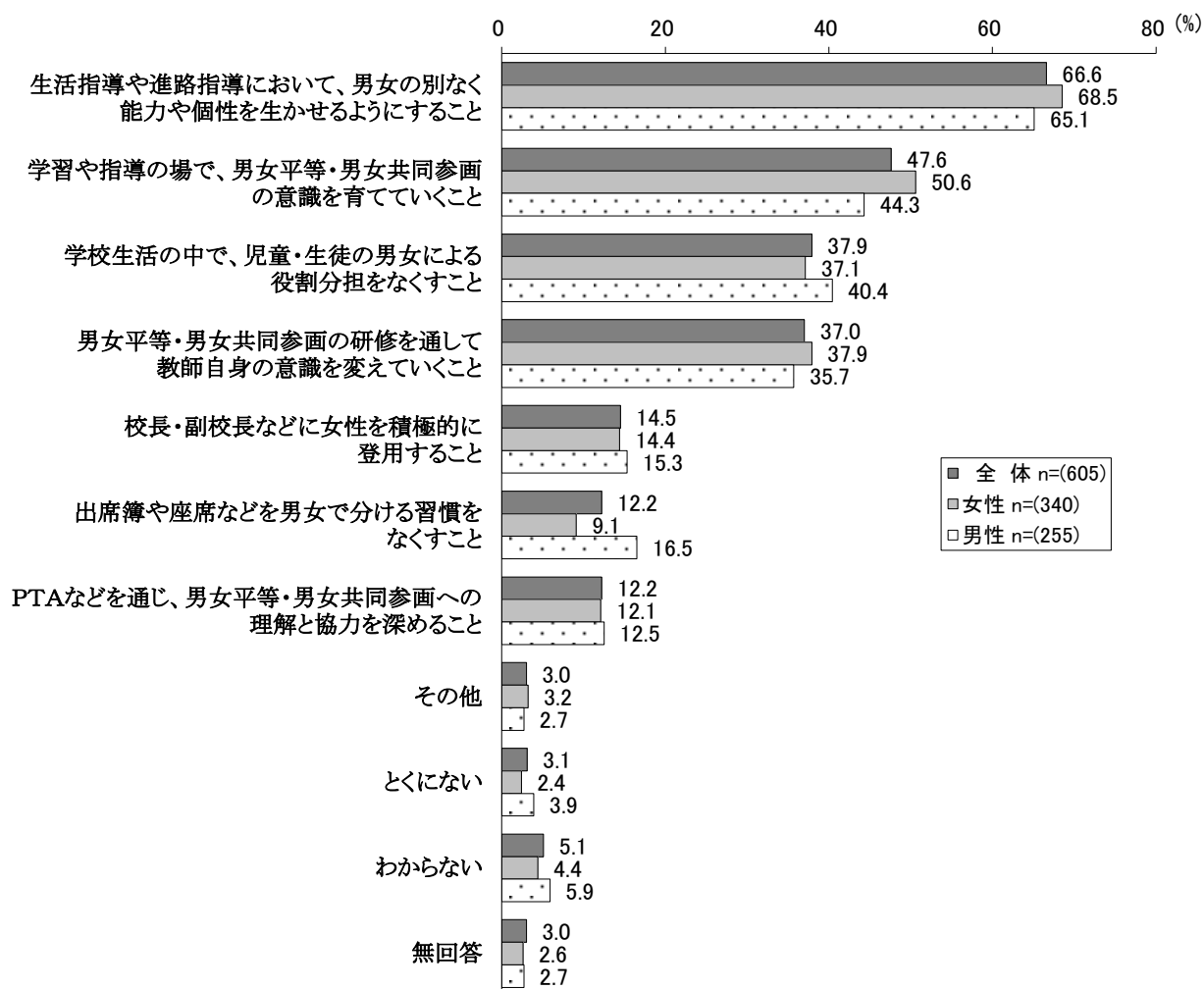


(2) 学校教育における施策の重要性

問13 男女平等・男女共同参画社会を実現するためには、学校における教育が重要であるといわれています。つぎの中から、あなたが重要だと思うものの番号に3つまで○をつけてください。

学校教育における施策の重要性について、「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力や個性を生かせるようにすること」が約7割（66.6%）と最も多く、次いで「学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと」が約5割（47.6%）となっている。

性別にみると、「学習や指導の場で、男女平等・男女共同参画の意識を育てていくこと」は、女性が男性を約6ポイント上回っており、「出席簿や座席などを男女で分ける習慣をなくすこと」は、男性が女性を約7ポイント上回っている。

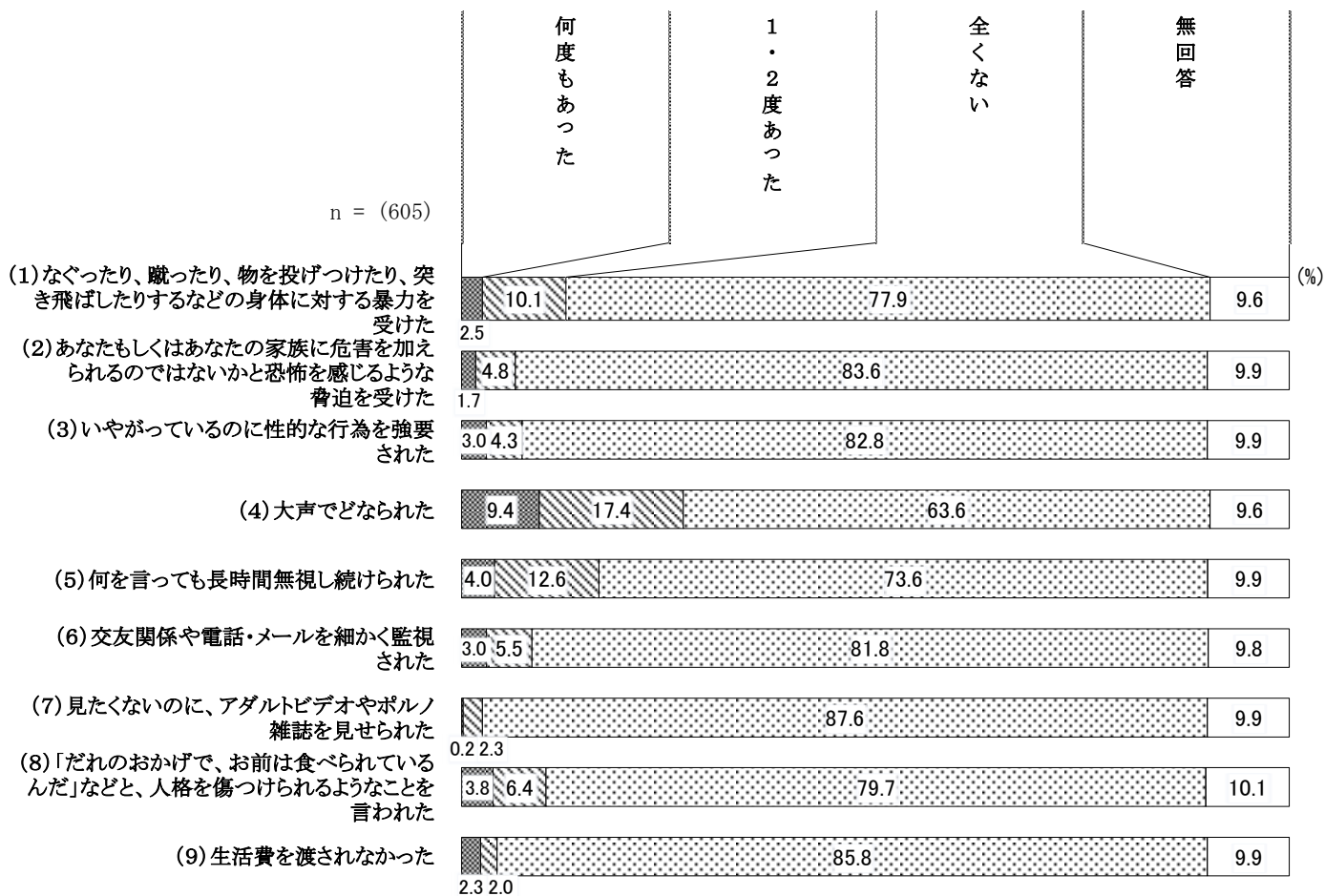


6. 暴力（DVなど）について

(1) 暴力を受けた経験

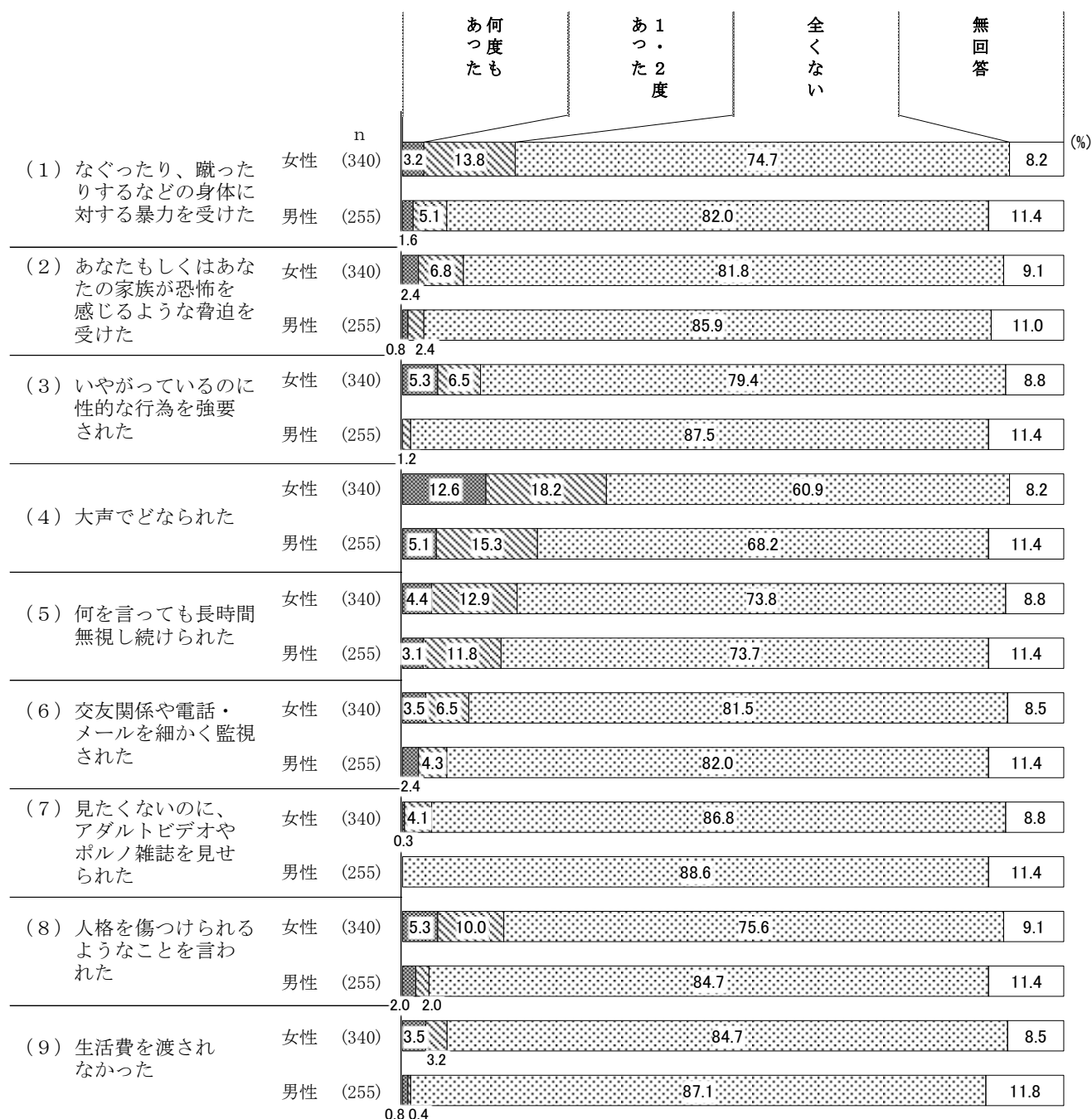
問14 現在、配偶者やパートナー、恋人がいる方、または過去にいた方におたずねします。あなたは、これまでに配偶者やパートナー、恋人などから、次のような行為をされたことがありますか。(1) から (9) のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

『大声でどなられた』という経験がある人は、「何度もあった」、「1・2度あった」と回答した人を合わせて約3割（26.8%）ですべての項目の中で最も多かった。次いで、『何を言っても長時間無視し続けられた』という経験がある人が約2割（16.6%）、『なぐったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた』という経験がある人が約1割（12.6%）となっている。



■暴力を受けた経験 性別

性別にみると、すべての項目で「何度もあった」と「1・2度あった」の合計は、女性が男性を上回っている。『大声でどなられた』という経験がある人は、女性で約3割（30.8%）、男性で約2割（20.4%）と最も多くなっている。『見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せられた』という経験がある人は、男性で回答者が見られない一方で、女性では4%程度となっている。

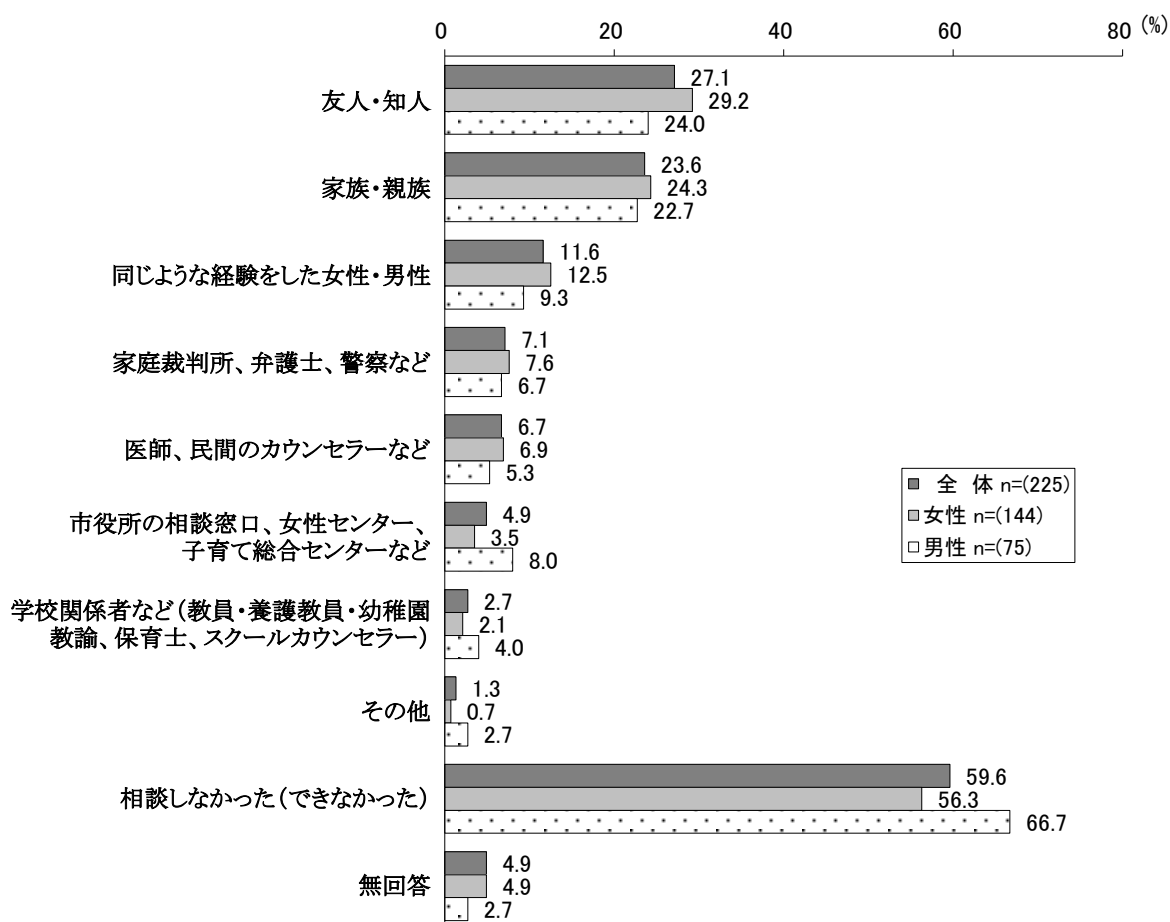


(2) 暴力を受けたときの相談相手・アドバイス

付問1 問14で(1)から(9)のうち、ひとつでも1、2に回答した方におたずねします。あなたは、暴力を受けたとき、どなたかに相談をしましたか。また、その結果、どのようなアドバイスを受けましたか。相談先(①から⑨)と、その際受けたアドバイス(1から7)について、それぞれあてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

暴力を受けたときの相談相手について、「相談しなかった(できなかった)」が約6割(59.6%)を占めている。相談先としては「友人・知人」約3割(27.1%)と「家族・親戚」約2割(23.6%)が多くなっている。

性別にみると、「相談しなかった(できなかった)」は、男性が女性を約10ポイント上回っている。



■相談先・相談した結果、受けたアドバイス

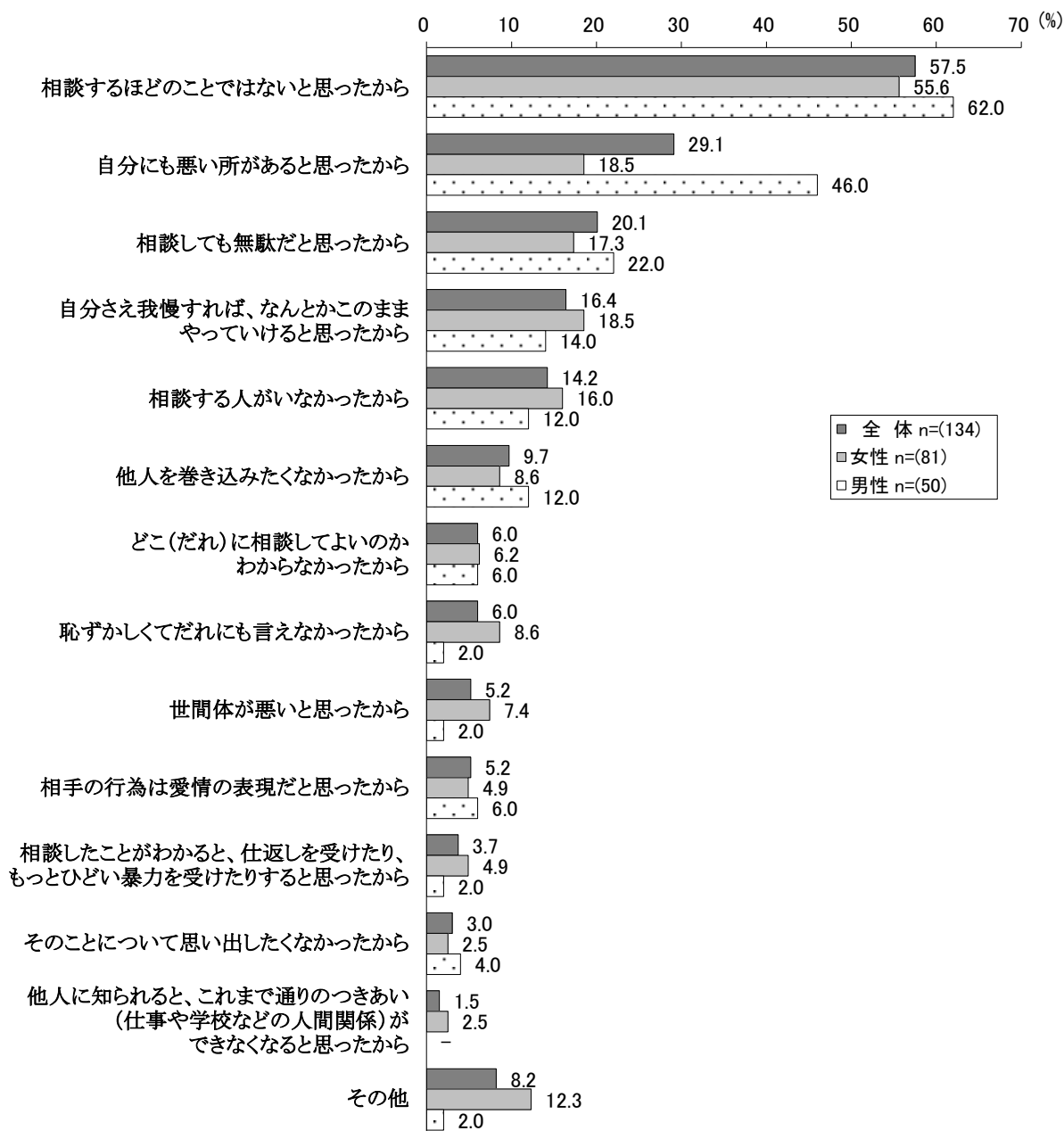
どの相談先においても、「あなたは悪くないと言われた」と「逃げた（別れた）ほうが良いと言われた」というアドバイスが多くなっている。『家族・親族』、『友人・知人』、『同じような経験をした女性・男性』に相談した場合、「あなたは悪くないと言われた」というアドバイスを受けた人が半数を超えている。『家族・親族』、『友人・知人』から受けたアドバイスでは、次いで「逃げた（別れた）ほうが良いと言われた」が多くなっている。一方で、『家族・親族』、『友人・知人』から「まともに（真剣に）取り合ってもらえなかった」、「あなたが我慢すればよいと言われた」というアドバイスを受けたという回答も一定数見られる。「相談先の機関で引き続き相談を続けることを勧められた」というアドバイスはどの相談先においても少なくなっている。

相談先	相談した結果、受けたアドバイス（件）						
	まともに（真剣に）取り合ってもらえなかった	あなたが我慢すればよいと言われた	あなたは悪くないと言われた	相談先の機関で引き続き相談を続けることを勧められた	逃げた（別れた）ほうが良いと言われた	専門機関（弁護士、警察、医師、女性センター、子育て総合センターなど）を紹介された	その他
① 家族・親族（n=53）	8	8	28	-	11	2	4
② 友人・知人（n=61）	8	1	33	2	19	2	1
③ 同じような経験をした女性・男性（n=26）	1	3	14	1	6	-	1
④ 家庭裁判所、弁護士、警察など（n=16）	1	1	3	-	6	4	2
⑤ 市役所の相談窓口、女性センター、子育て総合センターなど（n=11）	-	-	3	2	2	3	1
⑥ 医師、民間のカウンセラーなど（n=15）	-	-	7	4	1	1	3
⑦ 学校関係者など（教員・養護教員・幼稚園教諭、保育士、スクールカウンセラー）（n=6）	-	-	3	1	-	2	1
⑧ その他（n=3）	-	-	2	-	-	-	1

(3) 相談しなかった（できなかった）理由

付問2 問14付問1で⑨「相談しなかった（できなかった）」と回答した方におたずねします。あなたが相談しなかった（できなかった）理由はなんですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

相談しなかった（できなかった）理由について、「相談するほどのことではないと思ったから」が約6割（57.5%）と最も多く、次いで「自分にも悪い所があると思ったから」が約3割（29.1%）、「相談しても無駄だと思ったから」約2割（20.1%）となっている。また、「相談する人がいなかったから」、「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」といった回答も1割前後となっている。性別にみると、「自分にも悪い所があると思ったから」は、女性が約2割（18.5%）、男性が約5割（46.0%）で、男性が女性を約28ポイント上回っている。



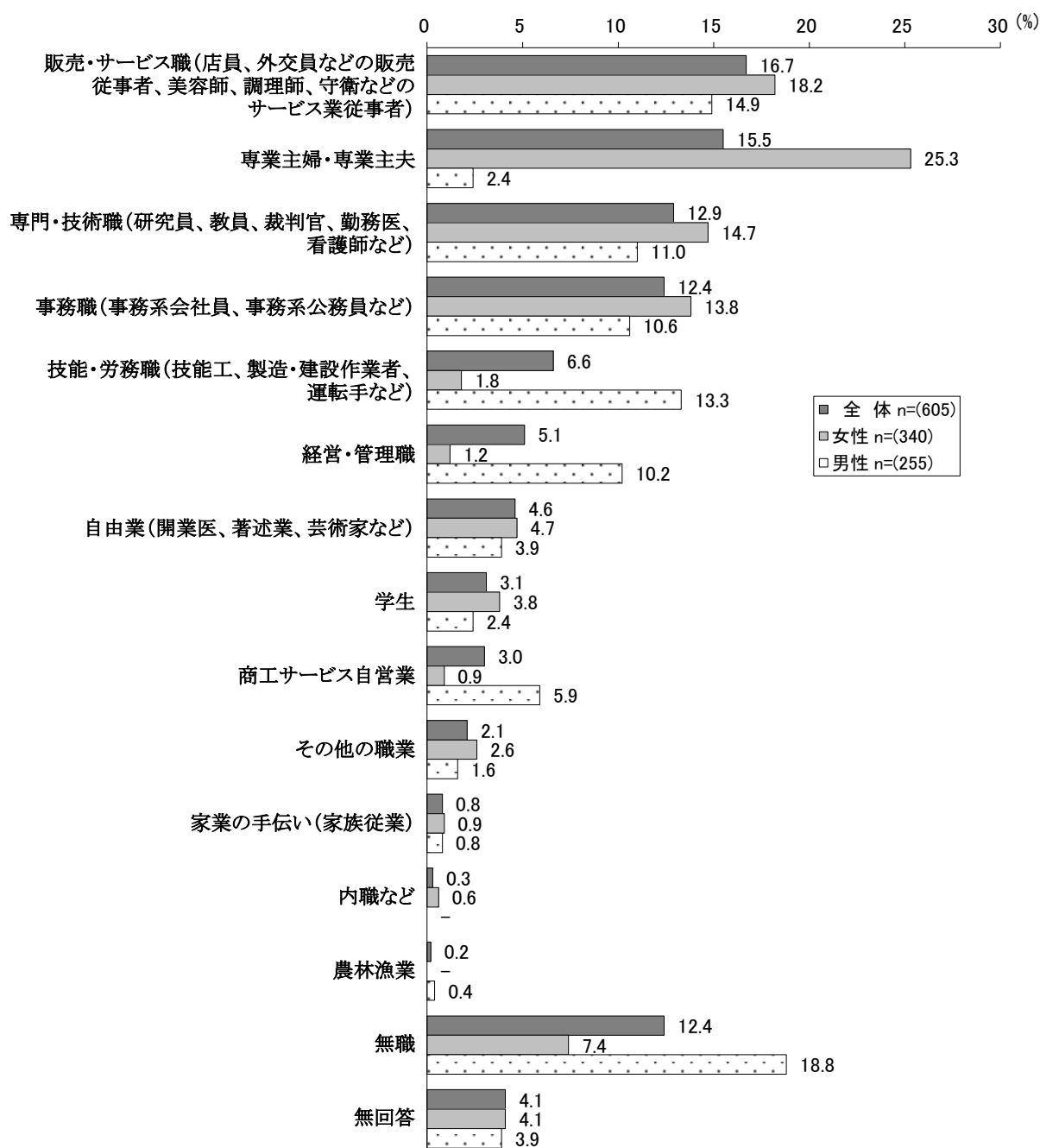
7. 仕事・職場について

(1) 職業について

問15 あなたの職業（パート・アルバイトなどを含む。複数の職業をおもちの方は主なものはつぎのうちどれにあたりますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

職業について、「販売・サービス業（店員、外交員などの販売従事者、美容師、調理師、守衛などのサービス従事者）」が約2割（16.7%）と最も多く、次いで「専業主婦・専業主夫」約2割（15.5%）、「専門・技術職（研究員、教員、裁判官、勤務医、看護師など）」約1割（12.9%）となっている。

性別にみると、女性は「専業主婦・専業主夫」が約3割（25.3%）と最も多く、男性は「無職」が約2割（18.8%）と最も多くなっている。



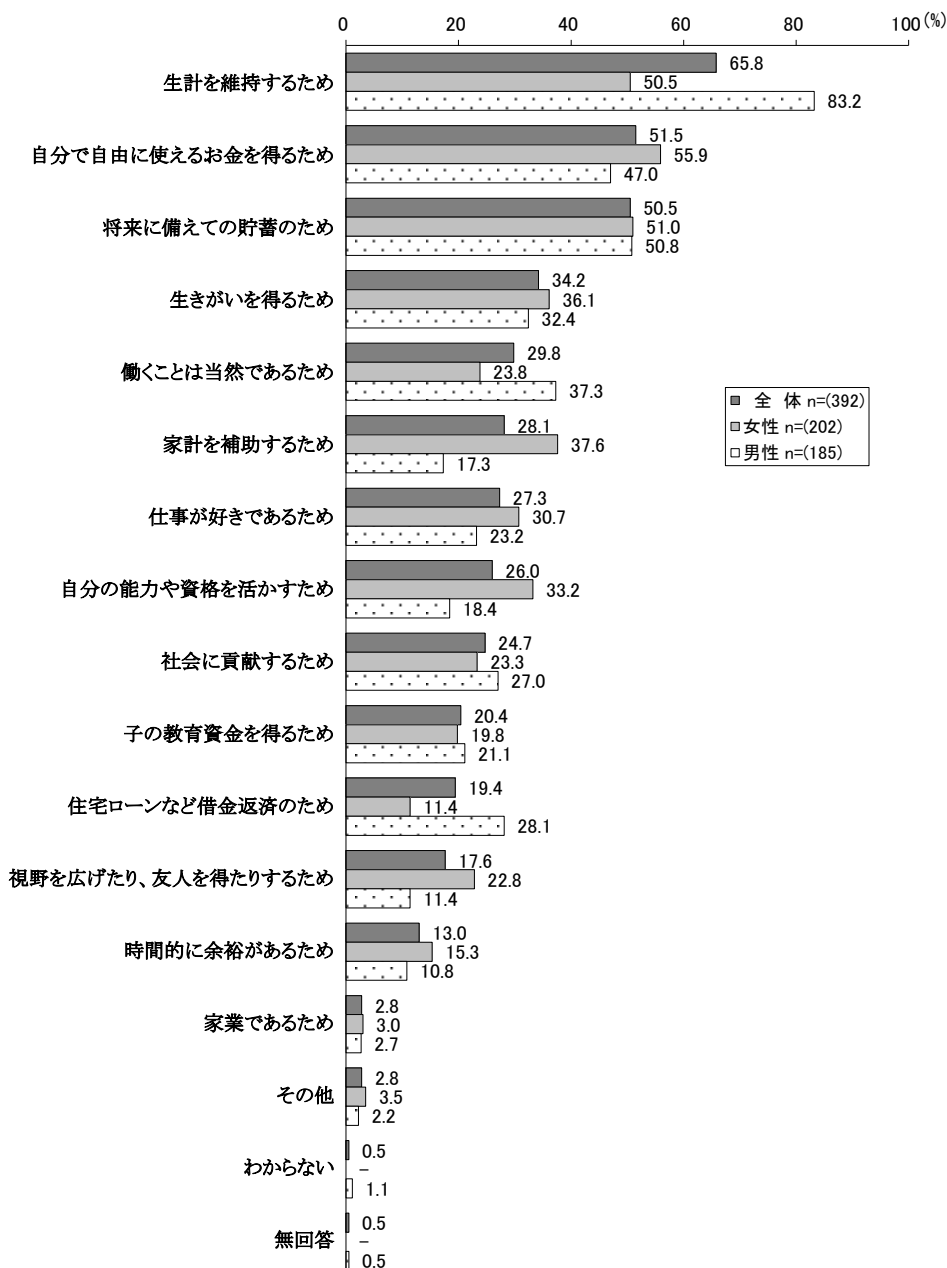
(2) 働いている理由（有職者）

【問15で1～11と回答した方（有職の方）に、おたずねします】

問16 あなたが働いている理由はつぎのうちどれですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

働いている理由について、「生計を維持するため」が約7割（65.8%）と最も多く、次いで「自分で自由に使えるお金を得るため」約5割（51.5%）、「将来に備えての貯蓄のため」約5割（50.5%）となっている。

性別にみると、女性は「自分で自由に使えるお金を得るため」が約6割（55.9%）と最も多く、男性と比べて「自分の能力や資格を活かすため」、「仕事が好きであるため」、「視野を広げたり、友人を得たりするため」が多くなっている。男性は「生計を維持するため」が約8割（83.2%）と特に多くなっている。また、「住宅ローンなど借金返済のため」は、男性（28.1%）が女性（11.4%）を約17ポイント、「働くことは当然であるため」は、男性（37.3%）が女性（23.8%）を約14ポイント上回っている。



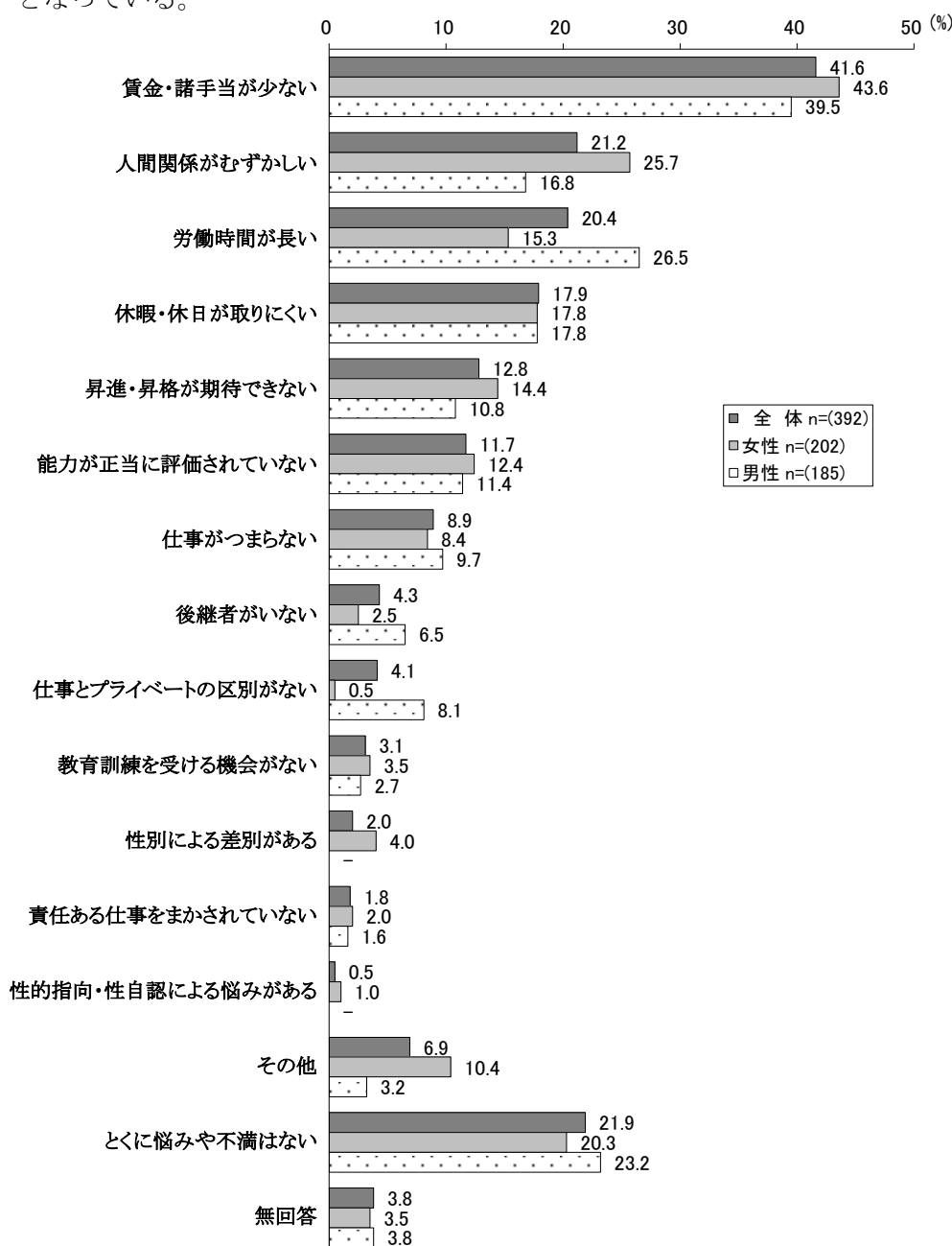
(3) 仕事上の悩み (有職者)

【問15で1~11と回答した方(有職の方)に、おたずねします】

問17 あなたが現在の仕事上で悩みがあるとしたら、それはどのような点ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

仕事上の悩みについて、「賃金・諸手当が少ない」が約4割(41.6%)と最も多くなっている。次いで「人間関係がむずかしい」約2割(21.2%)、「労働時間が長い」約2割(20.4%)となっているが、「とくに悩みや不満はない」も約2割(21.9%)となっている。「性別による差別がある」、「性的指向・性自認による悩みがある」は合わせて2%程度と低くなっている。

性別にみると、「人間関係がむずかしい」は女性で約3割(25.7%)と多く、男性を約9ポイント上回っており、「労働時間が長い」は男性で約3割(26.5%)と多く、女性を約11ポイント上回っている。「仕事とプライベートの区別がない」は、女性で回答者がほとんどみられない一方で、男性では約1割(8.1%)となっている。

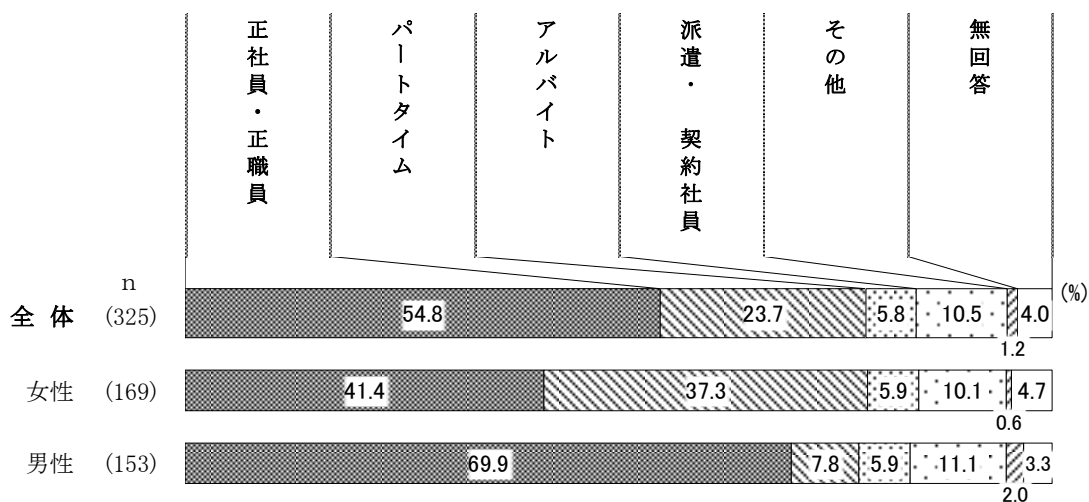


(4) 働き方（企業・団体に雇用されている方）

【問15で5～9（企業・団体に雇用されている方）と回答した方に、おたずねします】
 問18 あなたの働き方はつぎのうちどれですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

働き方について、「正社員・正職員」が約5割（54.8%）と最も多く、次いで「パートタイム」約2割（23.7%）、「派遣・契約社員」約1割（10.5%）となっている。

性別にみると、女性は「正社員・正職員」約4割（41.4%）と「パートタイム」約4割（37.3%）が同程度になっている。男性は「正社員・正職員」が約7割（69.9%）を占めており、特に多い。女性の＜非正規雇用＞（「パートタイム」、「アルバイト」、「派遣・契約社員」の合計）は5割以上（53.3%）を占めており、男性の＜非正規雇用＞（24.8%）を約30ポイント上回っている。

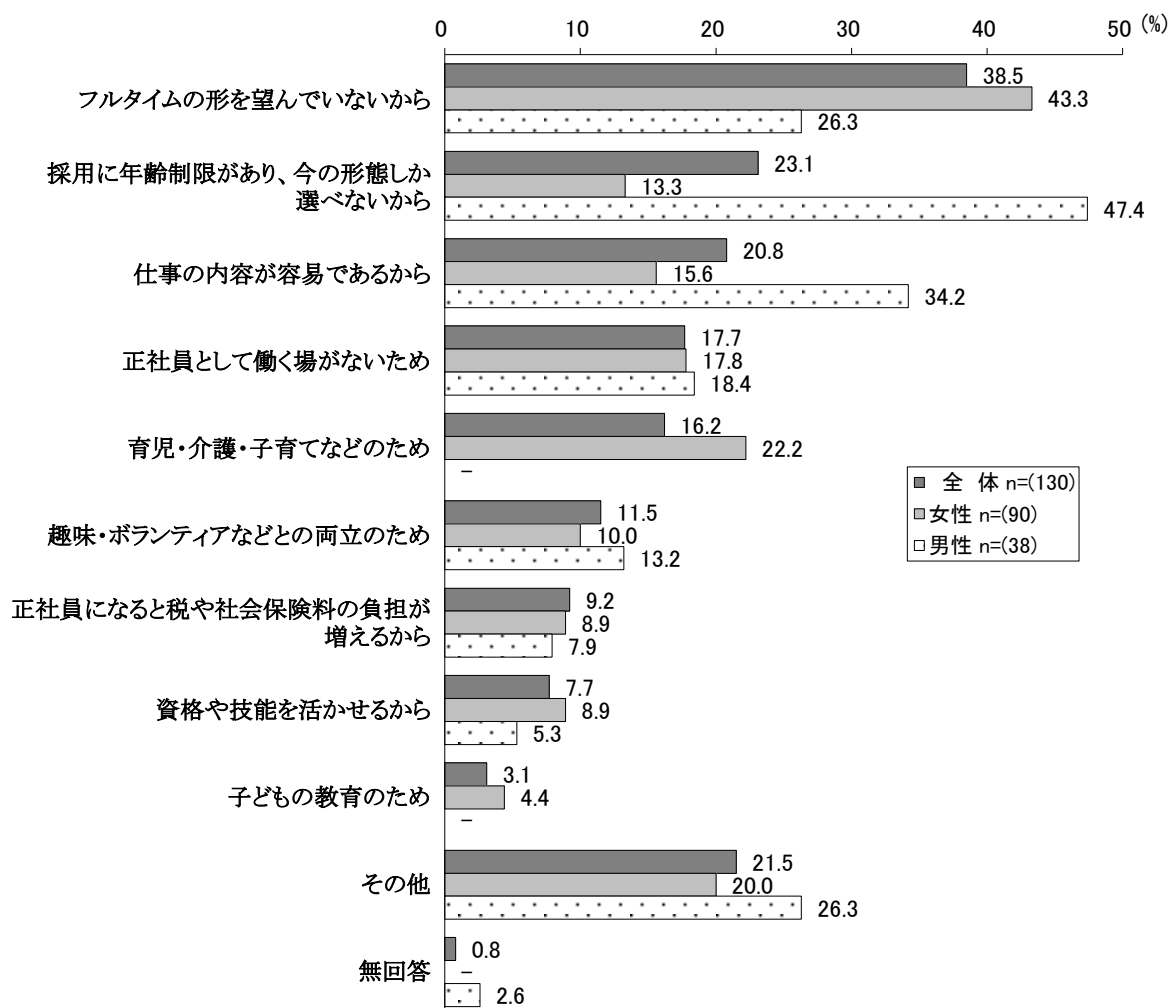


(5) 非正規雇用で働く理由（企業・団体に雇用されている方）

付問 問18で2～4に回答した方におたずねします。パートタイム、アルバイト、派遣・契約社員で働いている理由は何ですか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

非正規雇用で働く理由について、「フルタイムの形を望んでいないから」が約4割（38.5%）と最も多く、次いで「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」約2割（23.1%）、「仕事の内容が容易であるから」約2割（20.8%）となっている。

性別にみると、女性は「フルタイムの形を望んでいないから」が約4割（43.3%）と最も多く、男性は「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」が約5割（47.4%）と最も多くなっている。「採用に年齢制限があり、今の形態しか選べないから」は、男性が女性を約34ポイント上回っており、「仕事の内容が容易であるから」も男性が約3割（34.2%）、女性が約2割（15.6%）で男性が女性を約20ポイント上回っている。「育児・介護・子育てなどのため」は、男性で回答者がいない一方で、女性では約2割（22.2%）となっている。

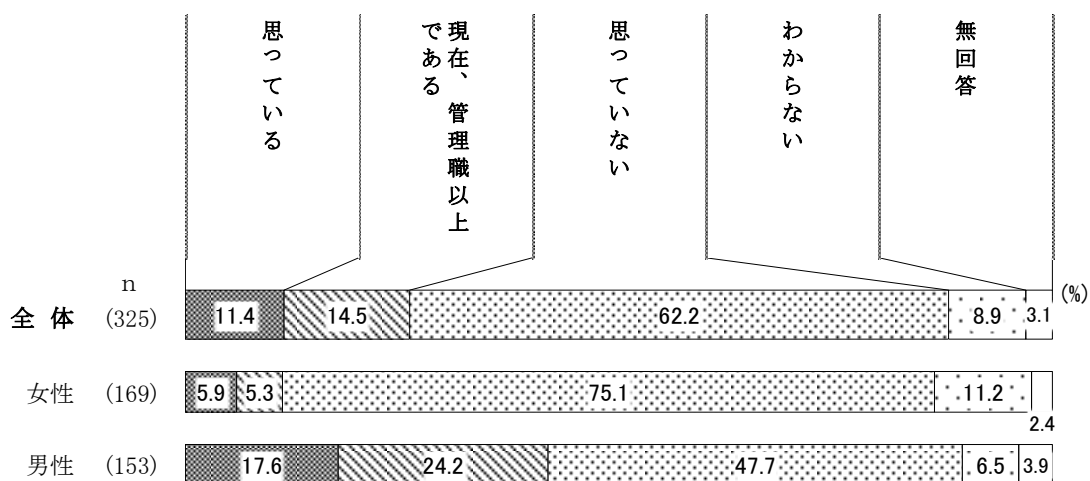


(6) 昇進の意向（企業・団体に雇用されている方）

問19 将来、あなたは管理職以上に昇進したいと思っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

昇進の意向について、「思っていない」が約6割（62.2%）と最も多く、次いで「現在、管理職以上である」約1割（14.5%）、「思っている」約1割（11.4%）となっている。

性別にみると、「思っていない」は女性が約8割（75.1%）、男性が約5割（47.7%）となっており、男女ともに最も多くなっている。「思っている」は男性が女性を約12ポイント、「現在、管理職以上である」は男性が女性を約19ポイント上回っている。

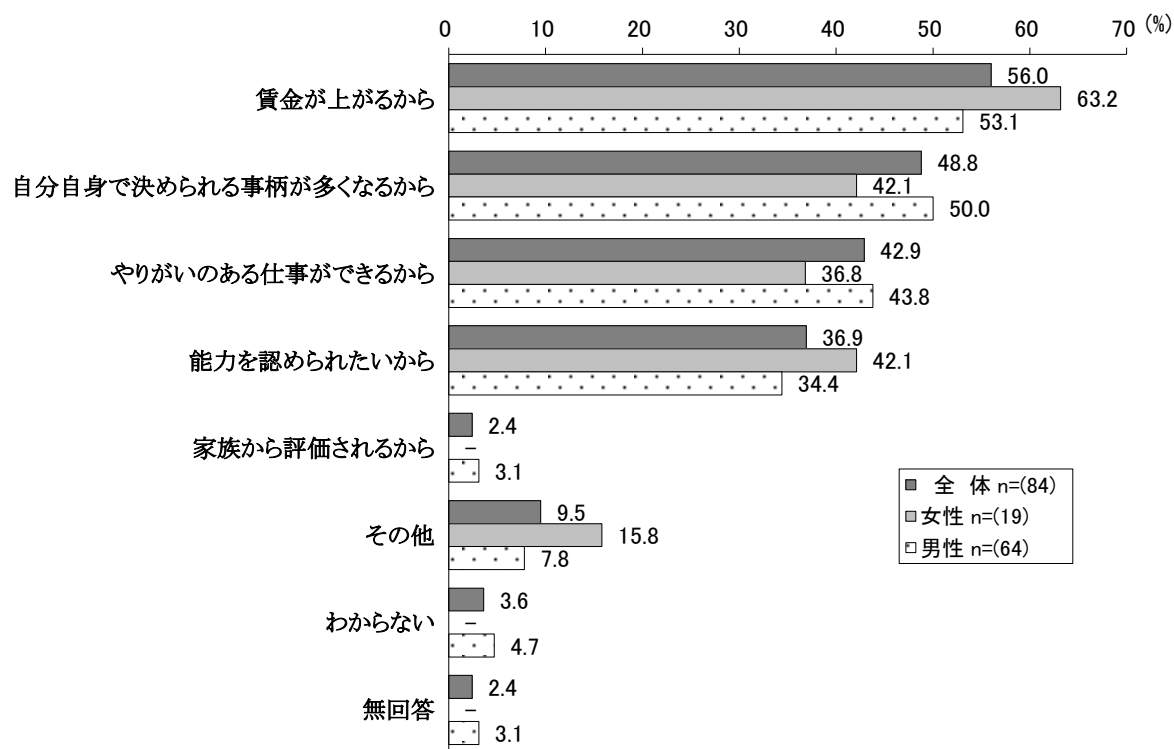


(7) 昇進したい・した理由（企業・団体に雇用されている方）

付問 問19で1または2と回答した方におたずねします。管理職以上に昇進したいと思っている理由、管理職以上に昇進した理由は何ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。

昇進したい・した理由について、「賃金が上がるから」が約6割（56.0%）と最も多く、次いで「自分自身で決められる事柄が多くなるから」約5割（48.8%）、「やりがいのある仕事ができるから」約4割（42.9%）、「能力を認められたいから」約4割（36.9%）となっている。

性別にみると、男性は「賃金が上がるから」と「自分自身で決められる事柄が多くなるから」が約5割と多く、次いで「やりがいのある仕事ができるから」が約4割（43.8%）となっている。女性は回答者数が少ないため参考にと、「賃金が上がるから」が約6割（63.2%）と最も多く、次いで「自分自身で決められる事柄が多くなるから」、「能力を認められたいから」が約4割（42.1%）で同値となっている。

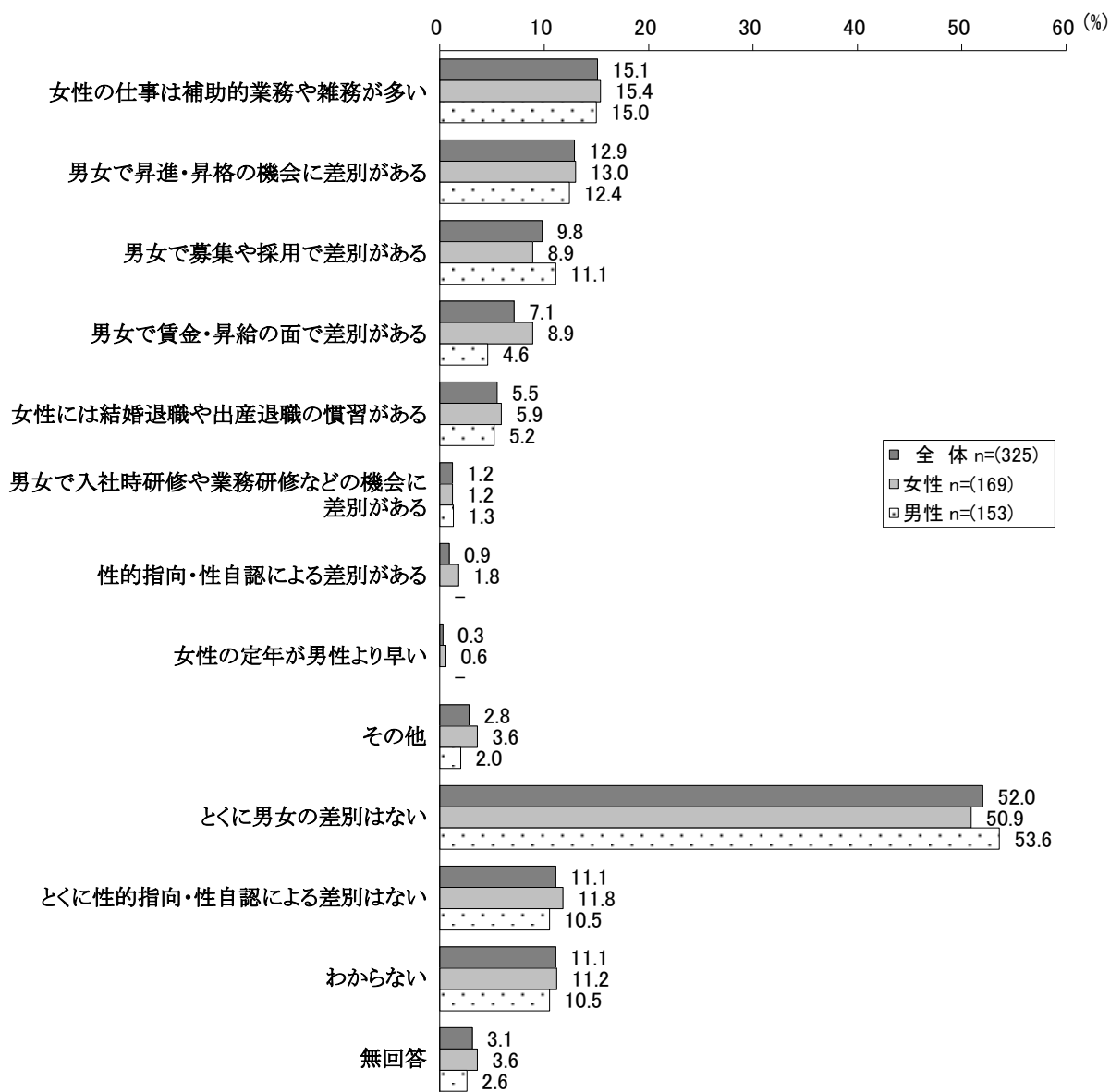


(8) 職場での性別による差別（企業・団体に雇用されている方）

問20 あなたの職場では、つぎのような性別による差別がありますか。思いあたるものの番号にいくつでも○をつけてください。

職場での性別による差別について、「とくに男女の差別はない」が約5割（52.0%）と最も多く、過半数を占めている。次いで「女性の仕事は補助的業務や雑務が多い」が約2割（15.1%）、「男女で昇進・昇格の機会に差別がある」が約1割（12.9%）となっている。

性別にみると、男女ともに「とくに男女の差別はない」が約5割となっている。「男女で賃金・昇給の面で差別がある」は女性が男性を約4ポイント上回っている。



(9) 育児・介護休業の取得・意向・周知度（企業・団体に雇用されている方）

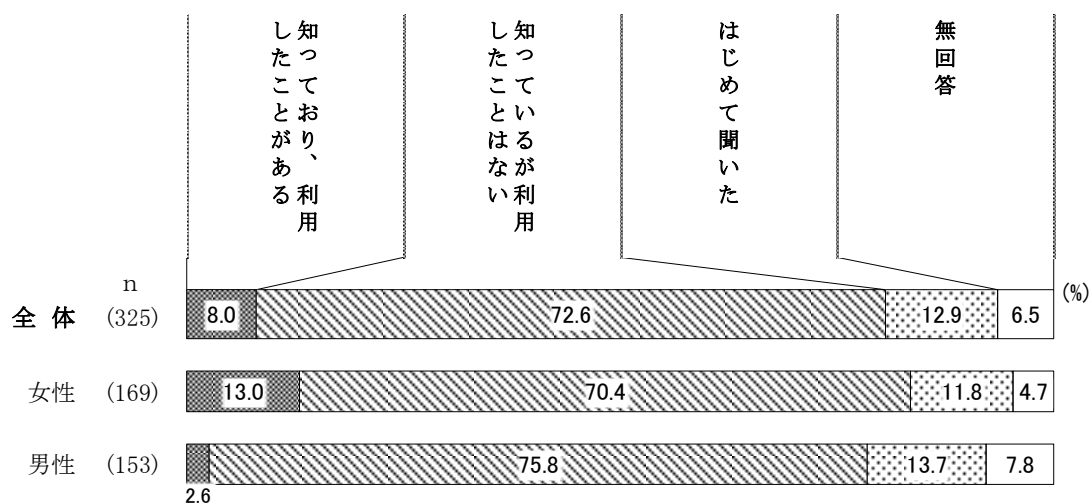
問21 働く男女が生活も仕事も両立できるよう支援するため「改正育児・介護休業法」が施行されています。「育児・介護休業制度」は男女ともに取得できる制度です。あなたはこの制度を知っていますか。また利用したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

(1) 育児休業

【周知度】

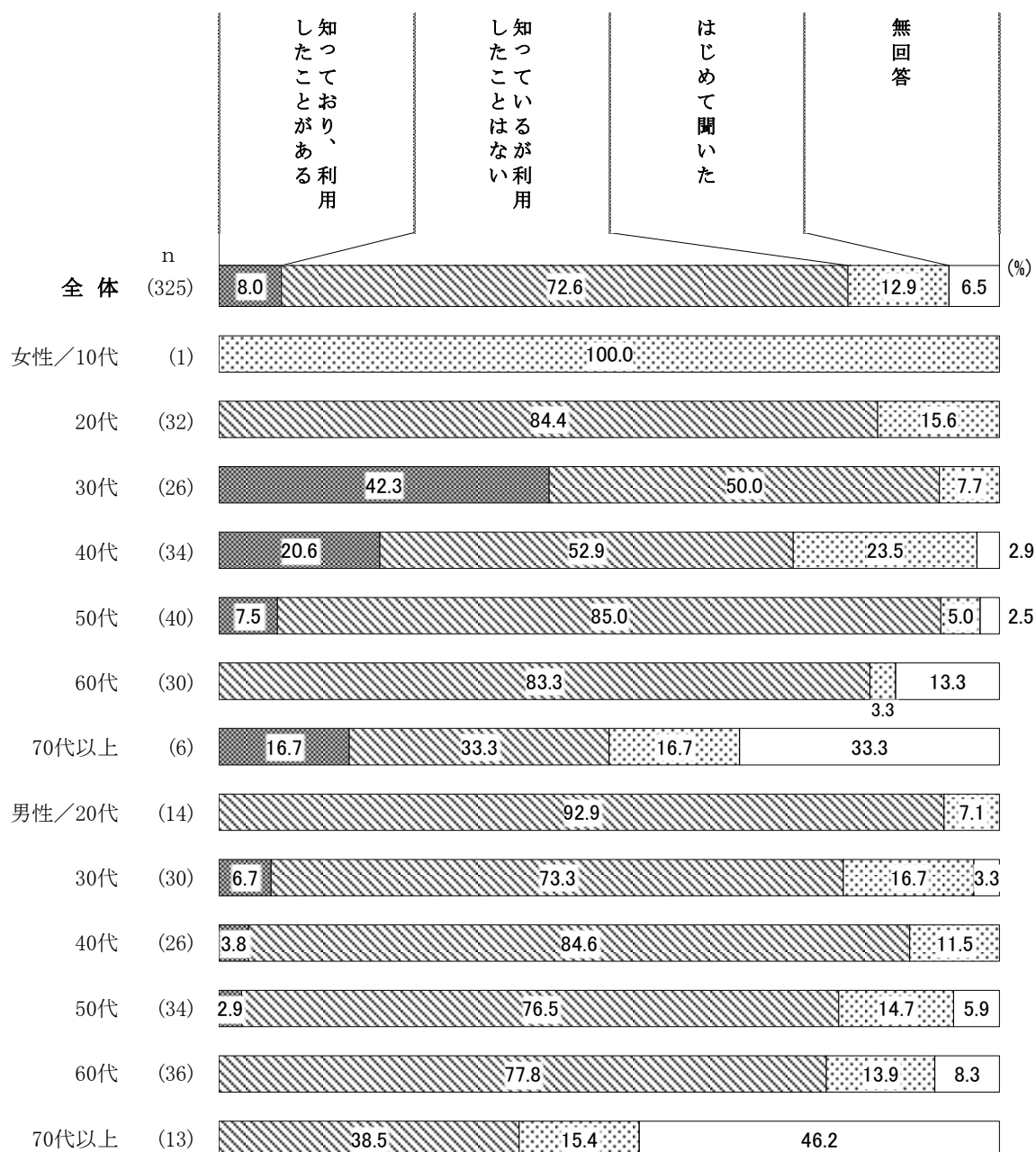
育児休業について、「知っているが利用したことはない」が約7割（72.6%）を占めており、「はじめて聞いた」は約1割（12.9%）となっている。

性別にみると、「知っており、利用したことがある」は女性（13.0%）が男性（2.6%）を約10ポイント上回っている。



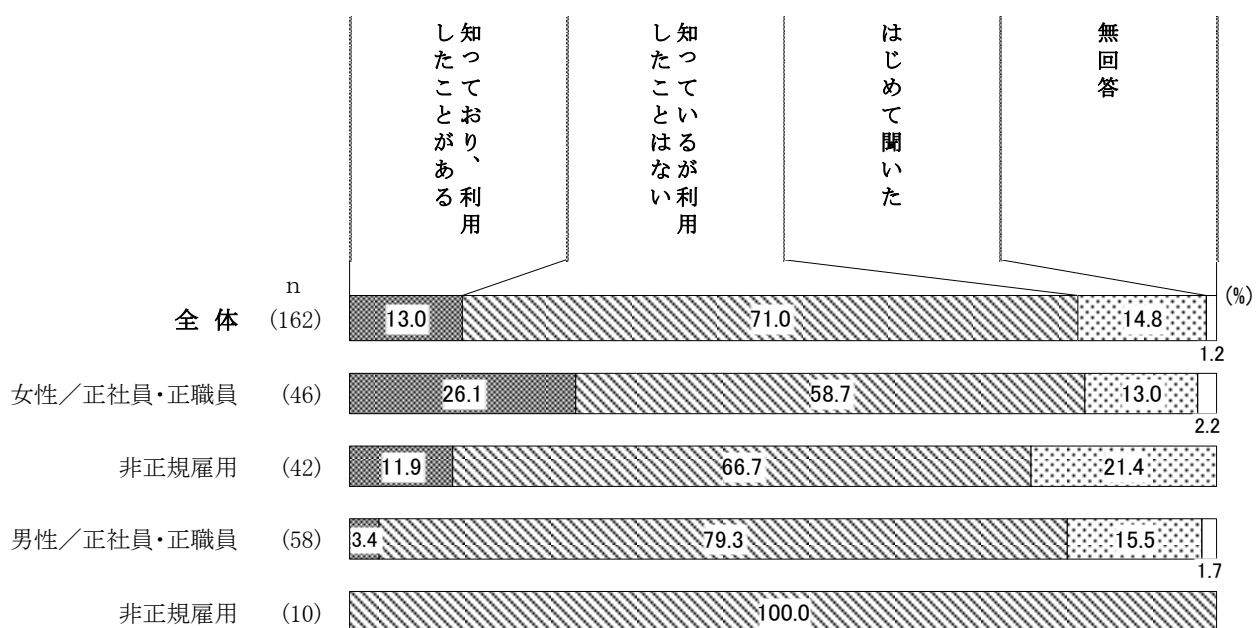
■周知度 性・年代別

一部回答者が少ないため参考にとり性・年代別にみると、「知っており、利用したことがある」は、女性は30代～50代と70代以上、男性は30～50代で回答があり、男女ともに30代で「知っており、利用したことがある」が最も多くなっている。しかし、どの年代でも女性が男性を大きく上回っている。「知っているが利用したことはない」は、女性は20代、50代、60代で8割以上と特に高くなっており、男性は70代以上を除いて7割以上と高くなっている。



■周知度 性・働き方別（20代・30代・40代のみ）

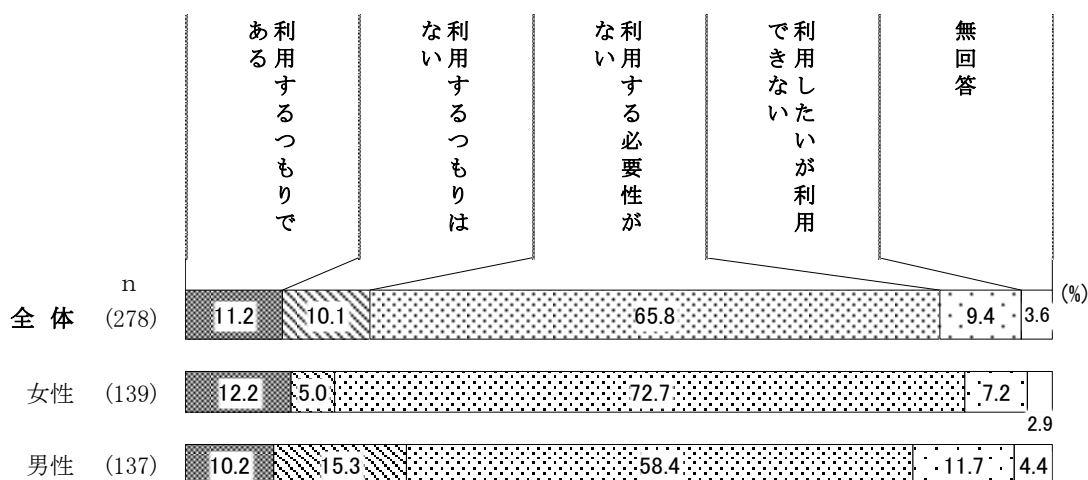
20代・30代・40代について、性・働き方別にみると、「知っており、利用したことがある」は正社員・正職員の女性で約3割（26.1%）と多く、非正規雇用の女性では約1割（11.9%）となっている。一方で、正社員・正職員の男性では1割未満（3.4%）となっており、非正規雇用の男性は回答者全員が「知っているが利用したことはない」となっている。



【利用意向】（周知度で「知っているが利用したことはない」、「はじめて聞いた」と回答した方）

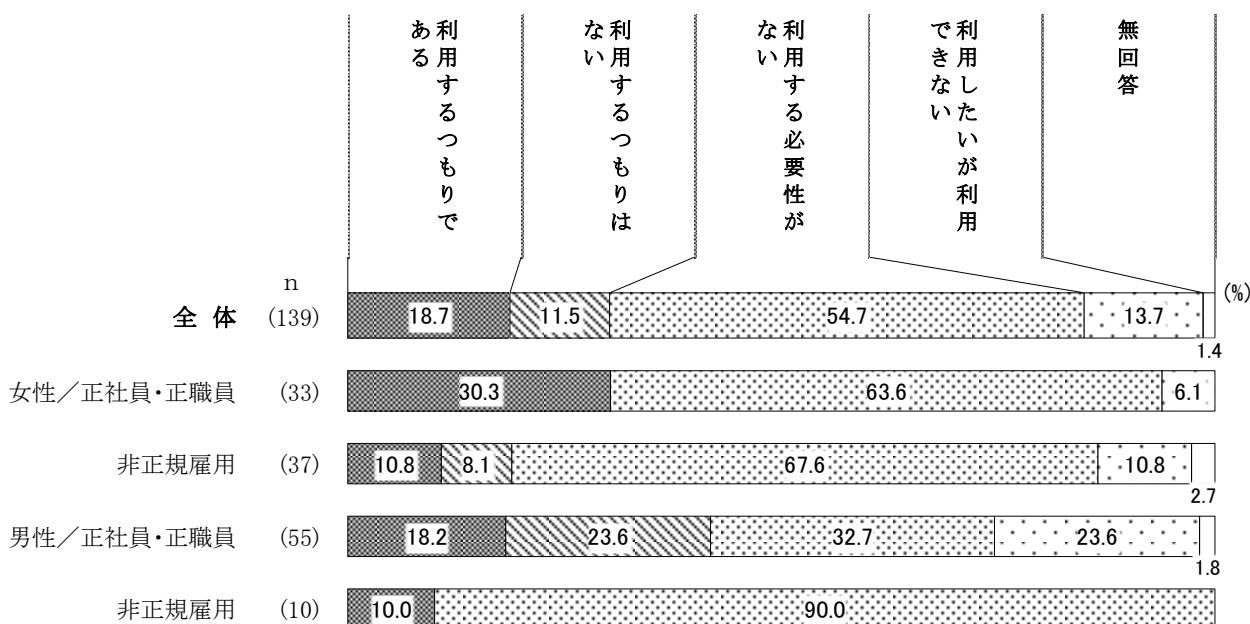
育児休業の利用意向について、「利用するつもりである」が約1割（11.2%）、「利用するつもりはない」が約1割（10.1%）、「利用したいが利用できない」が約1割（9.4%）となっており、回答が分かれた。一方で、「利用する必要性がない」は約7割（65.8%）を占めている。

性別にみると、「利用するつもりである」は男女ともに約1割、「利用するつもりはない」、「利用する必要性がない」の合計はともに7割台と多くなっているが、「利用するつもりはない」は男性が女性を約10ポイント上回っている。



■利用意向 性・働き方別（20代・30代・40代のみ）

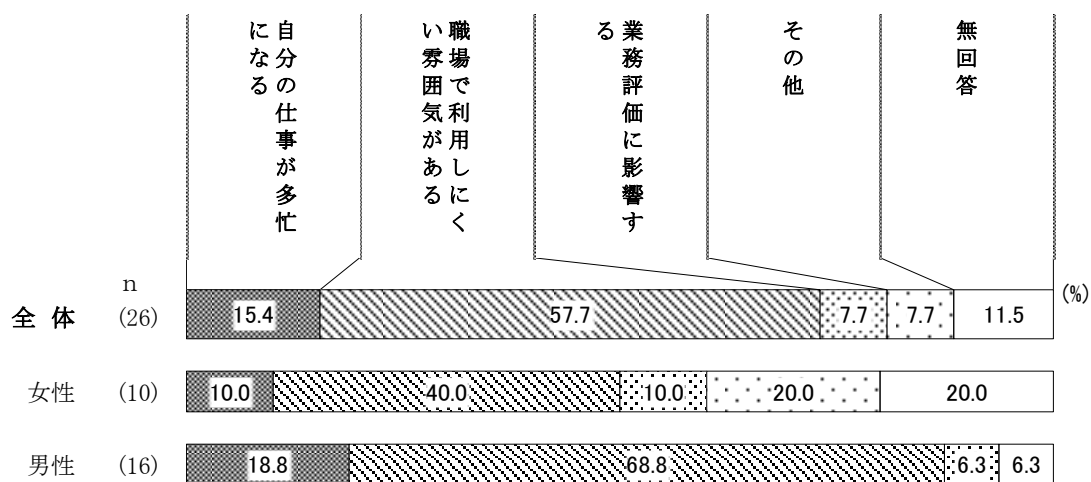
20代・30代・40代について、性・働き方別にみると、「利用するつもりである」は正社員・正職員の女性で約3割（30.3%）と比較的多くなっているが、「利用する必要性がない」が63.6%と過半数を占めている。正社員・正職員の男性は「利用するつもりである」が約2割（18.2%）、「利用する必要性がない」は約3割（32.7%）、「利用するつもりはない」と「利用したいが利用できない」はともに約2割（23.6%）となっている。



【利用できない理由】（利用意向で「利用したいが利用できない」と回答した方）

育児休業を利用できない理由について、「職場で利用しにくい雰囲気がある」が約6割（57.7%）を占めている。

性別について、回答者が少ないため参考にとみると、「職場で利用しにくい雰囲気がある」が女性で4割（40.0%）、男性で約7割（68.8%）と特に多くなっている。

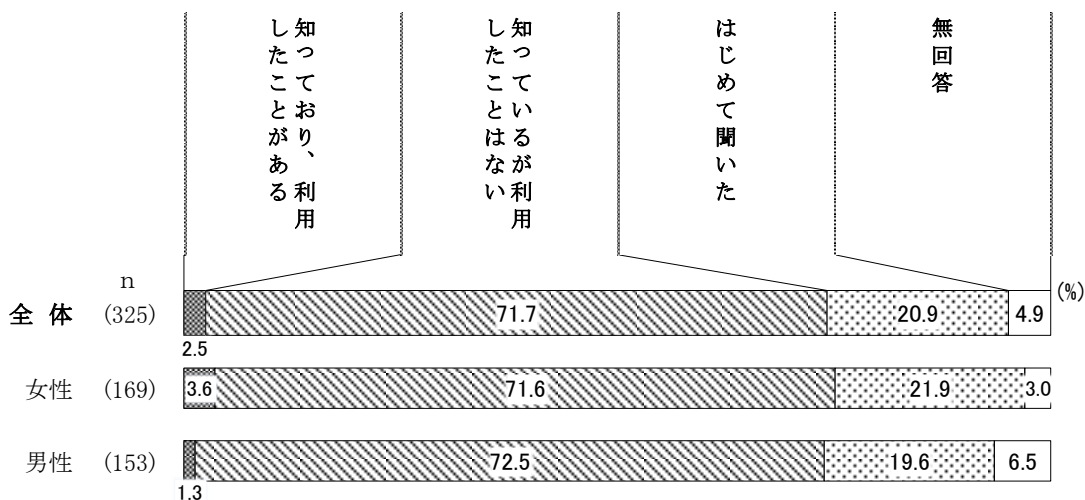


(2) 介護休業

【周知度】

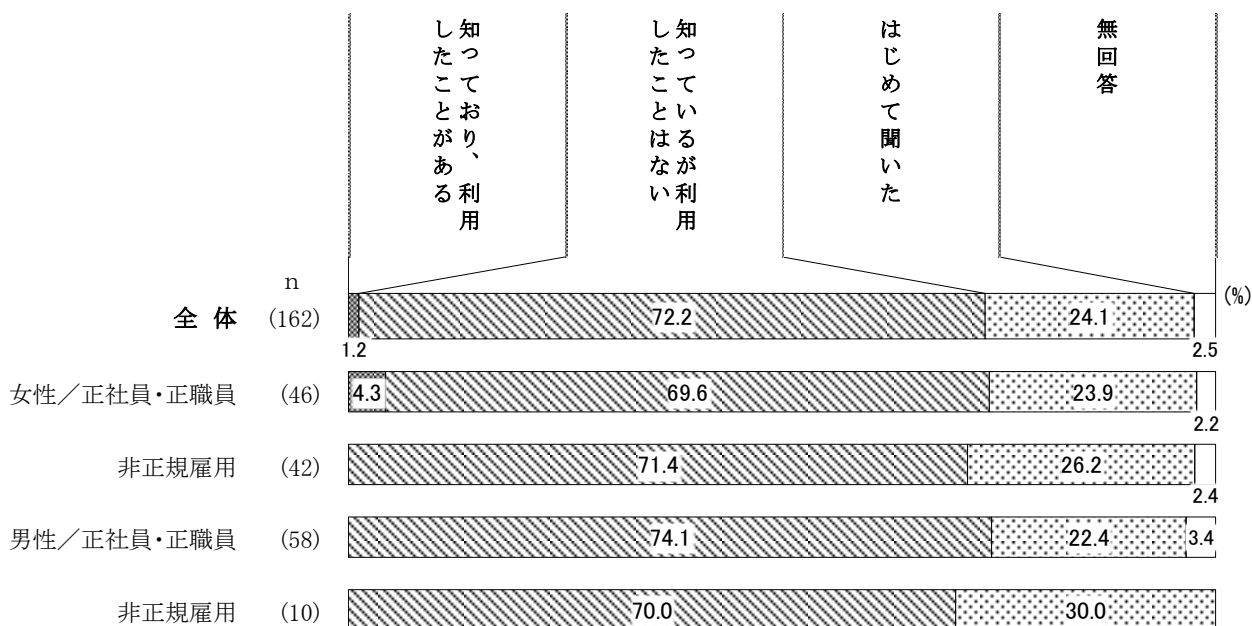
介護休業について、「知っているが利用したことはない」が約7割（71.7%）を占めており、「はじめて聞いた」は約2割（20.9%）となっている。

性別にみると、「知っており、利用したことがある」は男女ともに1割未満となっている。



■周知度 性・働き方別（20代・30代・40代のみ）

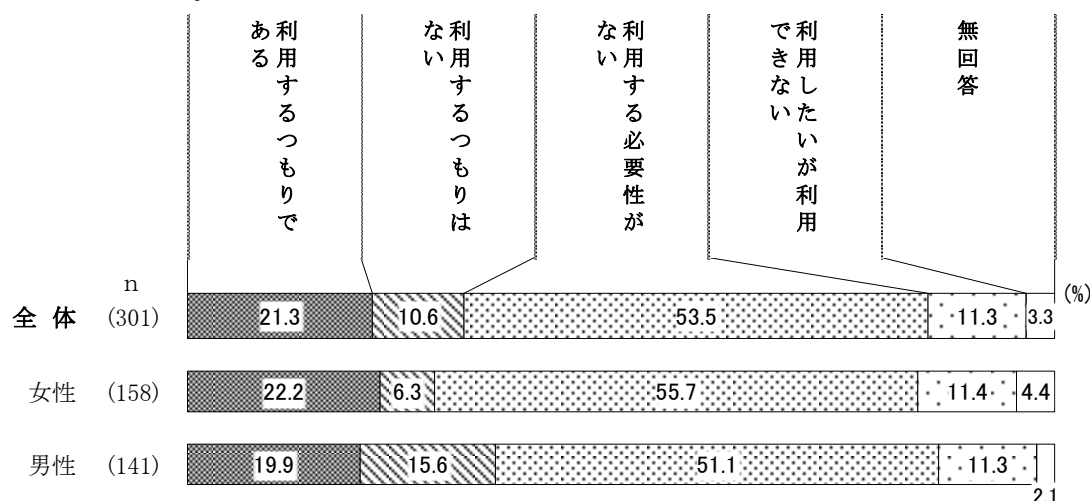
20代・30代・40代について、性・働き方別にみると、介護休業について全体で約2割（24.1%）が「はじめて聞いた」と回答している。「知っており、利用したことがある」は正社員・正職員の女性でのみ、わずかに回答があった。



【利用意向】（周知度で「知っているが利用したことはない」、「はじめて聞いた」と回答した方）

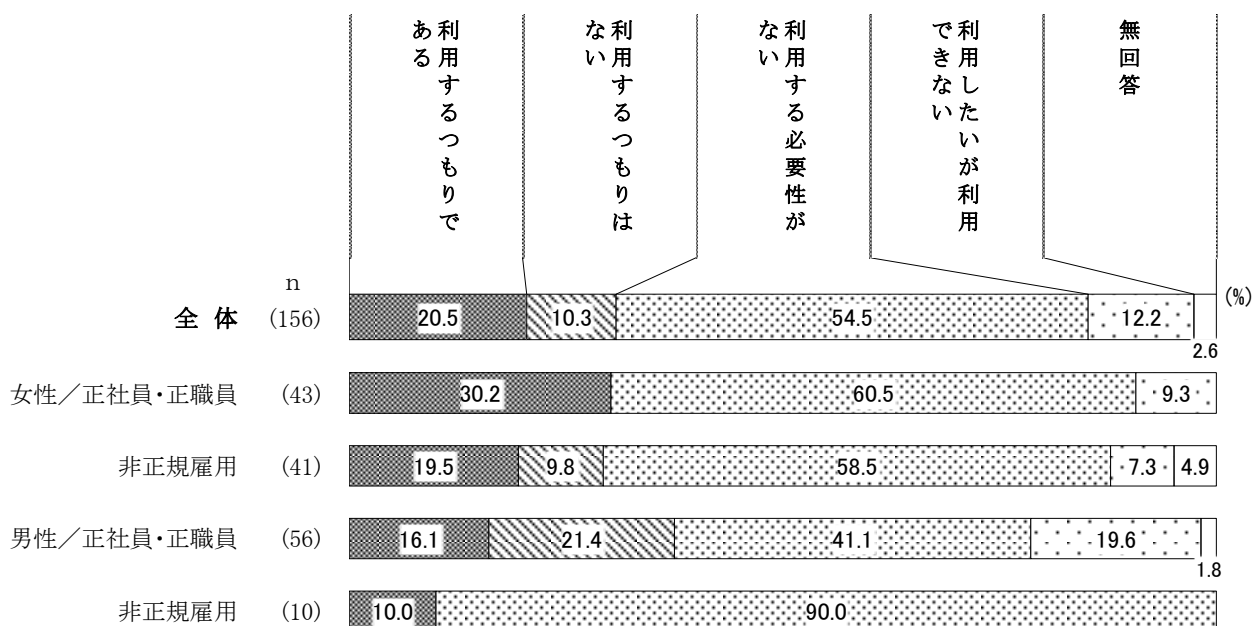
介護休業の利用意向について、「利用するつもりである」が約2割（21.3%）で育児休業より多くなっている。次いで「利用したいが利用できない」が約1割（11.3%）、「利用するつもりはない」が約1割（10.6%）となっている。

性別にみると、「利用するつもりである」は男女ともに約2割だが、「利用するつもりはない」は男性が女性を約9ポイント上回っている。「利用する必要性がない」は女性（55.7%）が男性（51.1%）を約5ポイント上回っている。



■利用意向 性・働き方別（20代・30代・40代のみ）

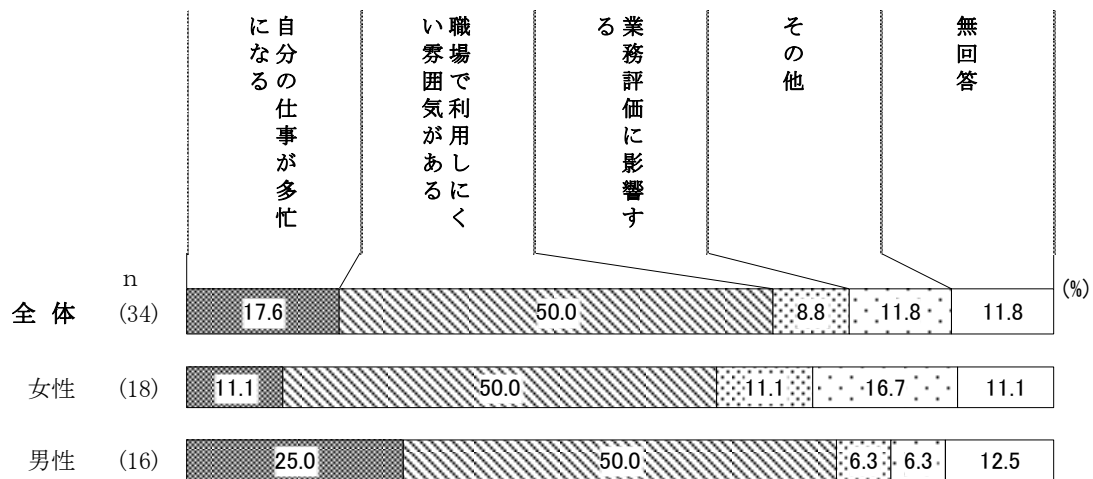
20代・30代・40代について、性・働き方別にみると、「利用するつもりである」は全体で約2割（20.5%）となっており、正社員・正職員の女性で約3割（30.2%）と多く、非正規雇用の女性、正社員・正職員の男性で約2割となっている。正社員・正職員の男性で「利用するつもりはない」と「利用したいが利用できない」もともに約2割となっている。一方で、非正規雇用の男性は回答者が少ないため参考にと、9割（90.0%）が「利用する必要性がない」と回答している。「利用する必要性がない」は、正社員・正職員、非正規雇用の女性で6割前後を占めているが、正社員・正職員の男性では約4割（41.1%）となっている。



【利用できない理由】（利用意向で「利用したいが利用できない」と回答した方）

介護休業を利用できない理由について、「職場で利用しにくい雰囲気がある」が5割（50.0%）と最も多くなっている。

性別について、回答者が少ないため参考にと、男女とも「職場で利用しにくい雰囲気がある」が半数を占めている。「自分の仕事が多忙になる」は、男性（25.0%）が女性（11.1%）を上回っている。



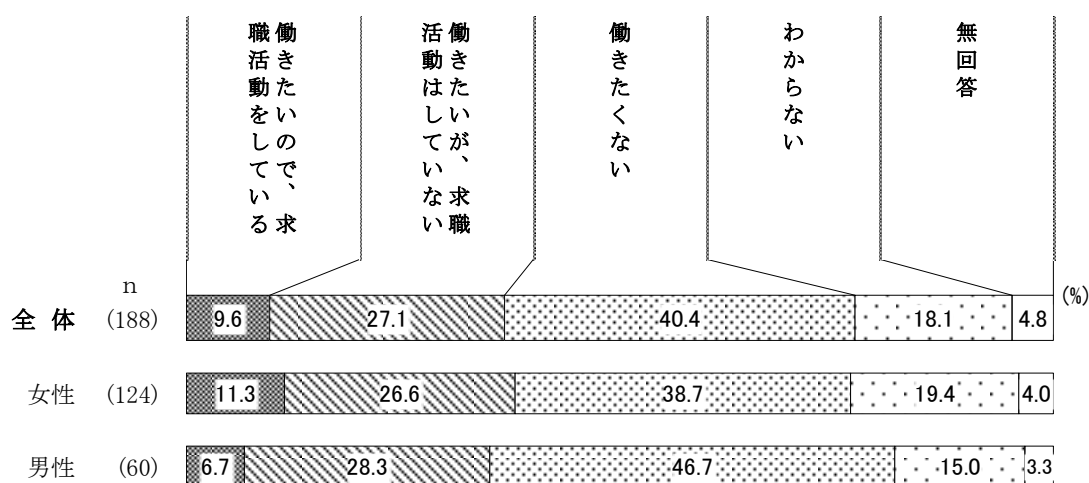
(10) 今後の就労意向（無職の方）

【問15で12~14と回答した方（無職の方）に、おたずねします】

問22 あなたは、これから働きたい（収入を伴う仕事をしたい）と思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

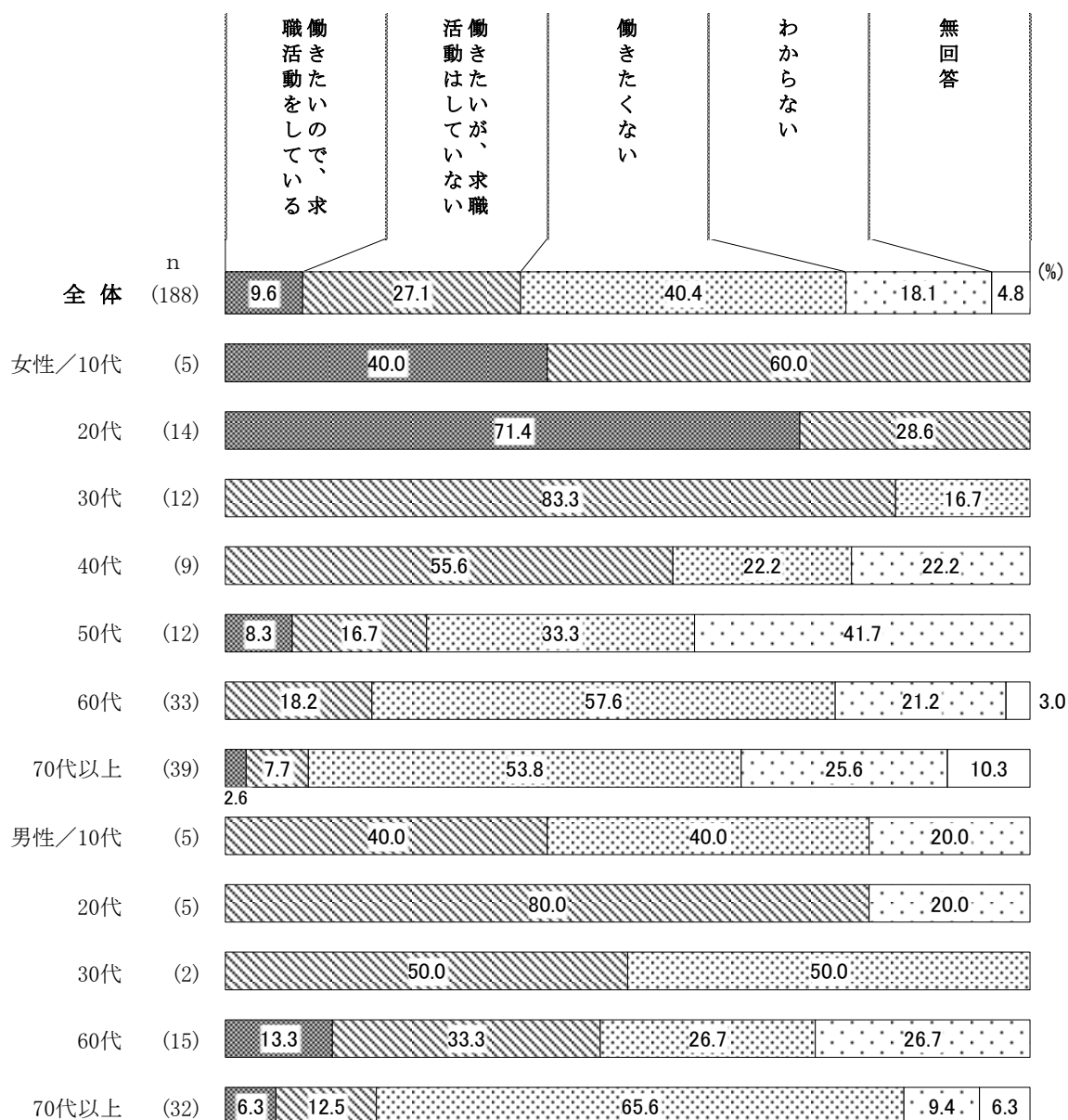
今後の就労意向について、「働きたくない」が約4割（40.4%）と最も多く、次いで「働きたいが、求職活動はしていない」約3割（27.1%）、「わからない」約2割（18.1%）となっている。「働きたいので、求職活動をしている」は約1割（9.6%）と最も少なくなっている。

性別にみると、「働きたくない」は男性が女性を8ポイント上回っている。



■今後の就労意向 性・年代別

高齢層以外の回答者が少ないため参考として性・年代別にみると、10代～20代の若年層は、女性で「働きたいので、就職活動をしている」との回答が見られた一方で、男性で回答した人はいなかった。「働きたいので求職活動をしている」は、60代の女性は回答が見られなかったが、男性では約1割(13.3%)となっている。



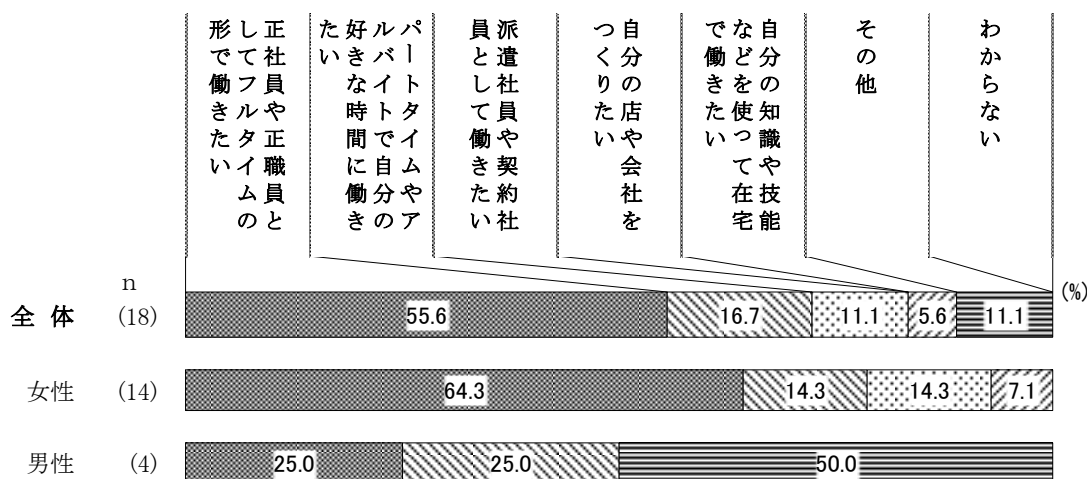
(11) 希望する働き方（無職の方）

付問 問22で1または2と回答した方におたずねします。どのような形で働くことを希望していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

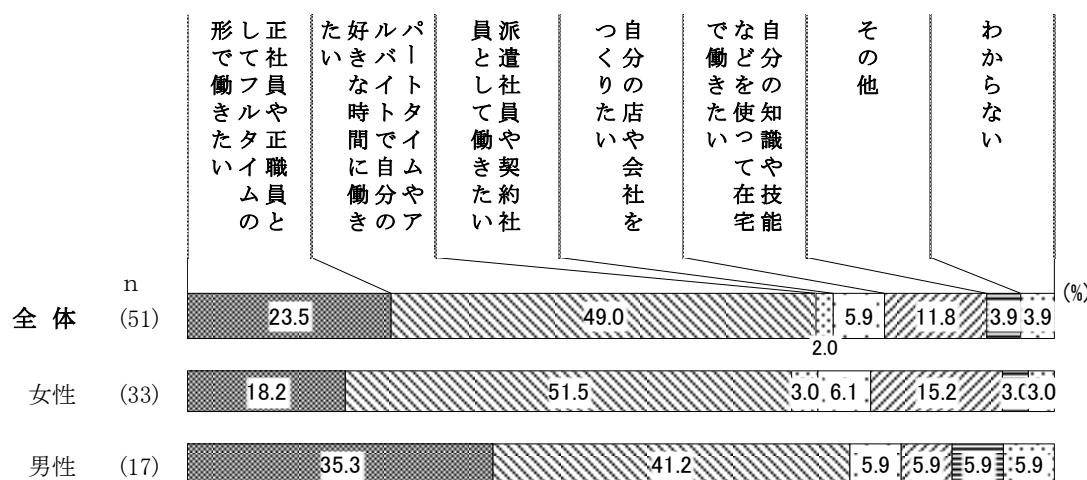
希望する働き方について、求職活動をしている人は回答者が少ないため参考にと、「正社員や正職員としてフルタイムの形で働きたい」が最も多くなっている。性別にみると、求職活動をしている女性で「正社員や正職員としてフルタイムの形で働きたい」が過半数を占めている。

求職活動をしていない人は「パートタイムやアルバイトで自分の好きな時間に働きたい」が約5割（49.0%）と最も多くなっている。性別にみると、「パートタイムやアルバイトで自分の好きな時間に働きたい」は、女性が男性を上回っている。

【問22で1「働きたいので、求職活動をしている」と回答した人】



【問22で2「働きたいが、求職活動はしていない」と回答した人】



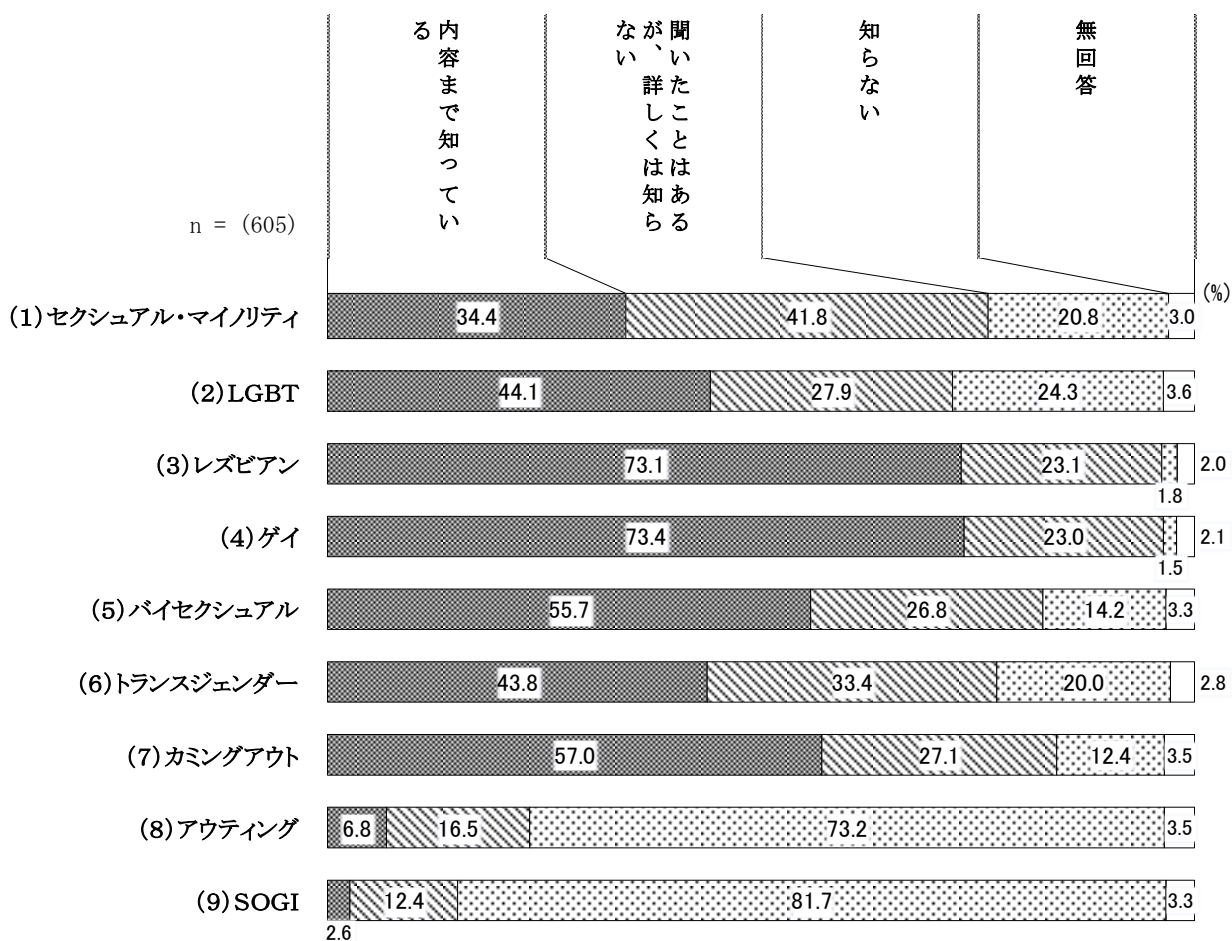
8. 性の多様性について

(1) 性的少数者に関する言葉の認知度

問23 あなたは、つぎの言葉や意味を知っていますか。(1)から(9)のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

性的少数者に関する言葉の認知度について、『LGBT』、『レズビアン』、『ゲイ』、『バイセクシュアル』、『トランスジェンダー』、『カミングアウト』は、「内容まで知っている」が最も多くなっている。特に『レズビアン』、『ゲイ』は「内容まで知っている」が約7割を占めており、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」と合わせると、知っていると回答した人が9割を超えている。

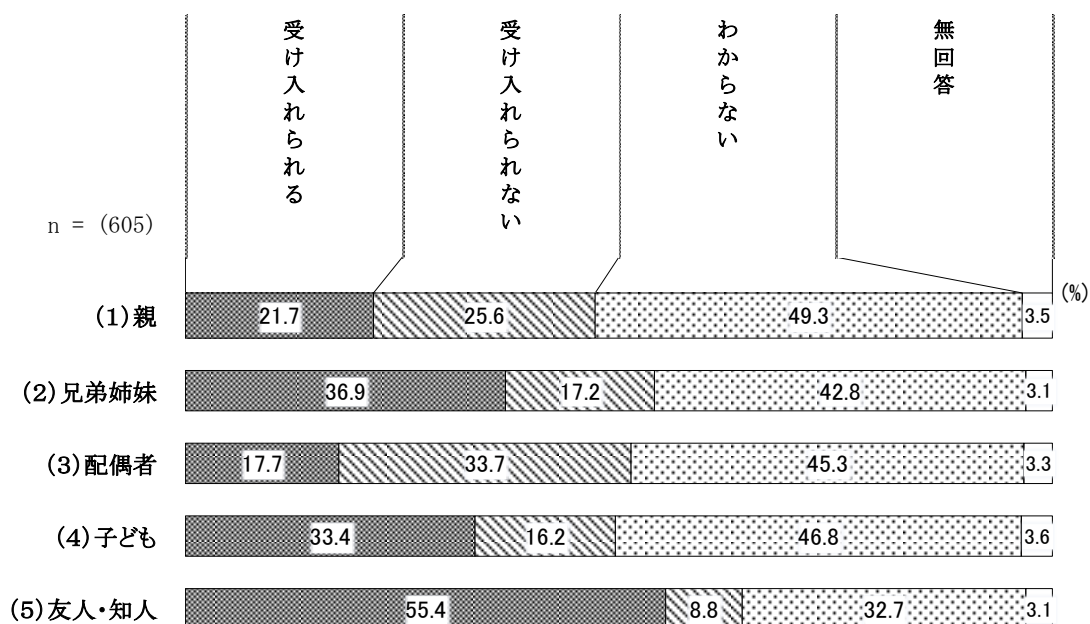
一方で、『アウティング』は約7割(73.2%)、『SOGI』は約8割(81.7%)が「知らない」と回答しており、「内容まで知っている」はともに1割未満である。『セクシュアル・マイノリティ』は「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が約4割(41.8%)と最も多くなっている。



(2) 同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性

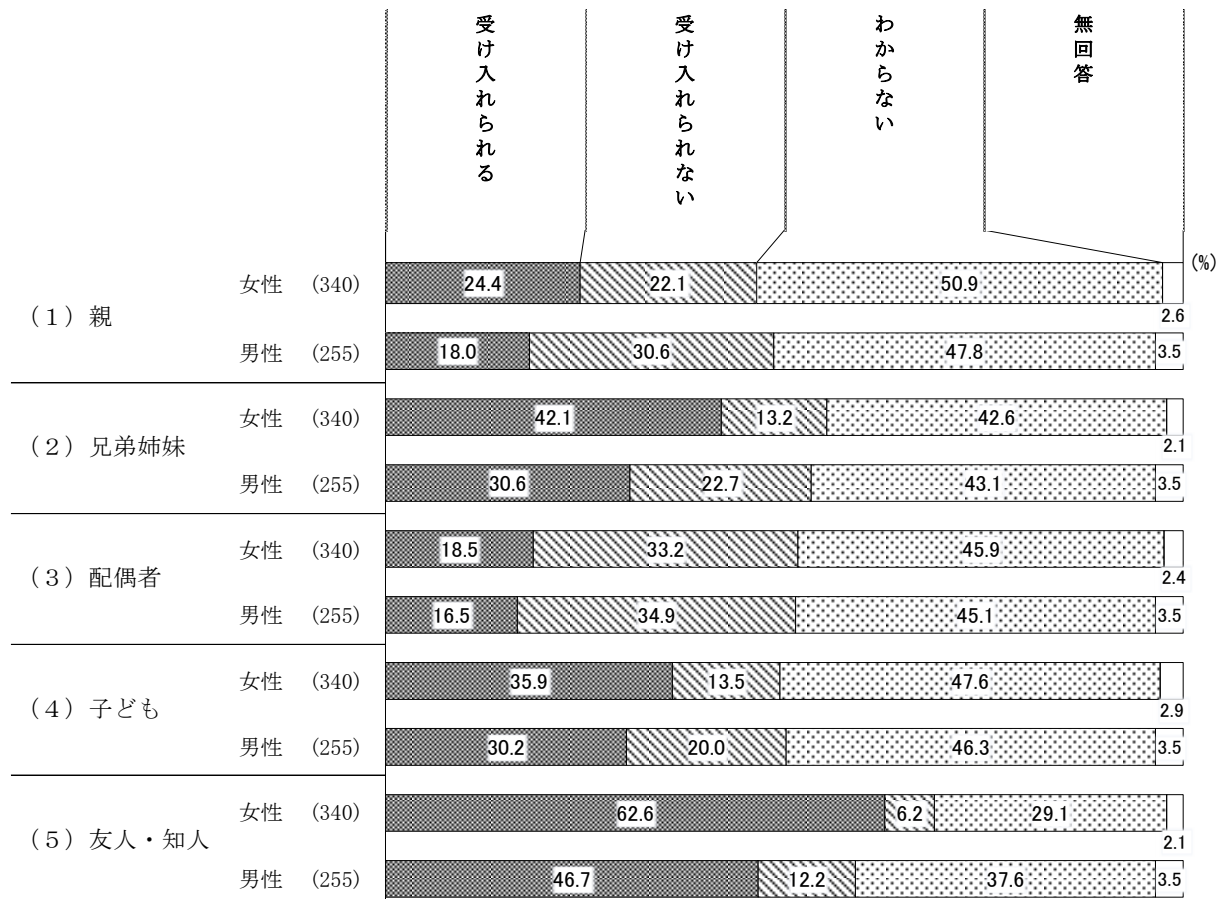
問24 あなたは、身近な人から、「同性が好きである」(同性愛者)や、「自分の性別に違和感を持っている」(トランスジェンダー)などと打ち明けられたとしたら、受け入れられますか。(1)から(5)のそれぞれについて、あてはまる番号1つずつに○をつけてください。

同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性について、『親』、『兄弟姉妹』、『配偶者』、『子ども』は、「わからない」が4割台と最も多くなっており、『友人・知人』では「受け入れられる」が約6割(55.4%)と最も多くなっている。「受け入れられる」は『友人・知人』に次いで『兄弟姉妹』が約4割(36.9%)、『子ども』が約3割(33.4%)、『親』、『配偶者』が約2割(21.7%、17.7%)となっている。「受け入れられない」は『配偶者』、『親』でともに約3割と比較的多くなっている。



■同性愛者やトランスジェンダーに対する寛容性 性別

性別にみると、すべての項目で「受け入れられる」は女性が男性より多く、「受け入れられない」は男性が女性より多い。「受け入れられる」は、『友人・知人』で女性が男性を約16ポイント、『兄弟姉妹』では約12ポイント上回っている。一方、「受け入れられない」は、『兄弟姉妹』で男性が女性を約10ポイント、『親』では約9ポイント上回っている。

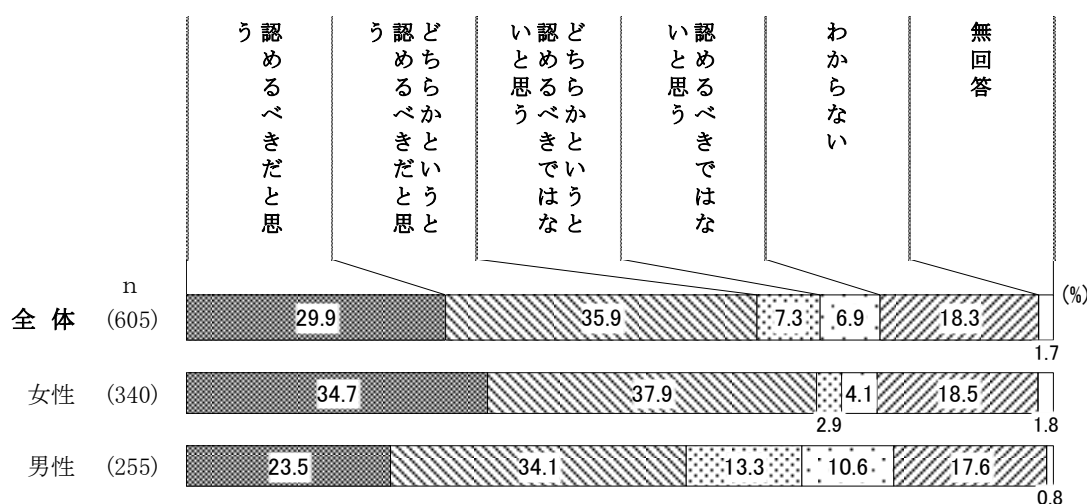


(3) 同性婚に対する賛否

問25 あなたは、同性婚についてどう思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

同性婚に対する賛否について、「どちらかというと思えるべきだと思う」が約4割（35.9%）と最も多く、次いで「認めるべきだと思う」約3割（29.9%）、「わからない」約2割（18.3%）となっている。＜認めるべきだと思う＞（「認めるべきだと思う」と「どちらかというと思えるべきだと思う」の合計）は約7割（65.8%）を占めている。また、＜認めるべきではないと思う＞（「認めるべきではないと思う」と「どちらかというと思えるべきではないと思う」の合計）は約1割（14.2%）となっている。

性別にみると、＜認めるべきだと思う＞は女性が約7割（72.6%）、男性が約6割（57.6%）で女性が男性を15ポイント上回っている。一方、＜認めるべきではないと思う＞は女性が約1割（7.0%）、男性が約2割（23.9%）で男性が女性を約17ポイント上回っている。

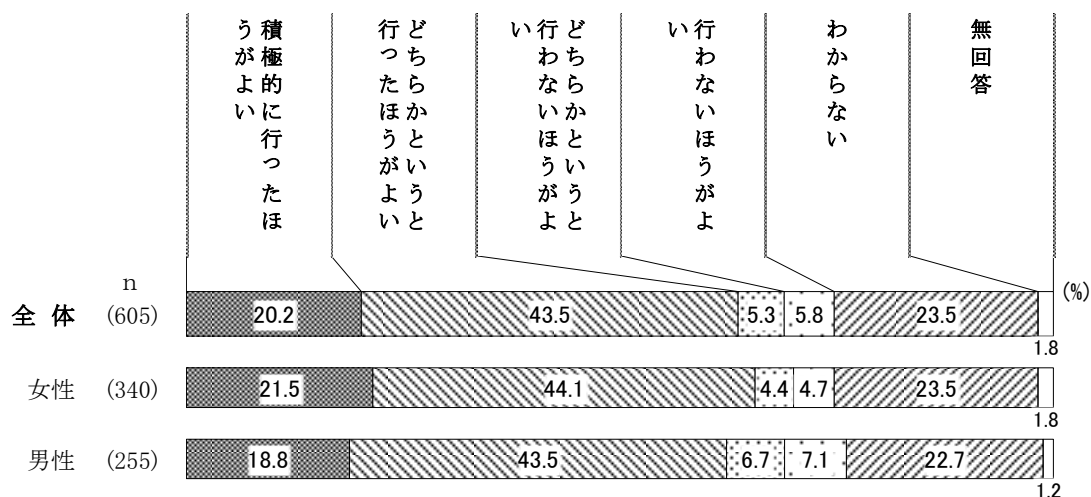


(4) 性の多様性を意識した指導に対する賛否

問26 学校でLGBTやSOGI（性的指向／性自認）など、性の多様性を意識した指導を教員が行うことについてどう思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

性の多様性を意識した指導に対する賛否について、「どちらかというに行ったほうがよい」が約4割（43.5%）と最も多く、次いで「わからない」約2割（23.5%）、「積極的にいったほうがよい」約2割（20.2%）となっている。＜行ったほうがよい＞（「積極的にいったほうがよい」と「どちらかというに行ったほうがよい」の合計）は約6割（63.7%）を占めている。また、＜行わないほうがよい＞（「行わないほうがよい」と「どちらかというに行わないほうがよい」の合計）は約1割（11.1%）となっており、「行わないほうがよい」と「どちらかというに行わないほうがよい」はそれぞれ5%程度となっている。

性別にみると、男女であまり大きな差はみられないが、＜行ったほうがよい＞は女性が男性をやや上回っており、＜行わないほうがよい＞は男性が女性をやや上回っている。



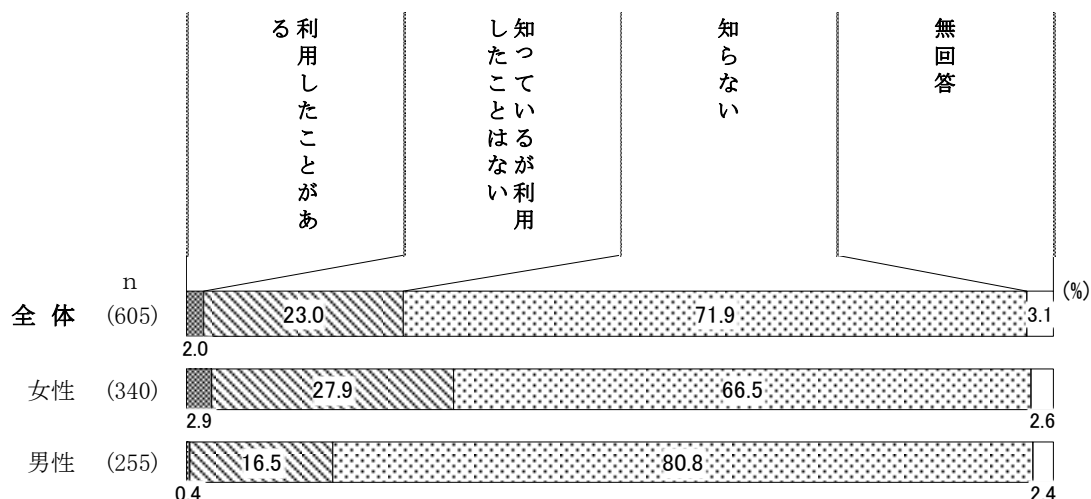
9. 男女平等・男女共同参画を進める市の施策について

(1) 「TAMA女性センター」の周知・利用について

問27 男女平等・男女共同参画を推進する総合的な拠点として京王線聖蹟桜ヶ丘駅前に「TAMA女性センター」が開設されてから20年がたちました。あなたは「TAMA女性センター」のことを知っていますか。また、利用したことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「TAMA女性センター」の周知・利用について、「知らない」が約7割（71.9%）を占めており、<知っている>（「利用したことがある」と「知っているが利用したことはない」の合計）は約3割（25.0%）となっている。

性別にみると、<知っている>は女性で約3割（30.8%）、男性で約2割（16.9%）となっており、「知らない」は女性で約7割（66.5%）、男性で約8割（80.8%）を占めている。「利用したことがある」は男女ともにわずかに回答がみられた。

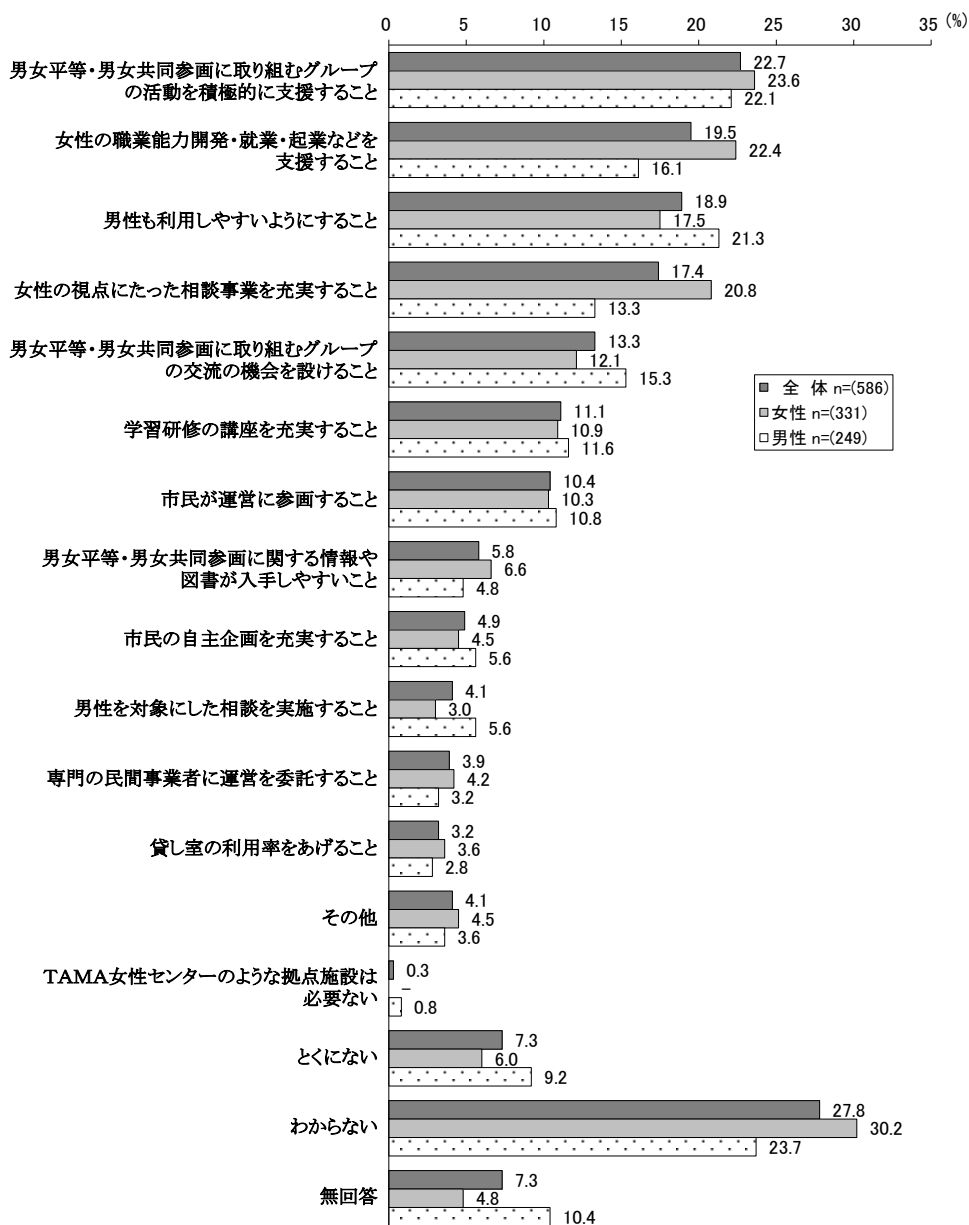


(2) 施設運営上の要望事項

付問1 あなたはTAMA女性センターの運営にどのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

施設運営上の要望事項について、「男女平等・男女共同参画に取り組むグループの活動を積極的に支援すること」が約2割(22.7%)と最も多く、次いで「女性の職業能力開発・就業・起業などを支援すること」約2割(19.5%)、「男性も利用しやすいようにすること」約2割(18.9%)となっている。また、「学習研修の講座を充実すること」、「市民が運営に参画すること」、「男女平等・男女共同参画に関する情報や図書が入手しやすいこと」など既存の取り組みについては1割前後となっている。一方で、「わからない」が約3割(27.8%)となっている。

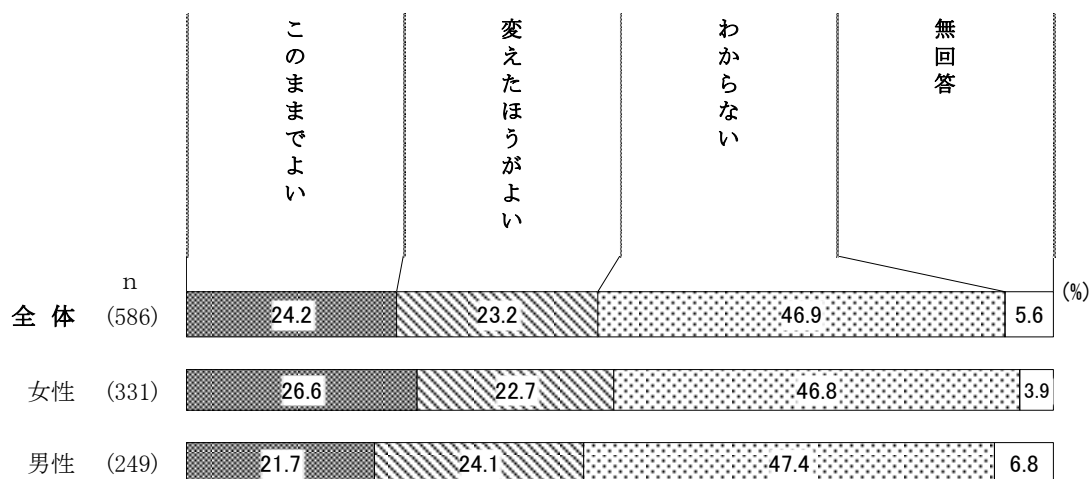
性別にみると、全体の上位3項目に加え、女性は「女性の視点にたった相談事業を充実すること」(20.8%)、男性は「男女平等・男女共同参画に取り組むグループの交流の機会を設けること」(15.3%)がともに約2割と多くなっている。



(3)「TAMA女性センター」の名称について

付問2 あなたは「TAMA女性センター」という名称について、どう思いますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

「TAMA女性センター」の名称について、「このままでよい」(24.2%)、「変えたほうがよい」(23.2%)が約2割で同程度となっている。一方で、「わからない」が約5割(46.9%)を占めている。性別にみると、「このままでよい」は女性が男性をやや上回っている。



(4)「TAMA女性センター」の以外の名称について

付問3 「TAMA女性センター」以外の名称で提案がありましたら、ご自由にお書きください。

「TAMA女性センター」以外の名称について、自由に記述していただいた。その結果、69人から回答が寄せられた。ここでは、記述された内容から各項目へと分類し、その件数を掲載する。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれの項目に分類している。

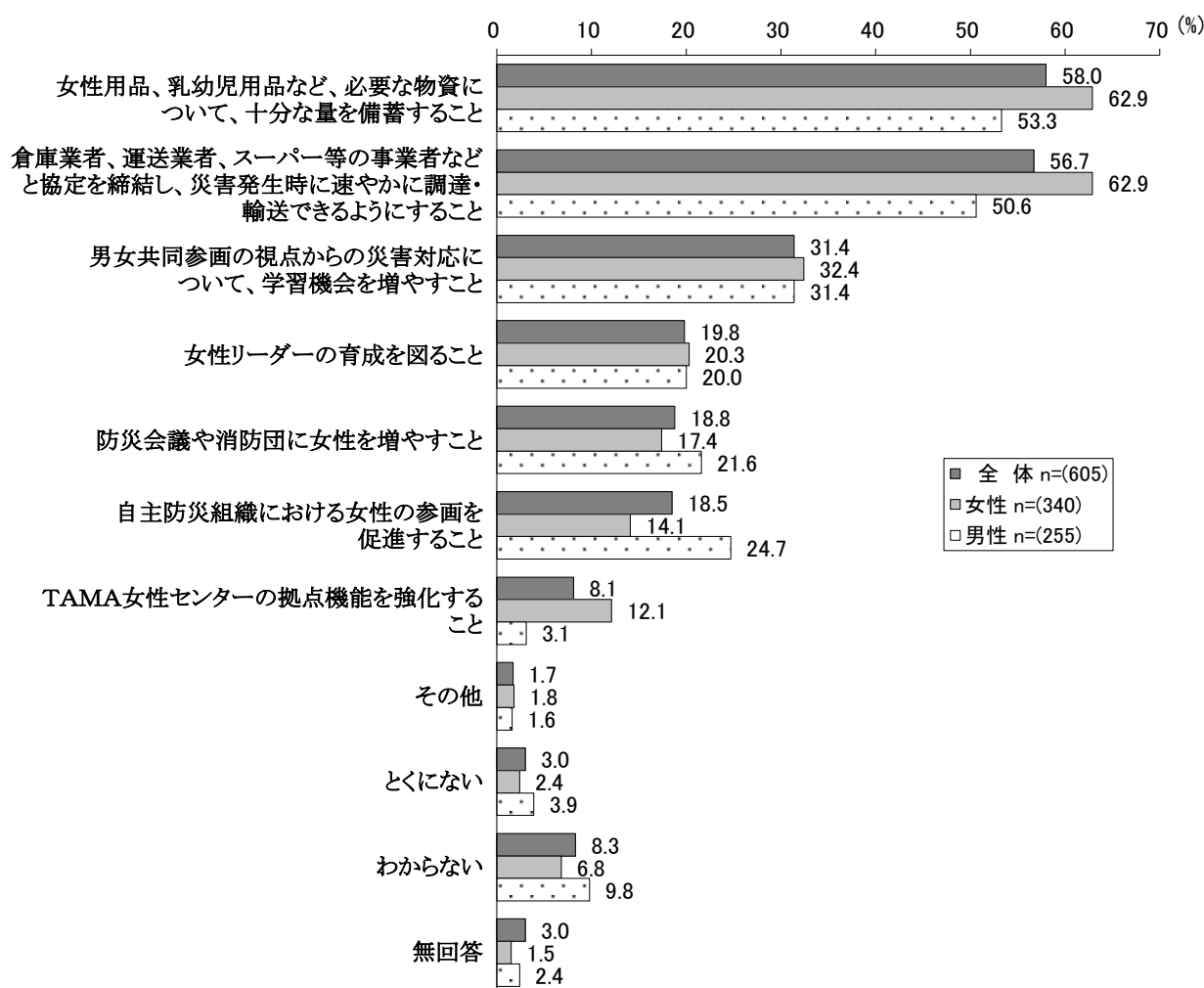
総計	
具体的な名称について	41
表記について	19
現状の名称について	9
その他	3

(5) 男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりに必要なこと

問28 「多摩市女と男の平等参画を推進する条例」では、男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりをすることが定められました。そのために、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

男女平等参画社会の視点に立った災害に強いまちづくりに必要なことについて、「女性用品、乳幼児用品など、必要な物資について、十分な量を備蓄すること」が約6割（58.0%）と最も多く、次いで「倉庫業者、運送業者、スーパー等の事業者などと協定を締結し、災害発生時に速やかに調達・輸送できるようにすること」約6割（56.7%）、「男女共同参画の視点からの災害対応について、学習機会を増やすこと」約3割（31.4%）となっている。

性別にみると、上位3項目は男女とも全体と同様になっている。女性は「女性用品、乳幼児用品など、必要な物資について、十分な量を備蓄すること」、「倉庫業者、運送業者、スーパー等の事業者などと協定を締結し、災害発生時に速やかに調達・輸送できるようにすること」がともに約6割（62.9%）と特に多くなっている。一方、男性は「自主防災組織における女性の参画を促進すること」が約2割（24.7%）と、女性を約11ポイント上回っている。

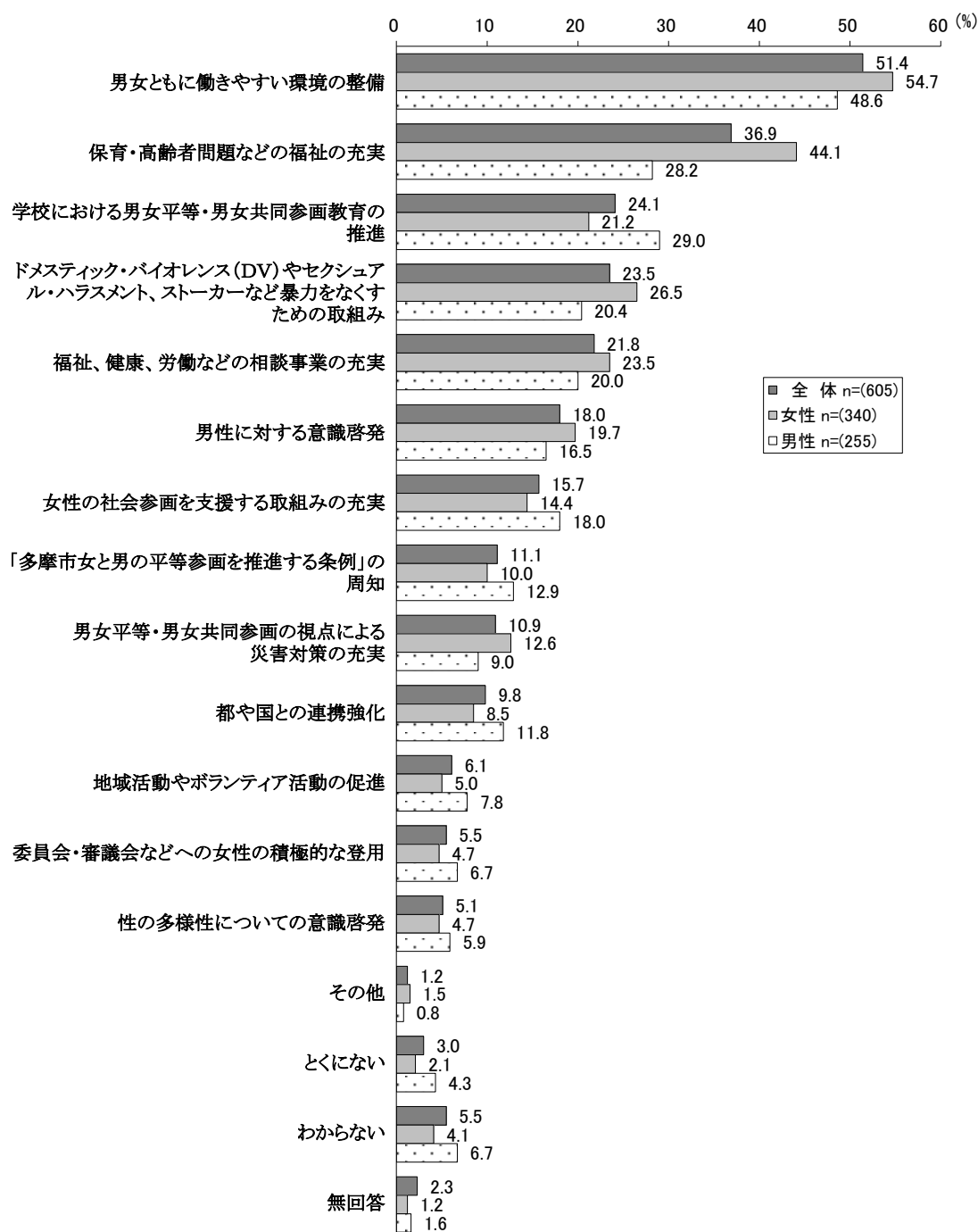


(6) 多摩市が推進する施策の力点

問29 これから多摩市が推進する男女平等・男女共同参画施策のうち、どのようなことに力を入れていったらよいと思いますか。あてはまる番号に3つまで○をつけてください。

多摩市が推進する施策の力点について、「男女ともに働きやすい環境の整備」が約5割（51.4%）と最も多く、次いで「保育・高齢者問題などの福祉の充実」約4割（36.9%）、「学校における男女平等・男女共同参画教育の推進」約2割（24.1%）、「ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメント、ストーカーなど暴力をなくすための取組み」約2割（23.5%）となっている。

性別にみると、「保育・高齢者問題などの福祉の充実」は、女性（44.1%）が男性（28.2%）を大きく上回っている。



■多摩市が推進する施策の力点 性・年代別

性・年代別にみると、「男女ともに働きやすい環境の整備」は、女性は20代で約8割（83.3%）と最も多く、男性20代でも7割（70.0%）と多くなっている。「DVなど暴力をなくすための取組み※」は、女性20代、30代で約4割と多くなっている。また、「保育・高齢者の福祉の充実」は女性20代、30代の若年層と、女性60代、70代以上の高齢層で約5割と多くなっている。

※「ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクシュアル・ハラスメント、ストーカーなど暴力をなくすための取組み」

	調査数	男女ともに働きやすい環境の整備	保育・高齢者の福祉の充実	進同参画教育の推進	学校における男女平等・男女共	組なくすための暴力を	DVなど暴力をなくすための取組み	業の充実	福祉、健康、労働などの相談	識啓発	男性に対する意識啓発	女性の社会参画を支援する取組みの充実	周知	「多摩市男女と男の平等参画を推進する条例」の	の充実	共同参画の視点による災害対策	男女平等・男女
全体	605	51.4	36.9	24.1	23.5	21.8	18.0	15.7	11.1	10.9							
女性（計）	340	54.7	44.1	21.2	26.5	23.5	19.7	14.4	10.0	12.6							
10代	6	66.7	-	50.0	16.7	33.3	-	-	16.7	33.3							
20代	48	83.3	47.9	14.6	35.4	12.5	22.9	14.6	8.3	4.2							
30代	40	57.5	45.0	15.0	37.5	15.0	17.5	12.5	12.5	22.5							
40代	51	51.0	33.3	21.6	21.6	21.6	27.5	15.7	9.8	7.8							
50代	57	49.1	42.1	26.3	28.1	22.8	19.3	21.1	15.8	7.0							
60代	77	50.6	49.4	19.5	20.8	24.7	24.7	14.3	7.8	16.9							
70代以上	61	42.6	49.2	24.6	23.0	37.7	8.2	9.8	6.6	14.8							
男性（計）	255	48.6	28.2	29.0	20.4	20.0	16.5	18.0	12.9	9.0							
10代	5	40.0	20.0	20.0	-	-	-	20.0	20.0	-							
20代	20	70.0	25.0	25.0	25.0	20.0	10.0	20.0	10.0	10.0							
30代	37	45.9	29.7	24.3	29.7	13.5	8.1	10.8	13.5	8.1							
40代	30	60.0	16.7	23.3	23.3	26.7	20.0	23.3	3.3	10.0							
50代	39	46.2	23.1	23.1	15.4	20.5	17.9	23.1	15.4	12.8							
60代	60	48.3	33.3	38.3	21.7	25.0	18.3	16.7	16.7	6.7							
70代以上	63	39.7	33.3	31.7	15.9	15.9	20.6	17.5	12.7	9.5							

	調査数	強化都や国との連携	地域活動やボランティア活動の促進	委員会・審議会などへの女性の積極的な登用	性の多様性についての意識啓発	その他	とくにならない	わからない	無回答
全体	605	9.8	6.1	5.5	5.1	1.2	3.0	5.5	2.3
女性（計）	340	8.5	5.0	4.7	4.7	1.5	2.1	4.1	1.2
10代	6	-	16.7	-	-	-	-	16.7	-
20代	48	4.2	6.3	10.4	10.4	2.1	2.1	-	-
30代	40	12.5	5.0	-	7.5	-	-	2.5	2.5
40代	51	2.0	2.0	3.9	9.8	3.9	3.9	3.9	2.0
50代	57	8.8	1.8	5.3	3.5	-	-	3.5	-
60代	77	6.5	6.5	5.2	-	2.6	3.9	3.9	1.3
70代以上	61	18.0	6.6	3.3	1.6	-	1.6	8.2	1.6
男性（計）	255	11.8	7.8	6.7	5.9	0.8	4.3	6.7	1.6
10代	5	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	-
20代	20	5.0	5.0	-	20.0	5.0	5.0	5.0	-
30代	37	2.7	5.4	2.7	8.1	2.7	8.1	13.5	2.7
40代	30	20.0	6.7	6.7	10.0	-	-	6.7	-
50代	39	10.3	5.1	7.7	5.1	-	7.7	7.7	-
60代	60	16.7	8.3	13.3	1.7	-	1.7	1.7	1.7
70代以上	63	11.1	12.7	4.8	1.6	-	3.2	7.9	3.2

10. 男女平等・男女共同参画について

(1) 男女共同参画についての感想と希望

問30 あなたが日頃、家庭や教育、職場などで男女平等・男女共同参画について感じていること、多摩市の男女平等・男女共同参画施策について望むことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

日頃、家庭や教育、職場などで男女平等・男女共同参画について感じていること、多摩市の男女平等・男女共同参画施策について望むことを自由に記述していただいた。その結果、115人からのべ131件の回答が寄せられた。ここでは、記述された内容から各項目へと分類し、その件数を掲載する。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、複数回答として、それぞれの項目に分類している。

総 計	
男女平等・男女共同参画について	41
職場・就労環境について	21
意識啓発や、相談事業について	14
保育・育児について	13
市への要望	8
学校教育について	7
家庭生活・親のあり方について	6
調査・アンケート内容について	4
広報・情報公開について	3
地域社会活動について	2
高齢者施策・介護・医療について	1
その他	11